

698
5

698-95



1200501581705

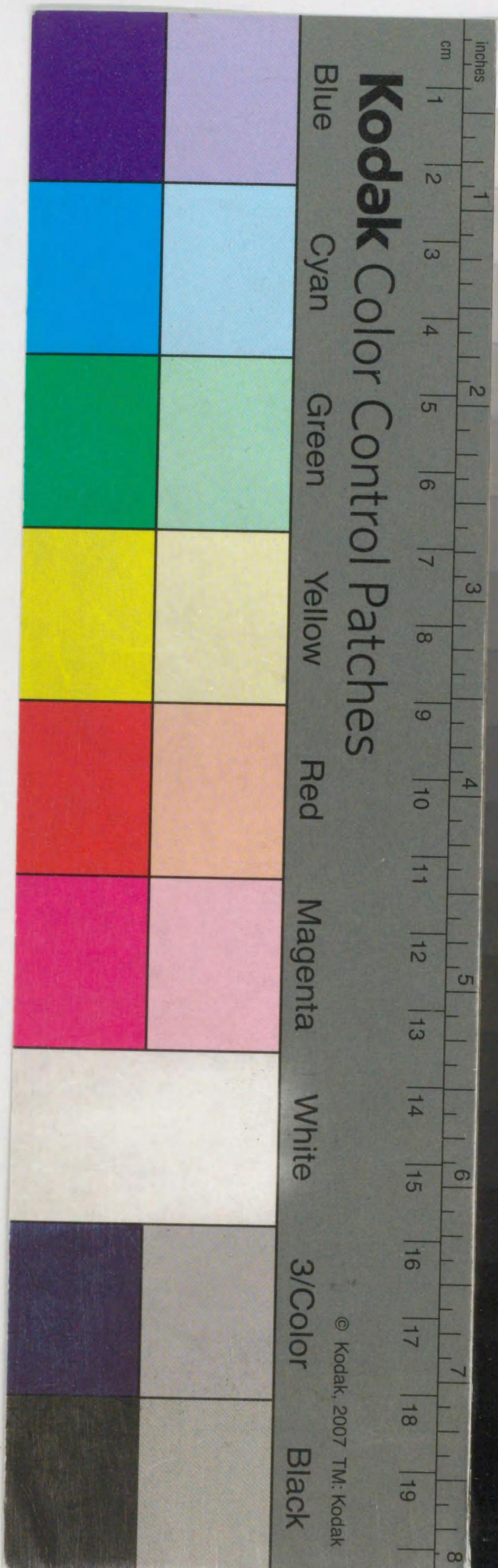
Kodak Gray Scale

C **Y** **M**

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches



© Kodak, 2007 TM: Kodak

33.11.15



紀伊國名所圖會

上卷



自序

我が紀伊國は上古より水陸自然の美に富みて千態萬化の景勝は所々に點綴し名所舊蹟の多き故に他に其比を見ず況んや氣候概ね温和なるが訪ふ人々四時絶ゆるなく殊に神武帝鴻業の發祥地たるのみならず聖天子の御幸も亦屢次にして著名なる史蹟従つて多し寛政十二年秋九月在田の出北畠恪齋初めて熊野遊記と出版せしは即ち名所圖會の嚆矢にして後十年紀府青雲殿堂主人高市志友により紀伊國名所圖會二編十卷の出版と敢行し三編及び後編は弘化二年加納諸平藩命と奉じて之を編纂すと雖此の書未だ年婁郡と上本するに至らざりき因て本書は西國三十三所名所圖會より之を補いて紀伊各郡と完備せしめ尚散逸を慮りて三卷に縮刷し或は目次を施して所見に便する等多くの改良を加へて茲に上梓せり

昭和十一年丙子仲冬

貞貞志學草

識

九例

一 此書の専ら一國一覽に便あることを擬し然りとす尤國界封域の廣大なる區佳境の繁多なるを舉ぐて盡すにあらば初篇の尤名草海志の二郡たよび那賀郡の内貴志川の西を限らば根來山までとせり行旅の備細にあらば是と載つても巡路の歴とる眼涯の及際ハ叢祠茅舎とるも遺脱とる事あることと一且往來草名草郡あり一公のら海士に屬する所ありて地の廣狹均しゆらば控のあり一郡兩卷に亘るものあり其初に界圖とせり大分縁界とるもなほはる同下に瞭然とる神社に都々延喜式神名帳と奉とす以上古より歴然とるさうらも言はれぬ盛ん々後ハ表へるも必は是と審らばんがあらば況や當國ハ神代の遺跡多く國界に載る不往々にしとあつとと中葉以後牧火は灰燼し爰と

煙没して地をざん考へるも其の山の名水の名田園の稱呼或ハ里老の碑までも文へて悉心思考とせし後人の搜索に便せんや正史を以て證たり且郷里ハ春請とるところの神祠とるも一村の生土神とするものハ其由や四季の祭祀あるに至るまで一く是ハ載らば社と稱するもの大なる神代のむらより建つるなり又た度ノ寺院のごとく動じり千有餘年の星霜と傳るものあり共物もよき表裏真偽ありて或ハ回祿ハ羅て荒れし騷亂より移るに沿革あると不社是にしろ著るに圖ハるく當今の景勝とるも其ハ写真なり地ハ畫映ありて紙ハ大小あり故ハ地廣大なるもの其界に隨て細密ありとるをりて圖毎に人物分出せりその形の大いに其廣狹と想へり

一 圖中人物の地圖を知るの其地と關係する怪談奇話佛説
 おのほく古書にみえんと交りて兒童の次神を懸てんをわたり
 此等や自ら經歷して履跡のふたふた懸光物の紀行を以て考
 考し更ニ校訂を加へ諸書に引證し其田跡名勝古今の
 するごとく必研究せしむ置たふをのりし書日本紀と如し
 凡國典に載るる古曲の終する所野史傳説といふも如て
 後編してこれに考ふるはね多し代々の採集詩賦は名所の
 文集其地の連歌俳諧歌の採集を以て其先人の集中
 よう抄あつてつてし神御佛刹の起る所社司寺僧の記する
 下まゝの老田夫の傳る下まゝを其実あるを採くをと考く
 の其考證りて凡俗を以て奇怪めり愚昧を以て
 ざるを以てこれを取らざるはりて神傳の室中にて
 佛像の傍中にあつたりたりて七八と省けり

紀伊國名所圖會上卷目次

後編一卷

山口驛より御城と望む圖	一	京橋御門 鈴木孫市故居	一九
府城	三	産物 本の字饅頭	一九
本町御門	五	鍛冶戸 雑賀鉢 金買里	二〇
宇治	六	昌平河岸	二
節婦 宍子故居	七	柳樹	二四
惺齋先生 客居地	七	詔賢山 正住寺	二四
産物 粕漬	八	湊橋御門	二五
本町御門の外廣小路の圖	九	昌平河岸 夜店の圖	二六
本町五丁目 新屋酒店	二	學習館 全圖	二九
納屋河岸の圖	五	駿河 學習館	三三
駿河屋酒店	七	力士 蓮井象之助 碑	三三
納屋河岸、京橋	九	湊築地	三三

漁者	三	吹上御門	五四
湊築地の景	三五	吹上冠木御門	五四
蛭子神社祭	三七	追廻邊往來の圖	五六
産物 鮪	四〇	扇の芝	五七
産物 簾貝	四〇	堂形の圖	五九
吹上御別野の舊跡	四一	追廻御門	六一
櫻女樹	四四	扇の芝	六一
大手御門邊の圖	四五	高石垣の畧圖	六三
吹上御門邊の圖	四八	岡口御門邊の圖	六六
鶴の溪 檜椿の圖	四九	岡口御堀の鯉と見る圖	六七
鶴の溪	五一	高石垣	七〇
八重檜椿の圖	五二	岡口御門	七〇
一重檜椿の圖	五三	城池の鯉	七一
大手御門	五四	和歌道	七一

里宮山無量光寺	七四	初編一卷上 和歌山	九三
車坂福荷社	七四	三神木種と布き給ふ圖	九三
浅草文庫印	七五	郡分之事	九六
日前宮除夜参詣	七六	國産之事	九八
和歌道より御城を望む圖	七九	江南歌	一〇一
車坂稻荷社の圖	八二	名草郡	一〇二
除夜日前宮裸参の圖	八三	和歌山	一〇二
廣瀬大橋邊群集す	八三	神武皇帝名草戸畔を	一〇三
新大工町土井呉服店	八五	男水門	一〇六
吳六五官肖像	八七	片岡の里	一〇八
田中蜜柑市の圖	八九	刺田比古神社	一〇八
田中市	九一	岡の宮、松生院、珊瑚寺圖	一一三
熊野路一里塚	九一	向陽山松生院蘆邊寺	一一五
國號之事	九二	藤井の宮舊跡	一二八

仙境山珊瑚寺	一元	皆句葉の里、菊本橋跡	一三一
大井泉	一元	四方の嵐松園	一三二
廣澤池舊地	一元	四方の嵐の穂蓼	一三三
國津輪坂	二〇	名産麻地酒	一三四
南嶽山禪林寺	二〇	岡東離宮	一三四
原見坂	二〇	岡見山念誓寺	一三四
常住山感應寺	二五	大橋	一三五
感應寺、原見坂園	二七	念誓寺、宮の檀園	一三五
禪林寺、車坂園	二七	久成寺、多門院園	一三六
本久寺、四方山風園	二七	念誓寺、上願寺園	一三七
菊本橋、葛輪里園	二七	光秀寺、宮の檀園	一三七
遍照山延命院普賢寺	三〇	大橋、時鳥松、大立寺園	一三七
万部山本久寺	三三		
津田山普門寺塩道村	三三		

勅使橋、藤六町	三九	東光山栗源院藥師寺	一五〇
善見山金剛院功德寺	三九	御材木町、休賀ヶ淵	一五〇
永久山覺林寺般若院	四〇	光明山法泉院真光寺	一五〇
寶珠山久成寺	四〇	真光寺の園	一五一
松尾山多門院大山寺	四〇	瑞龍山林泉寺	一五三
代神樂、吳五官小路	四〇	向ふか坪	一五四
廣瀨山無邊院大立寺	四〇	瑞雲山龍源禪寺	一五四
郭公松	四二	淨刹山光臺院法蓮寺	一五四
時鳥松園	四三	東曜山萬精院鈴丸寺	一五四
感應寺舊趾	四三	鈴丸橋、龍源禪寺園	一五五
納良瀨	四四	法蓮寺、萬精院園	一五五
金剛山常住院遍照寺	四四	御勢橋、圓福院、崇賢寺園	一五五
洪福山宣經寺	四四	御伊勢橋	一五七
日前宮七瀨御杖の其一園	四九	七曜山圓福院妙見寺	一五八

中島山崇賢寺	一五	猿田彦大神祠	一六	天王の森、國津神社	一六	古堤、傾城ヶ淵、溜池	一六	徳勒津、八幡宮	一六	天王の森、國津の祠	一六	傾城ヶ淵	一六	五行の辻	一六	法輪山正覺院阿彌陀寺	一六	護國山空遍院大聖寺	一六	志摩神社、八幡宮	一六						
金毘羅大権現	一五九	入願寺、大聖寺	一五九	阿彌陀寺、法隆寺	一六〇	明見寺、觀音寺	一六一	金毘羅祠	一六一	入願寺	一六一	興福山醫王院法隆寺	一六一	金龍山五大院明見寺	一六一	長束山龍護院安樂禪寺	一六一	向陽山蓮華院淨福寺	一六一	淨福寺、養光寺	一六一	觀音寺、千手院	一六一	興隆山普門院養光寺	一六一	紫雲山千手院弘誓寺	一六一
志摩神社	一五九	猿田彦祠、辨財天祠	一六〇	入願寺	一六〇	興福山醫王院法隆寺	一六〇	金龍山五大院明見寺	一六〇	長束山龍護院安樂禪寺	一六〇	向陽山蓮華院淨福寺	一六〇	淨福寺、養光寺	一六〇	觀音寺、千手院	一六〇	興隆山普門院養光寺	一六〇	紫雲山千手院弘誓寺	一六〇						
八幡宮祠	一六〇	入願寺	一六〇	明見寺、觀音寺	一六一	金毘羅祠	一六一	入願寺	一六一	興福山醫王院法隆寺	一六一	金龍山五大院明見寺	一六一	長束山龍護院安樂禪寺	一六一	向陽山蓮華院淨福寺	一六一	淨福寺、養光寺	一六一	觀音寺、千手院	一六一	興隆山普門院養光寺	一六一	紫雲山千手院弘誓寺	一六一		
猿田彦大神祠	一六一	明見寺、觀音寺	一六一	金毘羅祠	一六一	入願寺	一六一	興福山醫王院法隆寺	一六一	金龍山五大院明見寺	一六一	長束山龍護院安樂禪寺	一六一	向陽山蓮華院淨福寺	一六一	淨福寺、養光寺	一六一	觀音寺、千手院	一六一	興隆山普門院養光寺	一六一	紫雲山千手院弘誓寺	一六一				
天王の森、國津神社	一六一	金毘羅祠	一六一	入願寺	一六一	興福山醫王院法隆寺	一六一	金龍山五大院明見寺	一六一	長束山龍護院安樂禪寺	一六一	向陽山蓮華院淨福寺	一六一	淨福寺、養光寺	一六一	觀音寺、千手院	一六一	興隆山普門院養光寺	一六一	紫雲山千手院弘誓寺	一六一						
古堤、傾城ヶ淵、溜池	一六一	入願寺	一六一	興福山醫王院法隆寺	一六一	金龍山五大院明見寺	一六一	長束山龍護院安樂禪寺	一六一	向陽山蓮華院淨福寺	一六一	淨福寺、養光寺	一六一	觀音寺、千手院	一六一	興隆山普門院養光寺	一六一	紫雲山千手院弘誓寺	一六一								
徳勒津、八幡宮	一六一	興福山醫王院法隆寺	一六一	金龍山五大院明見寺	一六一	長束山龍護院安樂禪寺	一六一	向陽山蓮華院淨福寺	一六一	淨福寺、養光寺	一六一	觀音寺、千手院	一六一	興隆山普門院養光寺	一六一	紫雲山千手院弘誓寺	一六一										
天王の森、國津の祠	一六一	向陽山蓮華院淨福寺	一六一	淨福寺、養光寺	一六一	觀音寺、千手院	一六一	興隆山普門院養光寺	一六一	紫雲山千手院弘誓寺	一六一																
傾城ヶ淵	一六一	淨福寺、養光寺	一六一	觀音寺、千手院	一六一	興隆山普門院養光寺	一六一	紫雲山千手院弘誓寺	一六一																		
五行の辻	一六一	觀音寺、千手院	一六一	興隆山普門院養光寺	一六一	紫雲山千手院弘誓寺	一六一																				
法輪山正覺院阿彌陀寺	一六一	興隆山普門院養光寺	一六一	紫雲山千手院弘誓寺	一六一																						
護國山空遍院大聖寺	一六一	紫雲山千手院弘誓寺	一六一																								
志摩神社、八幡宮	一六一																										

不二山一乘院觀音寺	一七三	本社住吉社	一八四
欠作驛	一七三	利益院本弘寺	一八四
水牛池	一七四	市場、路馬の木林	一八五
傘師	一七四	朝棕神社	一八八
神留山照光院	一七五	朝棕神社	一九二
太子山聖德院專養寺	一七五	路馬の森御堂	一九三
追手入口傘師、圍	一七五	西本願寺	一九三
三部神社、照光院	一七七	路馬木林御坊	一九五
專養寺、柳の井	一七七	忍心冬、酒	二二四
三階屋敷、石橋	一七九	慈眼山正壽院滿光寺	二二五
雄の之	一七九	西店魚市場	二二五
遍照山覺樹院高野寺	一八〇	萬町の菜蔬市	二二六
高野寺の圍	一八一	西店魚市の圍	二二七
住吉太神宮	一八三		

初編一卷下 和歌山	小野町、元ヶ辻	二三四
寄合橋	玉降山海善寺	二三四
紋羽織水綿	安養寺雄天神西岸寺	二三六
寄合橋の園	小野山安養寺	二三七
紋羽織屋の園	孤圓山淨秀院西岸寺	二三九
名州焼陶器頓宮	林鶯山憶西院長覺寺	二三九
傳法、傳法橋	東本願寺湊御堂園	二四一
馬か瀬、傳法稻荷祠	吹上寺の園	二四八
木場、城山	天牟山吹上寺	二四九
湊河口の園	松龍山光明院普門寺	二五〇
青山、燈籠堂	光明院連理松園	二五〇
蛭子の祠、伊達神社	惠美須社舊地	二五一
伊達社、蛭子社の園	孤雲山來迎院西要寺	二五一
蛭兒神社	南岳山圓藏院密林寺	二五二

雄の清水	吹上の濱たけまつ長者の館	二七九
日惠芝、仙人の硯	妙見山圓如寺	二八二
吹上	白雲山報恩寺	二八三
吹上の園	善曜山蓮心寺	二八六
吹上の小野、吹上の峰	蓮心寺之園	二八七
吹井の浦	廣徳山妙法寺	二九〇
網師の岡	法性山本光寺	二九〇
吹上の汐干	大寶山惠雲禪寺	二九〇
吹上の濱、汐干の園	照信山地震院三光寺	二九〇
吹上の白菊	龍門山宏心譽寺	二九〇
吹上の菊の園	大智寺、報恩寺、護念寺園	二九一
吹上の神社、墟	大恩寺、窓譽寺、三光寺園	二九一
吹上の神之園	惠雲寺、本光寺、妙法寺園	二九一
たけまつ長者	大泉寺、延壽院之園	二九一

增上山仙境院 <small>護念寺</small>	三九三	金龍山天正寺	三二四
深信山大恩寺	二九五	鶴林山高松寺	三二四
<small>玄恕上人守護</small> 就鳥觀世音	二九五	堀留眺望 <small>袖摺松之圖</small>	三二五
玄恕上人之圖	二九八	角虎山丈六寺 <small>井原神社</small>	三二六
紀集山大智寺	二九九	宇須神社 <small>養珠山淨心寺</small>	三二六
曹源山大泉寺	三〇〇	井原神社 <small>宇須神社之圖</small>	三二七
松王山延壽院 <small>竹林寺</small>	三〇四	丈六寺 <small>高松寺天正寺之圖</small>	三二七
梅の原	三〇四	三十番神祠	三二九
明王院 <small>山王社之圖</small>	三〇五	真光寺 <small>山東禪寺山</small>	三三〇
明院	三〇七	寶壽山光明寺	三三〇
今福神明宮	三〇八	光明寺之圖	三三三
神明社 <small>万性寺之圖</small>	三〇九	<small>初篇二卷</small> 海部郡	三三三
白道山 <small>万性寺幡隨意院</small>	三〇〇	高松茶屋之圖	三三五
堀留の眺望	三〇四	根上 <small>松之圖</small>	三三六

根上 <small>松愛宕山圓珠院瑞雲寺</small>	三二八	龜遊巖 <small>鶴立島</small>	三五〇
彌勒寺 <small>雜賀躍の來由事</small>	三二九	芦邊浦之圖	三五〇
圓珠院 <small>愛宕權現の圖</small>	三三〇	芦邊寺 <small>旧趾蛭の宮宗祇の松</small>	三五二
彌勒寺 <small>雜賀合戰の圖</small>	三三五	芦邊浦	三五三
東禪寺 <small>山砦甲崎砦之圖</small>	三三五	片 <small>葎の芦</small>	三五四
玉津島 <small>砦名草濱砦之圖</small>	三三五	名物 <small>芦邊團扇雜賀城跡</small>	三五五
雜賀崎浦 <small>鷹巢巖の圖</small>	三三八	和歌入江 <small>妹背山養珠寺</small>	三五五
磯釣岩 <small>教如上人巖の圖</small>	三三八	養珠寺 <small>妙見堂之圖</small>	三五六
狛石 <small>雜賀野雜賀浦</small>	三四〇	望海樓遺跡 <small>芦邊茶屋</small>	三五九
梅溪翁 <small>舊宅趾同釣岩小江の浦</small>	三四〇	三 <small>斷橋</small>	三五九
雜賀崎浦 <small>鷹巢巖</small>	三四一	望海樓之圖	三六一
矢之宮	三四二	郭公 <small>山經王堂多寶塔</small>	三六二
矢之宮の圖	三四三	觀海閣之圖	三六四
五百羅漢寺 <small>秋葉大権現社之圖</small>	三四五	妹背海苔 <small>空屈の祠</small>	三六八

輿洗岩、獨螯蟹	三七〇	玉津島巖祠、朧山之圖	四〇二
玉津島神社	三七〇	大相院、伽羅山之圖	四〇二
四條大納言和歌浦遊覽の圖	三七二	其二	四〇三
神樂舎、石祭双基	三七三	其三	四〇四
玉津島系呼称古今沿革の事	三七八	其四	四〇六
津守國基玉津島靈夢の所	三七九	和歌浦	四〇八
玉出嶋之圖	三九〇	和歌御宮	四〇九
岩根のすき	三九三	東照神君御旅所神幸御祭式	四一四
玉出島	三九四	其二	四一六
朧山妹背牡蠣望海山大相院	三九七	其三	四一八
和歌松原	三九八	御旅所にて相撲會	四二〇
妹背海苔取圖	三九九	天滿宮	四二二
妹脊山多寶塔觀海樓之圖	四〇〇	和歌浦	四二五
三斷橋、芦邊茶屋之圖	四〇〇	和歌浦網引	四二〇

東照宮御旅所、浦の初島	四〇七	塔下王子社	四六四
後篇二卷の内海部郡	四〇七	温石、岩屋山福勝寺	四六五
後鳥羽帝熊野御幸時藤	四〇九	土橋、加茂川、仁嗜、竹園社	四六六
白御所の芝の行宮に休み給ふ圖	四〇九	引尾村立神社、地奇、巖の圖	四六七
其二	四五一	立神社の廣前、鷹祭踊之圖	四六九
内原驛	四五五	仁義越、松尾瀧立神社	四七一
名方濱宮	四五五	加茂驛、産物蜜柑	四七三
伊勢部柿本神社、蜃樓	四五六	大窪村、戸記、木村先生当初負	四七四
紀直祖乃白賣故居	四五六	因流離ノ民ヲ集メ己モ共ニ乘	四七五
海部郡、加茂谷、藤代山	四五七	船ヲ採リ百方勸農ノ圖	四七五
山名氏墳墓、地藏峰寺	四五七	加茂谷の諸村に蜜柑籠ヲ製シテ	四七七
御所芝	四五六	橘本王子社、鮮坂王子社	四七七
橘本土橋邊の圖	四五六	市坪山路王子社、木村先生祠	四七七
窟山境内裏見瀧の圖	四六一	地藏堂、蕪坂	四七八
		白倉山、加茂氏城址	四七八

蕪坂峠茶店眺望之圖	四九	粟島神社、丁村	四九六
梅田釋迦堂加茂神社の森	四八一	濱中郷、慶徳山長保寺	四九六
釋迦堂山井崑崙墓	四八三	慶徳山長保寺の圖	四九八
加茂神社	四八四	其二	五〇〇
加茂谷の梅林を望む圖	四八五	地蔵堂才坂小為手山緒捨山	五〇一
八幡宮	四八七	明秀寺、小原越、浅黄石	五〇二
梅林、津田瀑布	四八八	椒村、廢西福寺	五〇二
冷水越、大寄浦	四八八	椒御殿跡、地島、沖島	五〇四
大崎浦の圖	四八九	左大臣長屋王墓	五〇四
白水濱、方便海	四九一	長屋の遺骨と椒村の奥嶋に	五〇六
白石	四九二	遷シ葬むる圖	五〇六
方の川口は白魚を取る圖	四九三	新藻島	五〇八
梶原城址、産物白魚	四九五	初篇三卷下海士郡	五〇九
塩濱硯井	四九五	光明山善道寺	五〇九

善道寺、藤水并天社、栄谷觀音、諏訪神社、栄谷行宮、八幡社	五三	葛城山	五三三
國主社、大歳社之圖	五三三	堺の浦	五三三
住吉神社、受陽山知足院總持寺	五四	塩竈地蔵尊	五三三
梶取總持寺之圖	五三六	大歳神社、國主神社	五三四
九頭神社、捧銀杏之圖	五三〇	北島住居社、野崎幡社、狐島稻荷社	五三五
宗固の松、北固山、白石巖院	五三一	住吉神社、八幡宮	五三六
夾山之圖	五三三	稻荷大明神、松江	五三六
賈志猿引之圖	五二四	松江濱蛤貝拾ふ圖	五三七
栄谷高芝若宮八幡宮之圖	五二七	和田千軒	五三八
岸村行宮、福聚山觀音寺	五二八	廢善光寺、楊柳山觀通寺	五三九
猿曳、賈志甚兵衛	五二八	春日大明神、慈雲山極樂寺	五三九
木本八幡宮之圖	五二九	善光廢寺、春日神社之圖	五四〇
八幡宮	五三〇	田中社、極樂寺、觀月樓跡之圖	五四〇
		寂光院、南海神社之圖	五四〇

寂光院、觀月樓遺跡	五五二	其二	五五三
南海神社、萬福寺、八幡宮	五五三	其三	五五四
名物系、切餅、磯浦	五五三	鳩笛八幡宮、辨賊天社	五五六
系、切餅屋之圖	五五五	尊國山、宿谷經塚	五五六
本願寺、磯浦、二重濱之圖	五五六	入宿西福寺、佛立常行寺	五五六
春日大明神、光福寺、十輪寺	五五八	迎之坊、形見浦	五五七
古屋の泊、錫杖の井	五五八	形見山、春日神社	五五九
潮入橋、轉法輪、伽陀寺	五五八	新田旅店之圖	五六〇
見の御鑑之圖	五五〇	頭巾石、笈捨后、道祖神	五六二
錫杖井、加陀寺の圖	五五一	八王寺橋、古城江、新田	五六二
西福寺、常行寺之圖	五五一	新田旅店之圖	五六三
尊國山、鳩笛八幡宮、辨賊天社之圖	五五二	加太淡島大明神	五六五
迎之坊、春日神社、稱念寺之圖	五五二	能滿堂、友々嶋	五七一
阿彌陀寺、光源寺、毘沙門堂之圖	五五二	神功皇后加太沖遭難之圖	五七五

友嶋記	五八一	雜賀川之圖	六〇〇
地ノ島小名	五八五	中言神社	六〇二
沖嶋、神嶋之圖	五八六	通照山大日堂、覺王寺	六〇三
友島五所石碑之圖	五八八	汐見橋、葛嶺、身代地蔵尊	六〇三
沖島小名、神嶋	五八九	中言神社、大日堂之圖	六〇四
八重たみ、飽等濱	五八九	汐見橋、八幡宮之圖	六〇四
深山	五九〇	見社、裝束、松海見山、福壽院	六〇五
慈雲山、報恩講寺	五九一	海見山、金藏寺、塩竈	六〇五
大川浦、報恩講寺之圖	五九二	紀三井山、護國院、金剛寶寺	六〇六
圓光大師教化の處之圖	五九四	明見社、貝吹山、春日社之圖	六〇七
大川村	五九六	攝待所、紀三井寺、門前、圖	六〇七
初編五卷、海士郡	五九九	紀三井寺、其二圖	六〇八
春日山地、藏院、光福寺	五九九	妙見神社、福壽院、金藏院之圖	六一〇
大宅の松、小雜賀、雜賀川	五九九	衣束の松、塩釜之圖	六一二

應同樹木坊護國院海龍院	六二	能滿山善福寺御鎮座嶋	六三五
瀧坊普門院	六一二	御崎觀音堂紀行文退隱跡	六三五
寶性院松樹院多聞院	六一三	紀俊長卿紀行文御閑居之圖	六三七
平等院穀屋坊	六一三	琴の浦	六三八
千手谷	六一四	明見社船尾天照大神春日神	六四〇
繪馬樓若浦眺望之圖	六一六	中言神社黑江御堂	六四一
為光丈梵鐘と得給ふ圖	六一九	大野日方全圖	六四二
遊紀三井山	六二二	黒牛瀉中言社黒江御坊の圖	六四四
宗祇坂之圖	六二四	黒牛瀉黒江梳菰池	六四六
宗祇坂名中山名中の濱	六二五	合龍堂城趾干瀉浦	六四七
名草の浦布曳の松	六二七	潮音山大龍寺	六四七
布曳の松布引西瓜畑の圖	六二八	黒江梳器挽之圖	六四八
名物西瓜濱宮	六三〇	觀音堂若唐八幡	六五〇
名中濱濱の宮琴の浦之圖	六三三	辨天山正定殿院永正寺	六五〇

御門町妙見高里神社	六五一	飛泉	六六三
天喜山阿彌陀寺	六五一	別願成寺衣笠山之圖	六六四
高里神社永正寺之圖	六五二	瀑布鏡岩	六六七
瀉村粟田神社春日德道院	六五四	鏡岩下居神社雨社禪林寺の圖	六六八
大野坂松代王子三上山	六五四	幡川山禪林寺	六七〇
春日神社	六五五	下居神社雨宮苗取松地福寺	六七一
栗田神社松代王寺之圖	六五六	龍王菩提寺南陽山禪定寺	六七二
三上山春日神社之圖	六五七	法雲山慈眼院釋迦寺	六七二
重根楊梅之圖	六五九	寶閣山蓮華寺正八幡神社	六七二
城址延命寺百中明神	六六〇	宇野邊和泉守直久宅跡	六七二
十念山見足院稱名寺	六六〇	大野廢釋迦寺大野城趾	六七三
車山瀧之圖	六六一	山名修理大夫義理興國寺落行所圖	六七八
大師堂車岩瀑布衣笠山	六六二	名高浦此系川	六八二
十二所權現社衣笠三瀧院願成寺	六六三	井松原古戰場廿曳の森	六八三

地藏堂

一心山専念寺、廢極樂寺	六八三	藤白季、松雲山實乘院中道寺	七〇二
船津御前神社	六八四	藤白御坂	七〇二
一の鳥尾舊跡、仙臺山淨土寺	六八四	藤白峠御所の芝より眺望	七〇六
亀井の泉、小中山、松巖院觀音寺	六八五	藤代松、藤白關居跡	七〇八
藤白里土	六八五	比丘尼山、飯盛山了賢寺	七〇八
鈴木三郎重家宅	六八六	冷水浦了賢寺海雲寺	七二二
鈴木三郎の宅圖	六八八	藤白峠に蓮如上人冷水浦	七二六
亀井六郎宅址、藤白浦圓座岩	六九一	喜六太夫に逢ひ給ふ圖	七二九
藤白浦季権現社、中道寺の圖	六九二	楊伽山海雲禪寺	七二九
淨土寺、鳥尾旧跡、柳井紫川の圖	六九四	塩津湊、蛭子土觀音堂敷網圖	七三〇
藤白若一王子社	六九五	塩津の表	七三三
建仁元年藤白社と相撲會の圖	六九八	蛭子神社、慈眼山無量院神宮寺	七三三
藤白松之圖	七〇〇	磯崎觀音堂	七三四
		初篇三卷上 名草郡	

甘藪作の所之圖	七三五	力侍神社、川邊季社、中村王子社	七四三
砂糖、中山王子社	七三六	中村三郎太夫散位秦宿禰の末葉	七四三
音なしの瀧、雄の山	七三七	楠本神社	七四三
瀧畑、中山王子、音無滝の圖	七三八	川邊季社、中村季八季社、力侍社	七四四
雄中山之圖	七三〇	楠本社、八幡社、山城跡、永正寺圖	七四四
紀の関趾	七三三	八季社、八幡宮、山岩修理大夫	七四六
美婦弓と化して次女を隠す圖	七三四	義理壘跡	七四六
白鳥神社、山口王子、白鳥宗野寺	七三六	永穂中、小太夫散位藤原朝臣末葉	七四六
山口社産神社	七三七	神波大屋神社、御手洗の圖	七四八
雄山白鳥社、山口王子、紀の関趾、野寺圖	七三八	御後納山、若宮八幡宮之圖	七四八
山王社、法龍寺、土屋社、祇園寺の圖	七三八	休足山、永正寺、總社、明神	七五〇
惠應山法龍寺、妙樂山祇園禪寺	七四〇	十五社、明神社、紀の川涉の巴淵	七五一
鯨口	七四一	紀の川涉之圖	七五三
土屋神社、坂上氏宅、山巖、八王子社	七四三	異執行太夫散位中臣朝臣末葉	七五四

星頭明神社	七五四	千手川に日前宮七瀬後の圖	七六八
府中神社八幡宮	七五五	南海禪院先生東行の送別會圖	七七〇
府中八幡社聖天社八幡社之圖	七五六	千壽河原大福宗賤天の窟	七七一
高良明神社齒觀音圓寺地	七五七	籤法ヶ山獄	七七二
十五社明神梅松山正法寺	七五七	直川畑村兒の松谷行の圖	七七三
田井惣社十五社星頭社之圖	七五八	直川大夫散位紀の朝臣末葉	七七四
田屋十五社正法寺齒觀音圖	七五八	役行者母公石塔藏王権現社	七七四
田屋大夫散位忌部宿禰末葉	七六〇	八王子社	七七四
高橋神社雲山峰天明神	七六二	伊也土神社南嶽大同寺法華院	七七五
丹生神社總社明神照陽明光寺	七六三	鳥羽院陵	七七五
高橋神社直川惣社雨ヶ森	七六三	射矢止社櫻井大同寺之圖	七七八
明光寺圖	七六三	大同寺什物天台大師之画像	七八〇
遍照山淨永寺大福本惠寺	七六四	園部神社	七八一
直川本惠寺之圖	七六六	園部神社樂寺圓明禪寺鳴瀧圖	七八二

佐野隱山先生墓	七八四	紀氏栗栖神社惠島輪院高倉寺	七九八
一樂寺鳴瀧山圖明寺鳴瀧	七八七	曝井	七九八
隱山先生閑居之圖	七八八	志保能神社十五社明神社	七九九
菟部兵衛重茂城址	七九〇	持松寺之圖	八〇〇
海部郡九頭大明神	七九〇	高倉寺曝井之圖	八〇〇
伊久姫社之圖	七九一	紫雲山栗栖寺栗栖一ツ物	八〇一
伊久比賣神社九頭神社弁賤天社	七九二	白馬山教王院幡降寺	八〇二
初篇四卷上名草郡	七九三	畑山栗栖紀大楠丸の末孫	八〇二
地藏辻之圖	七九三	車谷温泉の地高橋神社	八〇三
名草郡德勤津宮舊跡	七九四	栗栖寺幡降寺紀氏神社圖	八〇五
八幡宮社栗林若宮八幡宮	七九四	畑山車谷高橋神社八幡宮圖	八〇五
日吉山王神社	七九五	畑萱堂法照寺之圖	八〇五
栗林若宮正八幡宮之圖	七九六	八幡宮畑萱堂舊跡	八〇六
志保能宮明神十五社明神	七九八	觀池山法照寺	八〇七

湯淺新太夫散位秦宿禰子孫 こが多橋	八〇八	金鼓山觀音院	八二六
八幡宮	八〇九	音浦山總光寺	八二七
清涼山慈光寺	八一〇	野の邊戸、葦島、太田古城趾	八二八
八幡宮、慈光寺、元亨寺圖	八二二	太田城水攻の所の圖	八三二
瀧谷山元亨寺、禊所	八二四	弓天神社、兩天神社	八三四
氣真申社、和佐季、高御前神社	八二五	毘沙門塚、玄通寺、引接末迎寺	八三五
射術甲科、和佐山	八二七	幽更山願立寺、春盤松	八三五
和佐大八郎大天數の所の圖	八二八	弓天神社、内天神社、圖	八三六
氣真申社、和佐季、高御前之圖	八三〇	春盤松之圖	八三七
和佐山古城跡、歡喜寺之圖	八三〇	題大六氏別墅	八三八
古城の跡	八三三	と記を村	八三九
井谷山歡喜寺	八三三	吉田村法輪寺之圖	八四〇
夢妙幢寺、慈光寺之圖	八三五	密嚴山大聖院法輪寺	八四三


初篇四卷下名草郡

日前宮、國懸宮	八四六	天滿宮、瑠璃山普照院、樂德寺	八八一
日前宮、國懸宮、國造家圖	八四九	芦原樂師如來出現の所圖	八八三
其二	八五〇	忌部里神社	八八六
其三	八五三	蘇為比賣神社、津秦天滿宮、圖	八八七
鏡と鑄る圖	八六〇	藥德寺、忌部里神社之圖	八八八
日前宮末社	八七三	大友笠持社、大日堂之圖	八八八
國懸宮末社	八七三	大友笠持神社	八九二
七瀬大祓神、幸諸班列之圖	八七五	直水谷大日堂	八九四
攝社	八七六	鳴神社	八九五
紀伊國造殿館	八七八	鳴神社、鳴武社之圖	八九七
國造家歷代俊傑	八七九	香都知社、廢光德寺の圖	八九七
國造家城趾、古の社人職名	八八〇	夢神社	八九八
溝の内、麻為比賣神社	八八一	鳥武神社、香都知神社	八九九
		妙景光德寺遺跡、堅真音神社	八九九

音浦堰斗門	九〇	妻御前社平緒王子之圖	九一九
又真音社音浦樋之圖	九〇一	伊太祁曾社其二	九二〇
岡崎御生魚石岡崎御坊	九〇二	其三	九二三
弘誓山天王院滿願寺	九〇三	伊太祁曾神社御祭禮圖	九二四
岡崎御坊之圖	九〇五	龜尾山興德院延壽寺	九二五
滿願寺之圖	九〇八	傳法院伊太祁曾神社御旅所之圖	九二六
弘法大師御錫杖の井之圖	九一二	妻御前社平尾寺大悲山觀音寺	九二八
都麻津比賣神社國清寺	九一三	矢田山傳法院明王寺	九二八
ちかの淵須佐神社	九一三	丹生神社天宮足守明神祠	九三〇
都麻姫神社限寺ちかの淵之圖	九一四	永山之圖	九三一
奈久智の王子社	九一六	永山名産松菌楊柳寶光寺	九三二
大聖山遍照院普門寺	九一七	寶光寺楊柳瀧之圖	九三三
伊太祁曾神社	九一七	普門山觀福院觀音寺	九三四
須佐神社奈久智王子の圖	九一九	北野山西光院	九三四

佛姫願成寺之圖	九三五	宗祇法師閑居舊趾	九五四
中岡山願成寺	九三六	宗祇法師閑居之圖	九五六
初編六卷上 名草郡		中言神社西部山觀音寺	九五七
矢筈山普門院觀音寺	九三七	觀音寺大師井之圖	九五八
養心山法紹寺日正大雲院了法寺	九三七	中言神社八王子神社坊浦八幡宮	九五九
竈山神社	九三九	江南幡下宮朝神社諏訪神社圖	九六一
了法寺之圖	九四〇	願成寺時雨松大林寺八幡宮之圖	九六二
竈山神社鎮火神社天霧山の圖	九四四	蒼筈山大林寺天王山藏橋寺	九六四
五瀬命矢疵と蒙り給ふ圖	九四六	里の井之圖	九六五
天霧山靜火神社	九四八	里の井泉補陀洛山應供寺	九六六
醫善高祖院田福寺	九五二	武内宿禰誕生井	九六六
中言神社	九五三	武外宿禰誕生井之圖	九七〇
中言神社之圖	九五三	諏訪神社松尾成福寺	九七三
		觀福寺之圖	九七四

養老山護國院觀禪寺藥勝寺村	九七五	靈藏山觀音院松尾寺	九九二
八季神社瑞臨光天平院藥寺	九七五	松尾神社之圖	九九三
藥王寺之圖	九七七	宇賀部兩大明神社	九九四
九頭神社瑞龍大井寺九頭神社	九七九	如意山寶勝院神官寺	九九四
廢千光寺四ツ石の圖	九八〇	松尾神社	九九四
國栖山祝眼院神官寺 <small>三上山千光寺跡</small>	九八一	威德山藥受院神官寺龜池	九九四
南照山妙臺寺	九八一		
九頭神社妙臺寺の圖	九八三		
宇佐幡宮入船無量壽院神官寺	九八九		
念徵山專應寺	九八九		
岡田城墟旦來八幡社	九八九		
岡田八幡宮岡田城址之圖	九九〇		
旦來八幡宮 <small>姫大明神之圖</small>	九九〇		
影向山地福院神官寺	九九二		



志乃へて神代のさりた
 あらて然將乃とくも
 竹葉のさき

加納諸平
齋部宿松孝秀書

山口驛より遠く
御城を望む圖

家集

天和二年の冬
將軍家の御使の御迎
山口より所(補)田家
イヤよりをうに庭の木
るより月をみく

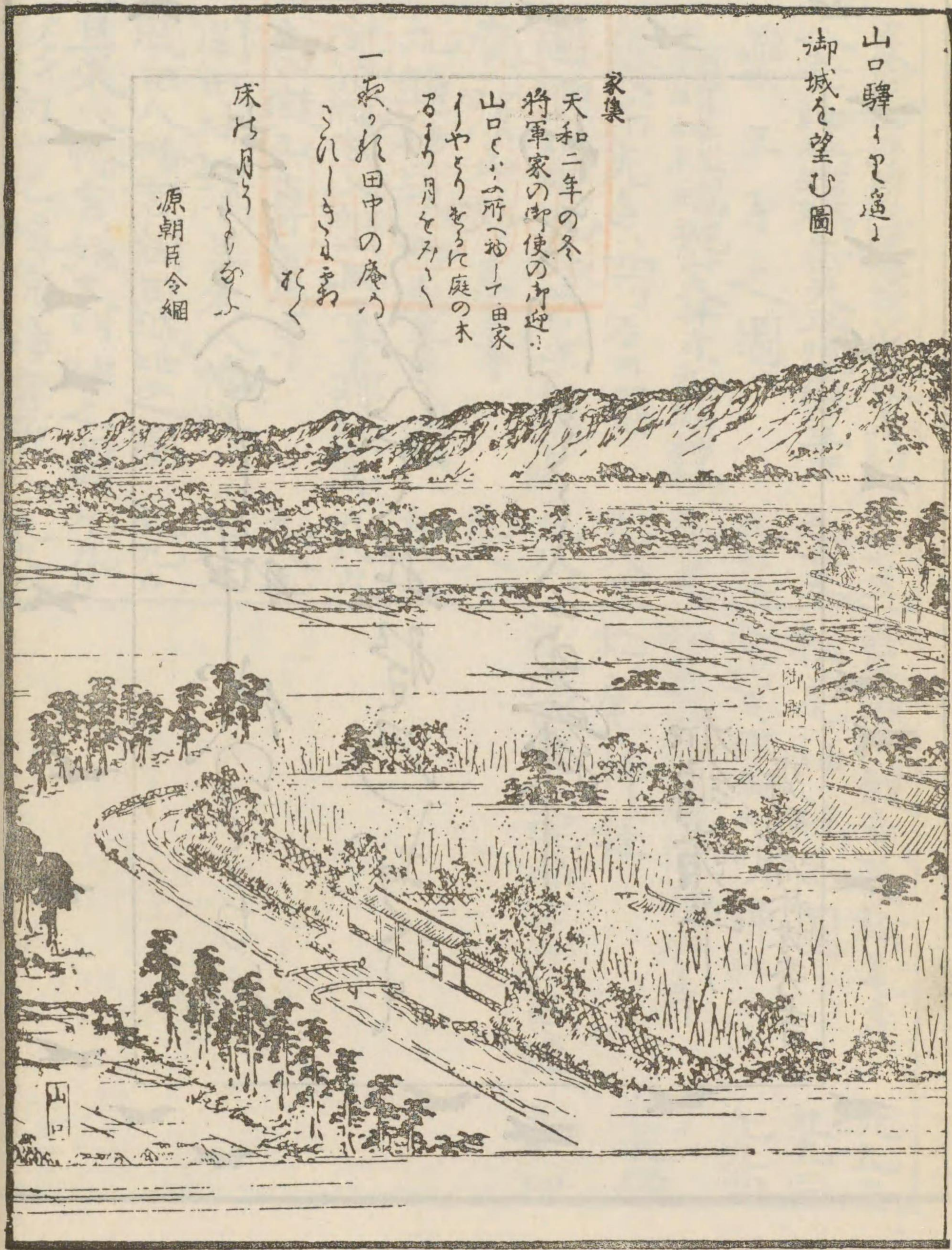
一葉は田中の庵の

これよりよき

れ

床は月より

源朝臣令細



鏡樹青松夾路堆
遙看城堞樹間開
沙川容美人野渡
此水知從芳野來
賴山陽

萩園家集

山口峠より

雄の山に

此木乃園を

東のや

志の羽延れ

この沈ゆきもを

夏目摩磨



紀伊國名所圖會後編卷之一

若山部補遺

府城

若山此中央小天律... 二層四層乃殿造... 伊勢との二國を渡へり... 乃行らば... 或ハ虎... 如一本川... 長峯北山... 那賀名草の田面... 古昔羽柴氏... 内廊と殿に... 比鎮とるれハ

誰より作き尊くそなせ

活所遺業

九月八日陪前法親王於紀州城樓

那波道田

風迹重陽和且柔青雲高客上城樓南州海嶽隨看
在自是應名多景樓

扈從上城樓

菊地衝岳

宗室藩封跨二州三層突聳鎮城樓勢南表裏山河
色紀水迢遙海嶽秋天險寧論吳子對雄風欲賦楚

王遊追隨遠指高陵樹瑞靄氤氳繞玉洲

雨餘草色夏陰收此夜偶攀天半樓月掛嶺頭蟾影
動雲晴林上桂香浮清風吹樹偏忘暑白露橫江忽
占秋窓對葛城情自逸戶含紀水望愈悠柳堤陰步
去來客兼留連遠近舟世上塵喧堪可謝人間富
貴復何求習家醉飲尋豪趣河朔涼筵結雅遊不識
誰家絃管起依稀使我在瀛川
宗藩治國海濱奕世恩光澤洽民况有遺文常社
席進修祇識逐年新

大伴連公先祖也天年澄情尊重三寶案本記曰敏
達天皇代和泉國海中有樂器之音聲如笛箏琴笙
篳篥等聲或如雷振動晝鳴夜耀指東而流大部屋栖
古連公聞奏天皇嘿然不信更奏皇后聞之詔連公
曰汝往看之奉詔往看實如聞有當霹靂之楠矣還
上奏之以下畧之

節婦宅子故居

其地今詳なきはとて
宇治大伴氏の因に載せ

三代實錄云

貞觀六年八月十三日節婦紀伊國名草郡

大伴連宅子叙位二階免戶内田租表其門閭以旗貞節

惺窩先生客居地

今詳なきは本國事
跡傳りて借むる

文集行狀云

慶長十一年先生赴南紀蓋太守淺野幸長

招之也其所待尤謹弱浦有管神廟太守請先生誌

其碑銘又為太守抄經書要語三十件許添倭字之

註解為一小冊便于冥諸備於顧諟是為政之存心

資治之守約也太守甚喜此時元古栢允從行戶田

帶刀為春永原松雪等屢來訊請先生講古文真寶

舉自集

其以太守矚睐渥厚故遊于紀冬往春還者有年

妙壽院能仔國へ趣給ひて此を以て本下長爾

名給ひてもつとらへらるるあはれおのぬまは海の濱は妙

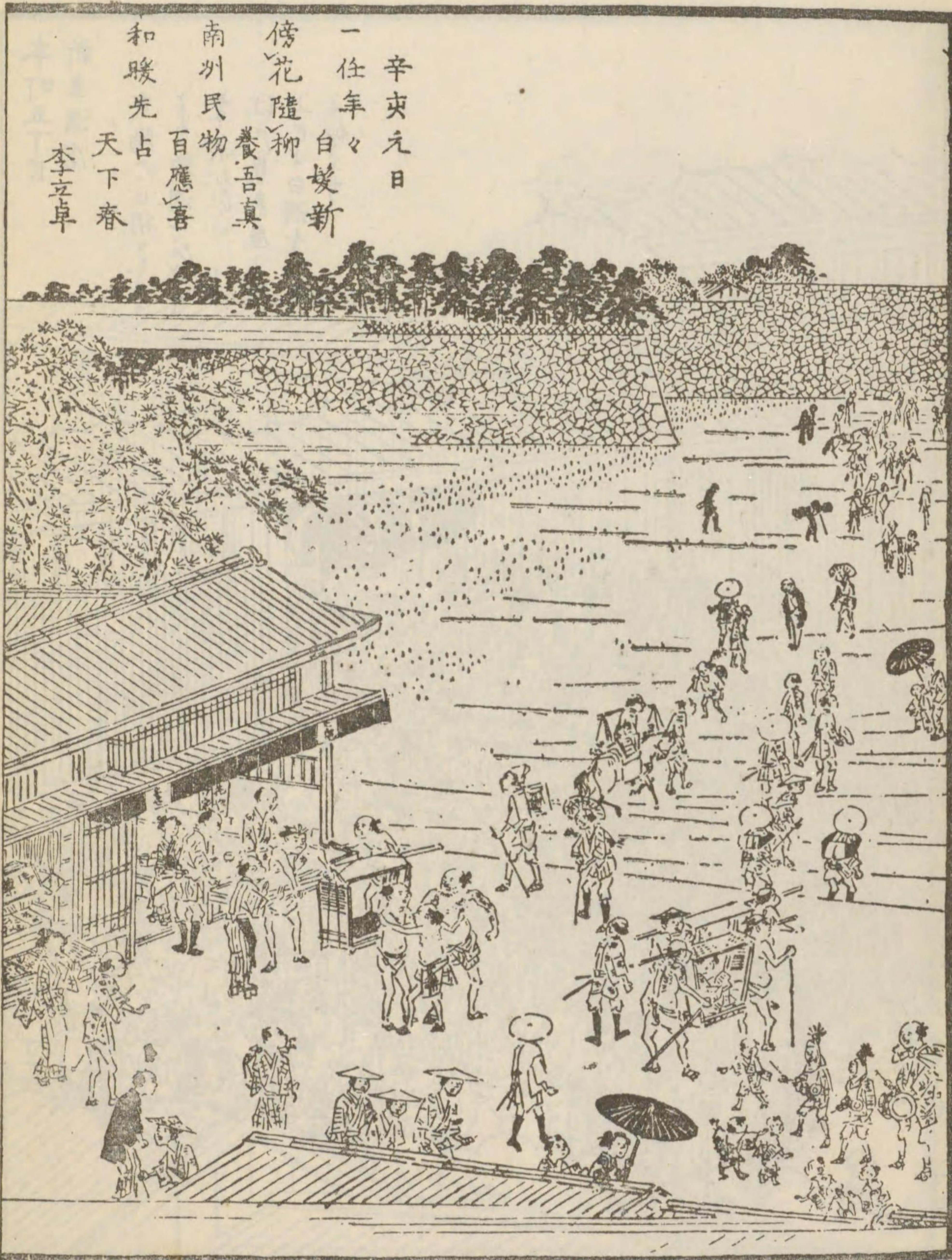
秋霧の立ちしれいと思ふもつとらへらるるあはれ

妙壽院ハ即惺窩先生より同集又餞るの文も載り今畧は文の事
都もむらむらといふは此の園もよんむらむら等の歎あり

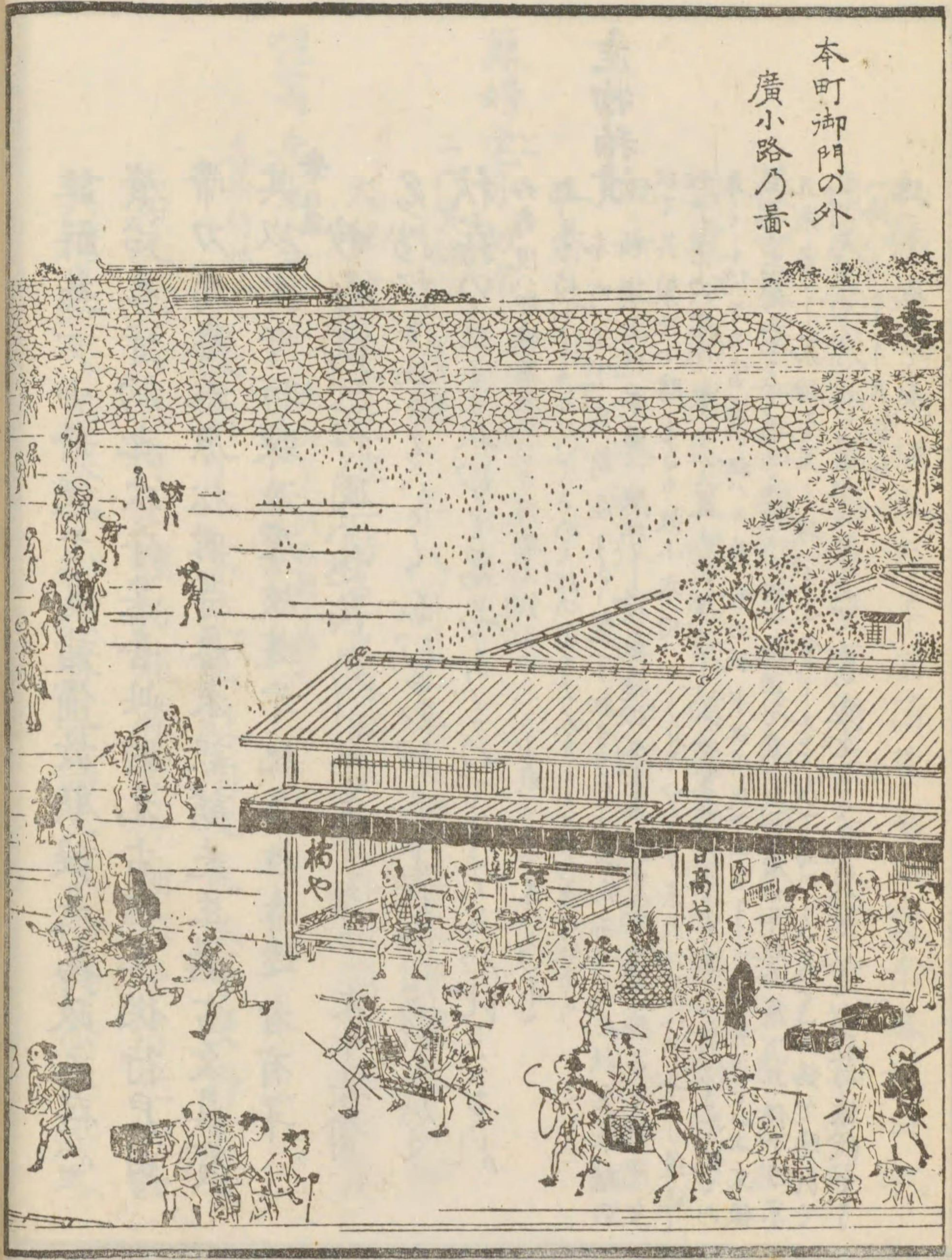
産物粕漬

本町五丁目新屋より製す初まりの小西瓜茄子瓜の漬を家醸の
粕漬といふ本國ハ暖地より菜蔬の生立もよく惣て絶品を撰ふを

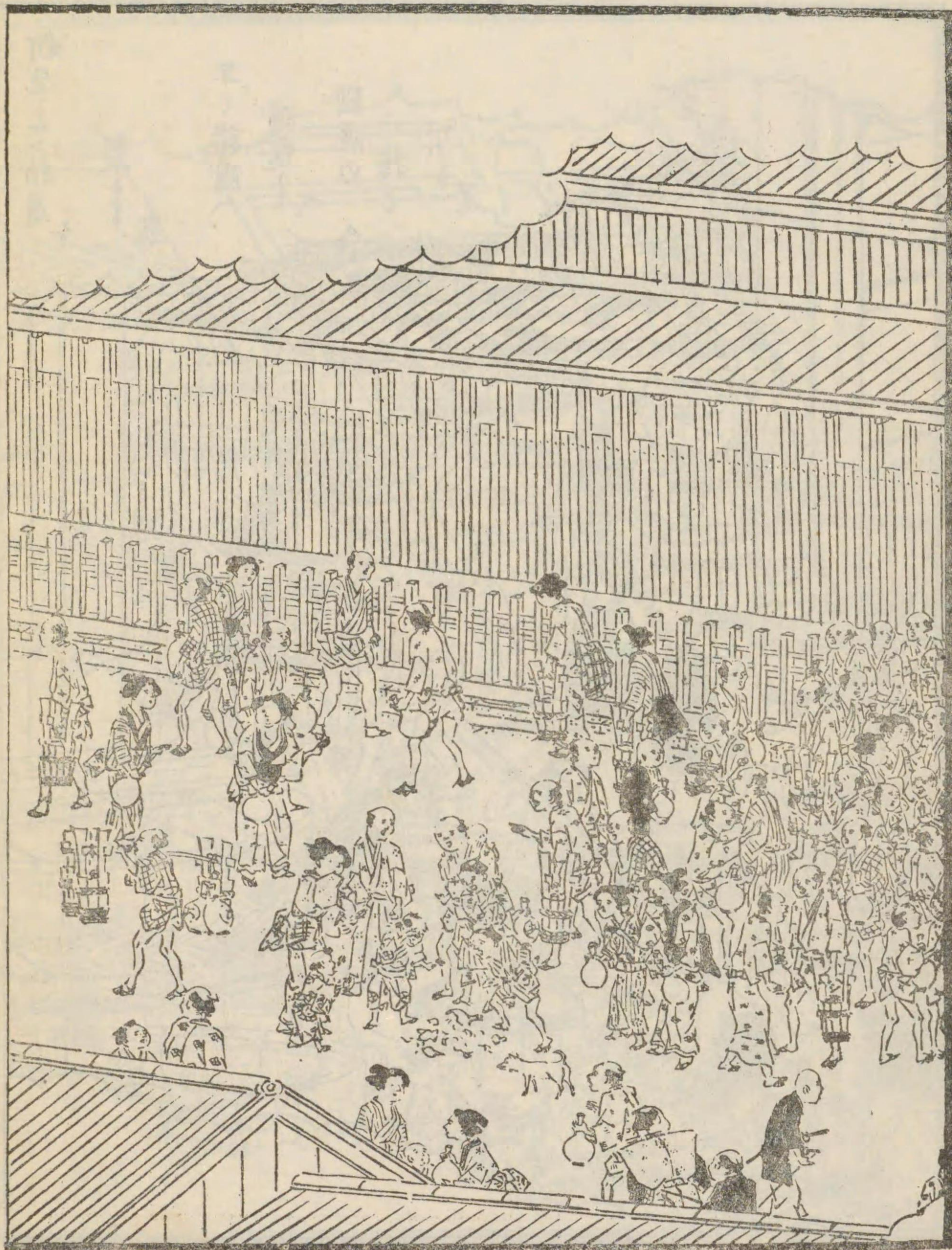
以て其製地小勝まじり故小本國ハさうもつとらへらるる京大坂等ハ日毎り運送し
江戸までハ殊り賞して直に新屋漬といふ此製いつれはより専らなれりや近ごろ
年々倍より當家の祖ハ日前宮の社中江川氏の四男よりて紀秀津といふ文祿
三年宅を分ちて若山居居し世々造酒を業といふ室曆四年の冬府下某侯より京
五糸家より家醸を呈し殊り賞しをさひて菊のあといふ銘を賜ひて
山川の菜のいふ水いふあれとてなれて人の老をさく後孫とて古秋の懐紙をさ
へ後より今も其製を
傳へる名品とす



辛亥元日
 一任年々
 白髮新
 傍花隨柳
 養吾真
 南州民物
 百應喜
 和暖先占
 天下春
 李立卓

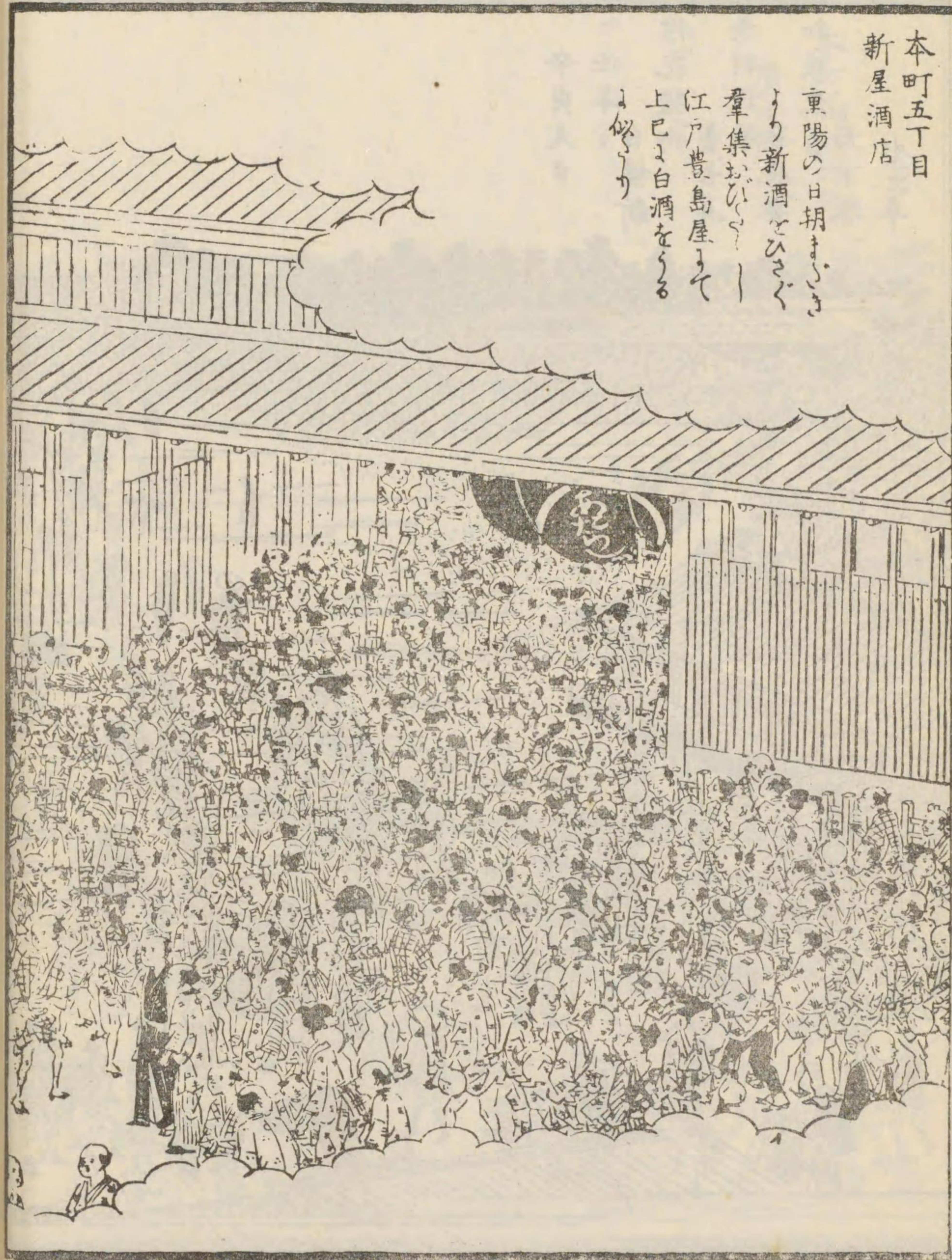


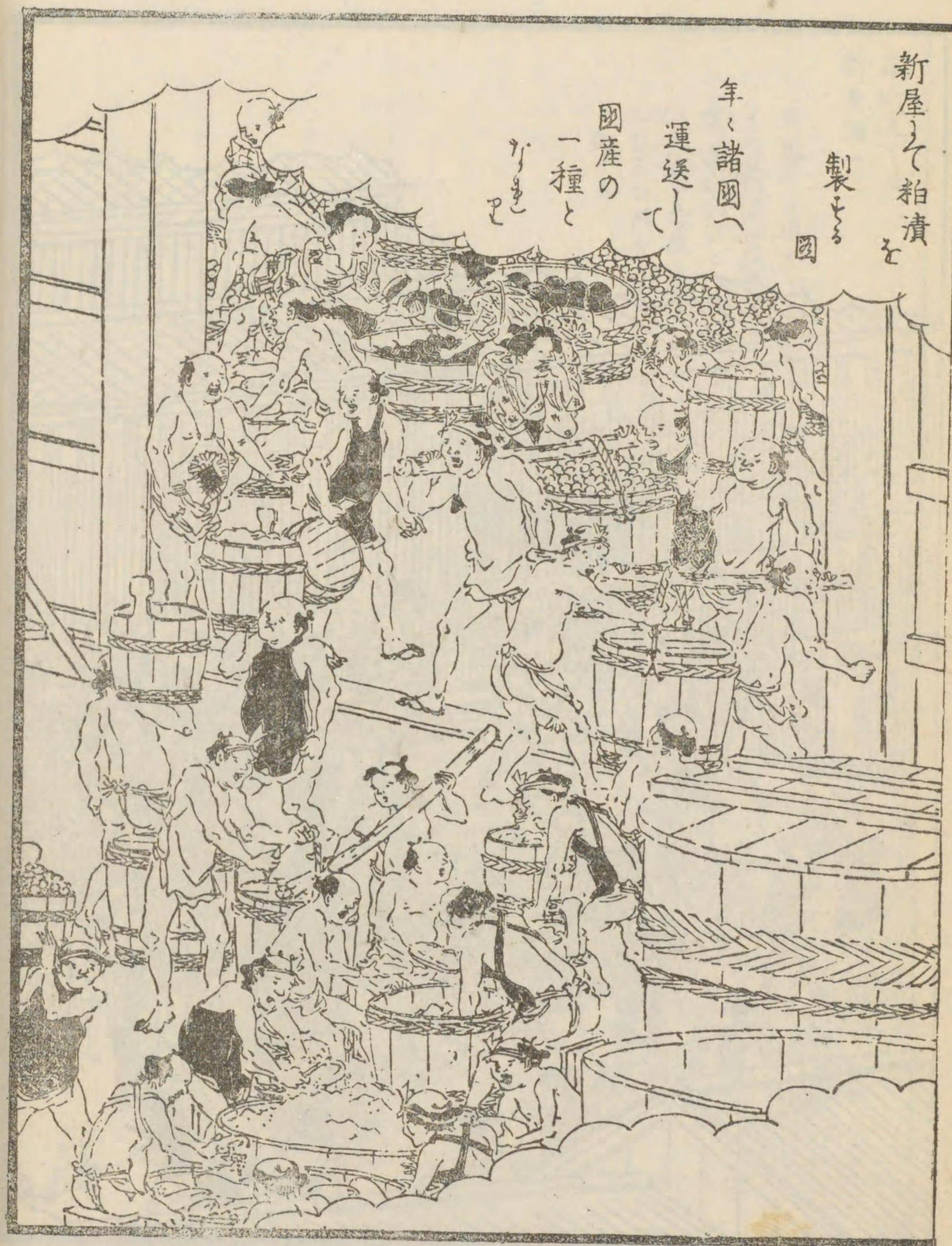
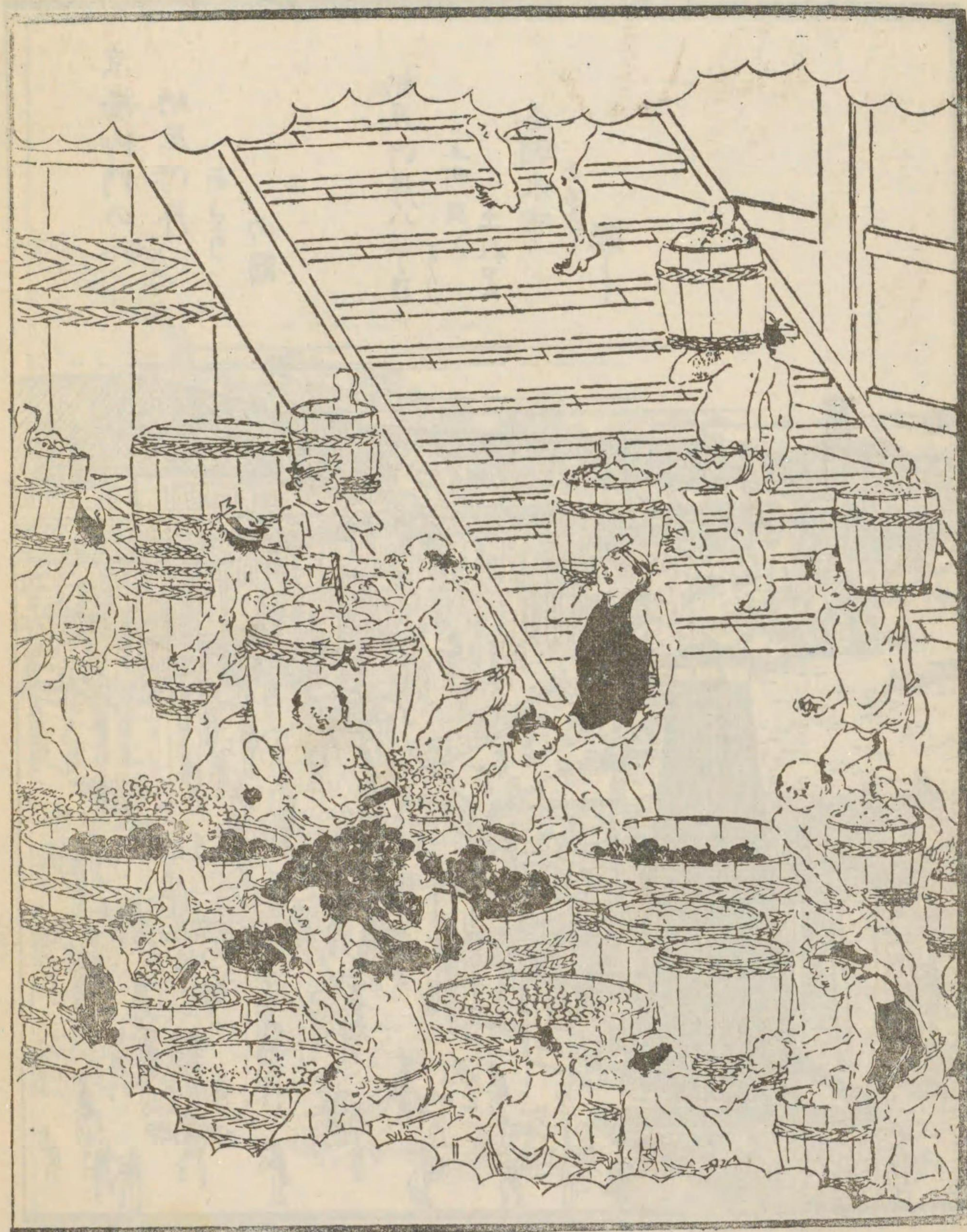
本町御門の外
 廣小路乃番



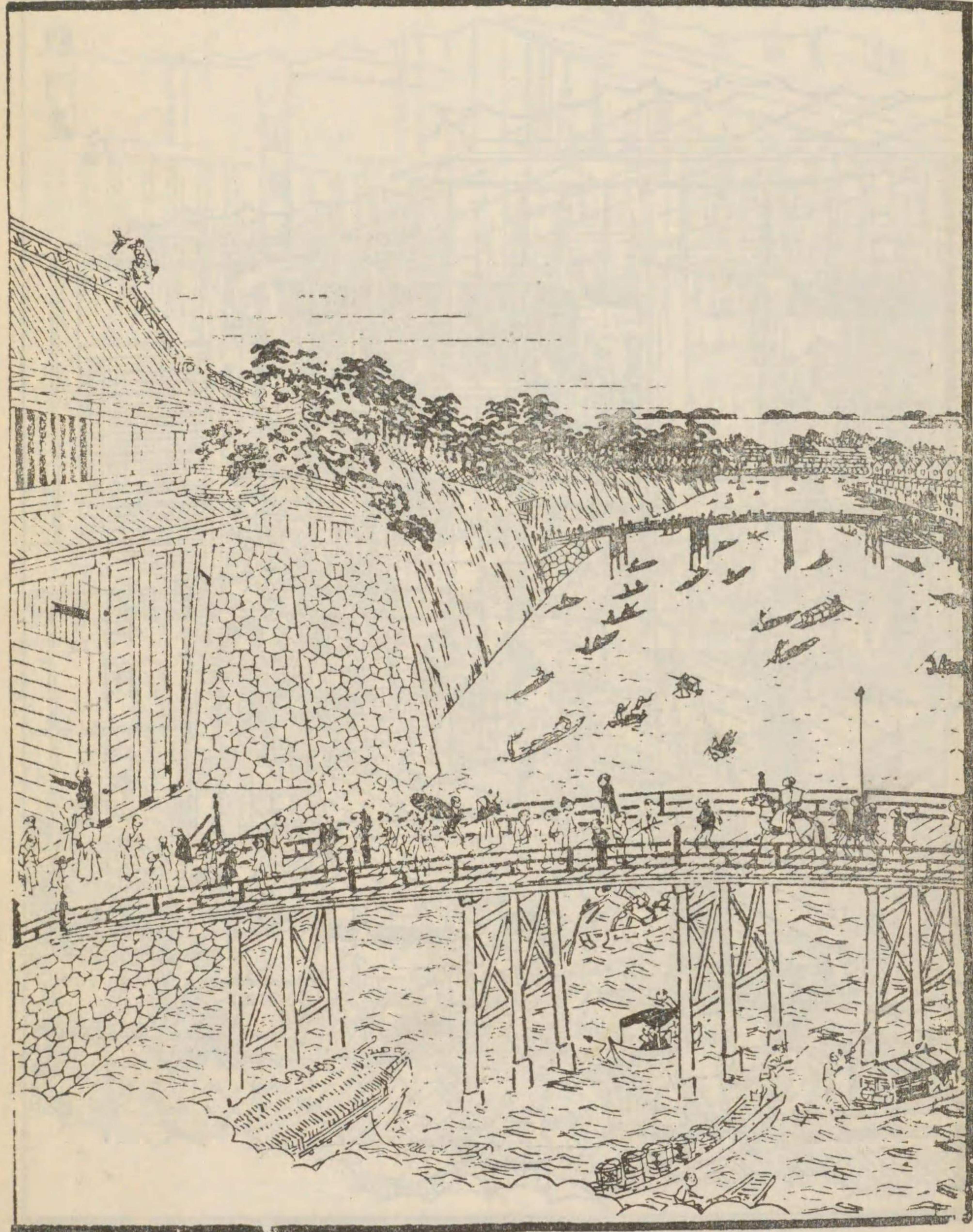
本町五丁目
新屋酒店

東陽の日胡まぶき
より新酒とひさく
羣集おびびり
江戸豊島屋より
上巳の白酒をくら
い飲り

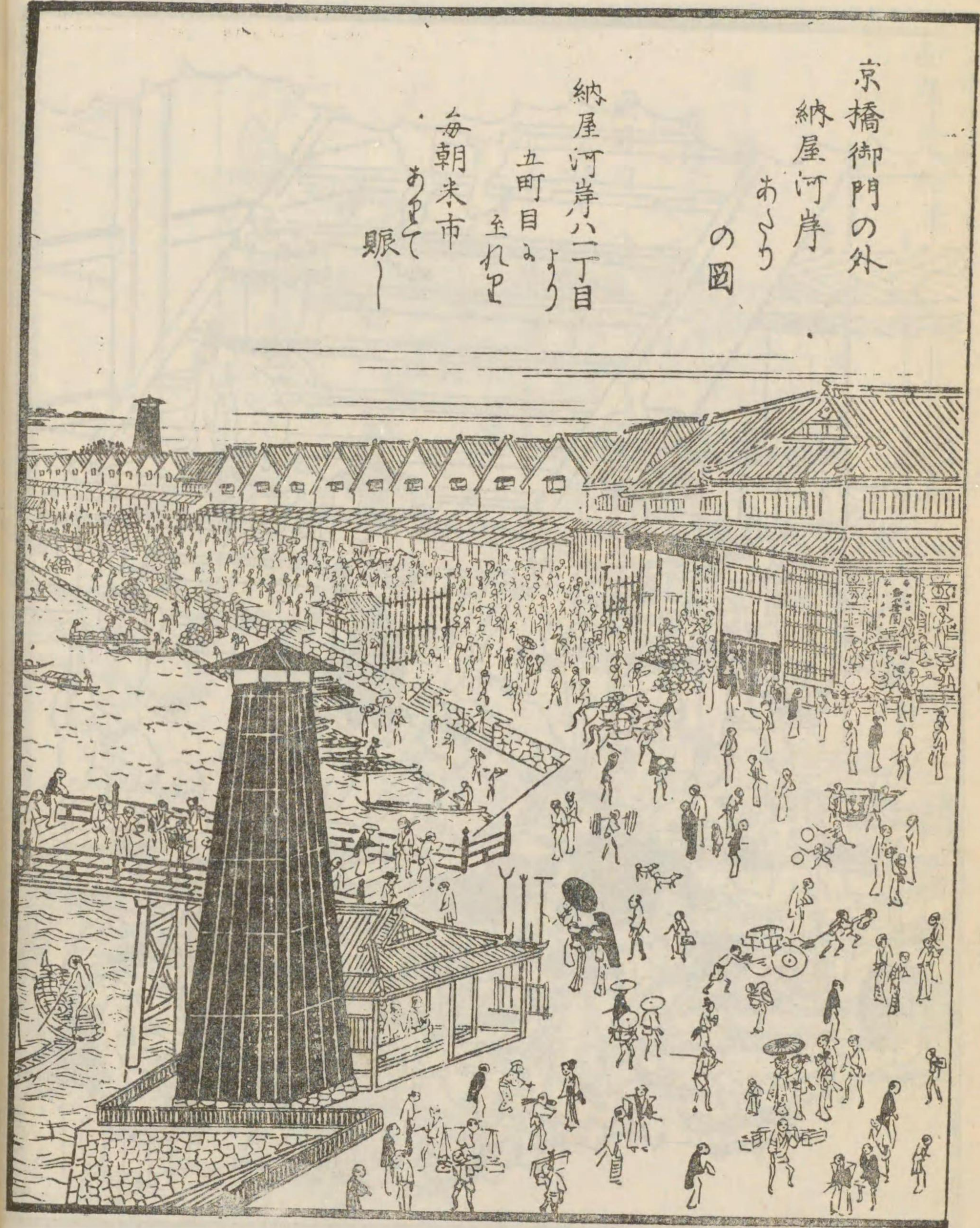


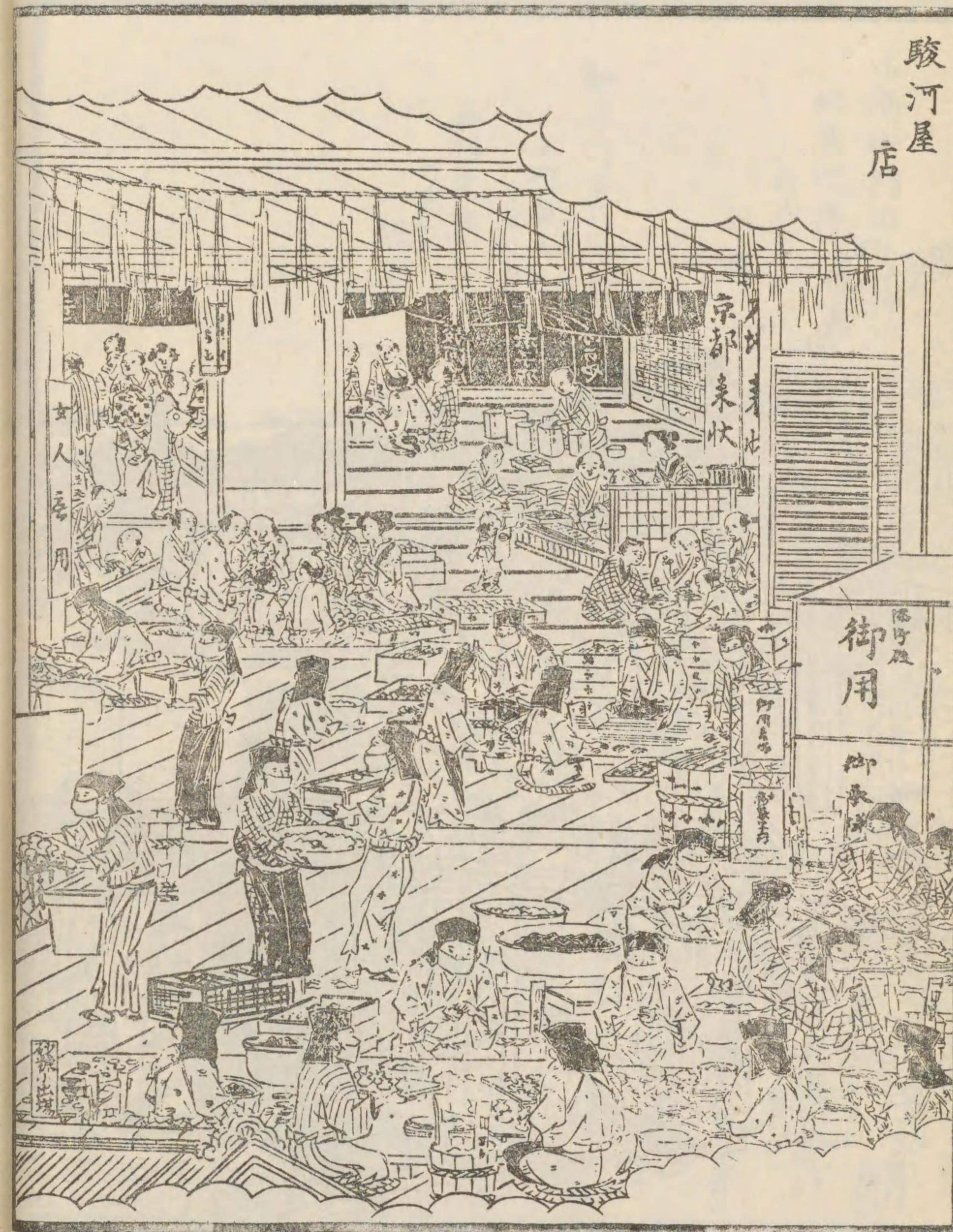
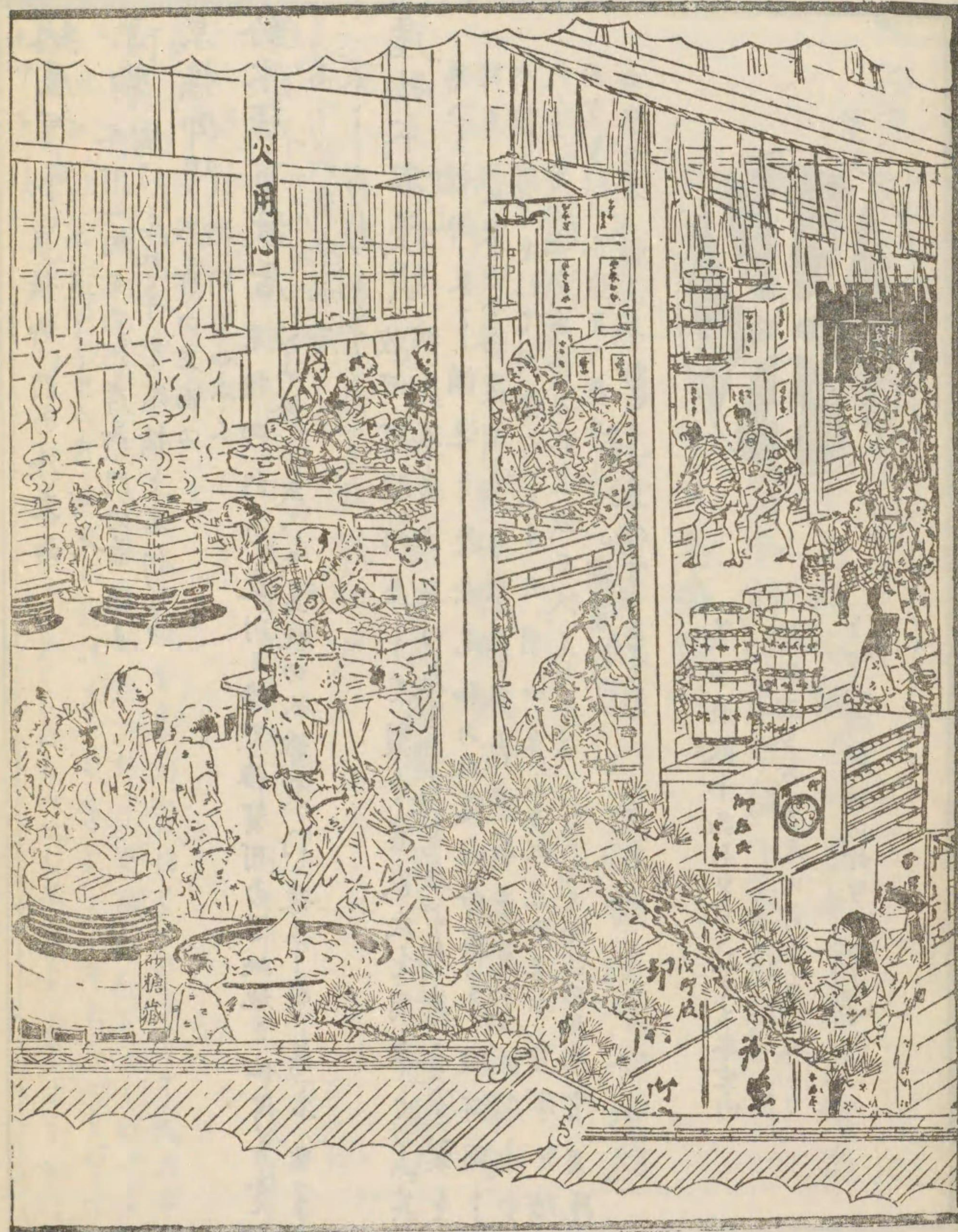


新屋にて柏漬
を
製する
年々諸國へ
運送して
國産の
一種と
なりし
也



京橋御門の外
 納屋河岸
 あらり
 の圖
 納屋河岸八丁目
 五町目より
 至れど
 毎朝米市
 あらり
 賑





納屋河岸

京橋御門の外東西
小通一丁目

京橋

本町一丁目
河津御門の前面

京橋御門

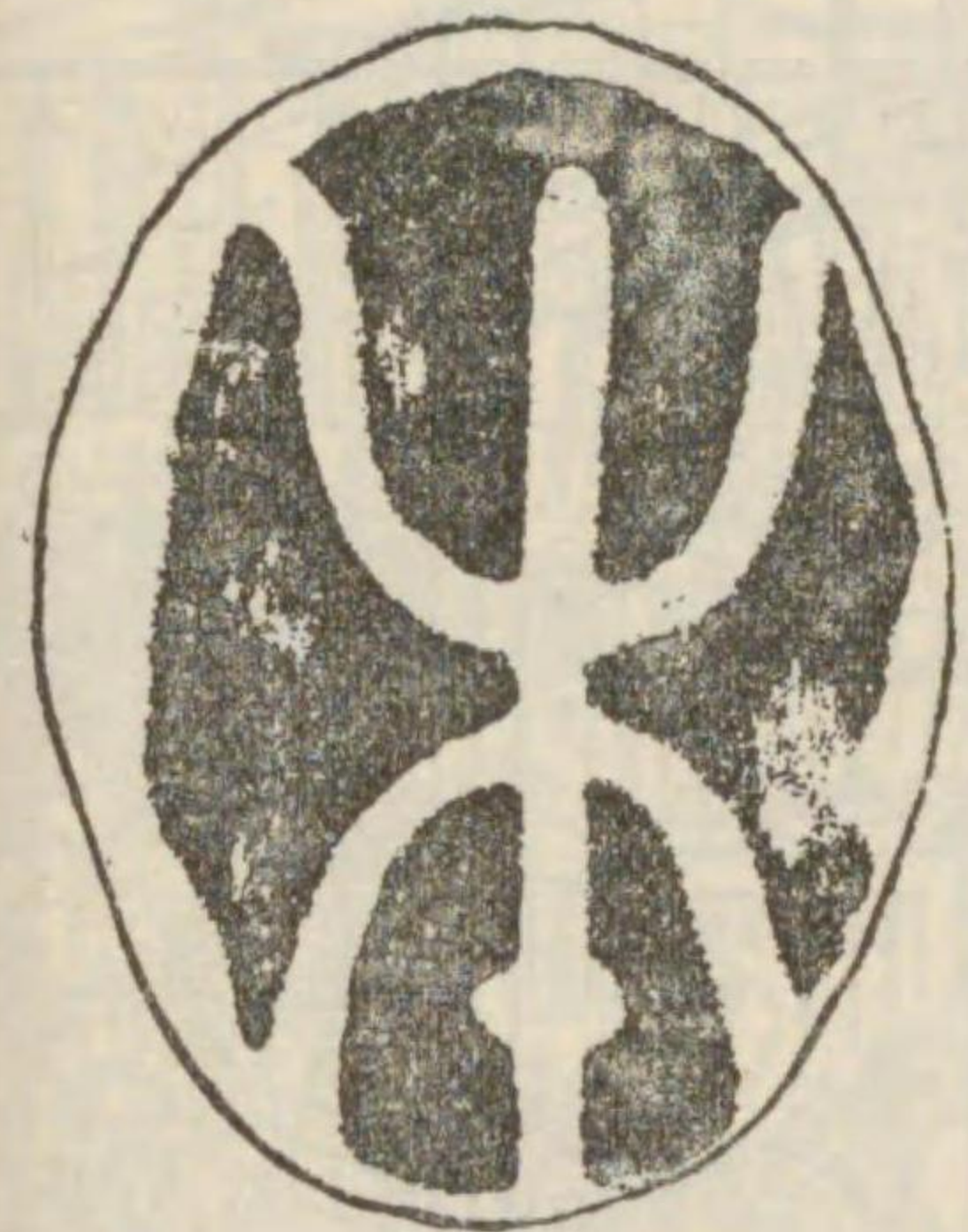
内郭の正面の御門

鈴木孫市故居

京橋御門の東川に傍て、雜賀町ありて此地に住せしや
高し其裔冷水府
家ありあわらむ

産物本字饅頭

駿河町駿河屋にて製せし當家氏を岡本と云ふ其
祖山城國伏見の産物と云ふ古來より菓子の製を
傳へて播磨家より調進せし慶長元和の比屢命ありて駿河國
轉居し又若山小出店を其後京大坂南都名古屋も出店し今
六箇所に分れて同製を賣ぐ天明四年より伏見の店小出店を賜
ひて今小及び命の故を以て伏見を本店と云ふ若山の此店官用施
向りきれ尤盛なり屋号ありて鶴屋と云ふ
高貴の名に憚り事ありて今号ありしむ



菓子取敷千品ありていへば本字の
焼印ありて慶元以前より形の形あり
と云ふ焼饅頭の始りしむ

鍛冶戸

本國鍛冶の事古書に見ゆるを因りて
裁す今東西鍛冶屋町あり各郡あり

鍛冶戸紀伊國十三畑右鍛冶戸毎年當國計帳進

官官先下主計寮全計損益然後下寮即從十月一

日至二月三十日爲番役使

九五畿内處紀伊等國鍛冶戸百姓調庸徭分者附

眞調送之

養老六年三月紀伊國韓鍛冶杓田鎧作名床等合

七十一戸雖姓涉雜工而尋要本源元來不預雜戸

之邑因除其号並從公戸

雜賀鉢

曹小雜賀鉢といふがかり雜賀ハ本國のあまき地名りまきど名草
海部二郡ありしる雜賀莊の内より制せしや今も

釘貫里

府城の北今内郭と云れる地を舊釘貫村といひて天正年
中府城を築く小及びて郭外小移し市麿をあらうむ
北町といふ釘貫の名木の具の釘技より起まき
古書小冊をくみしる事ありてこれ此地も開塞とありしや

やぐ 浅野氏の文書

昌平河岸

湊の地東の片町より南北に通ずるとハ湊片原といふ文

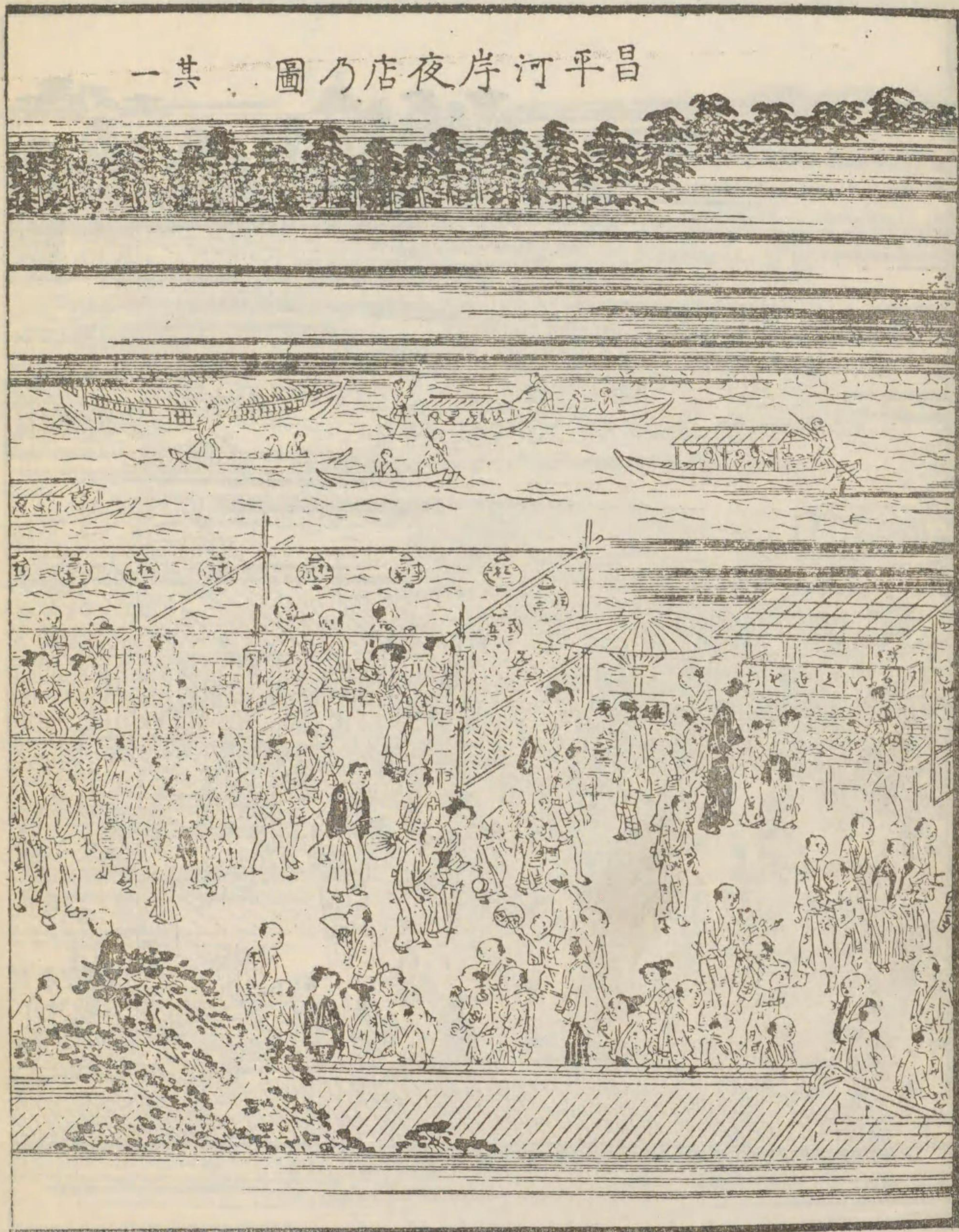
片側寄合橋の詰より干店を
建りぬ夜店ありていと賑い

昌平河岸納涼日記

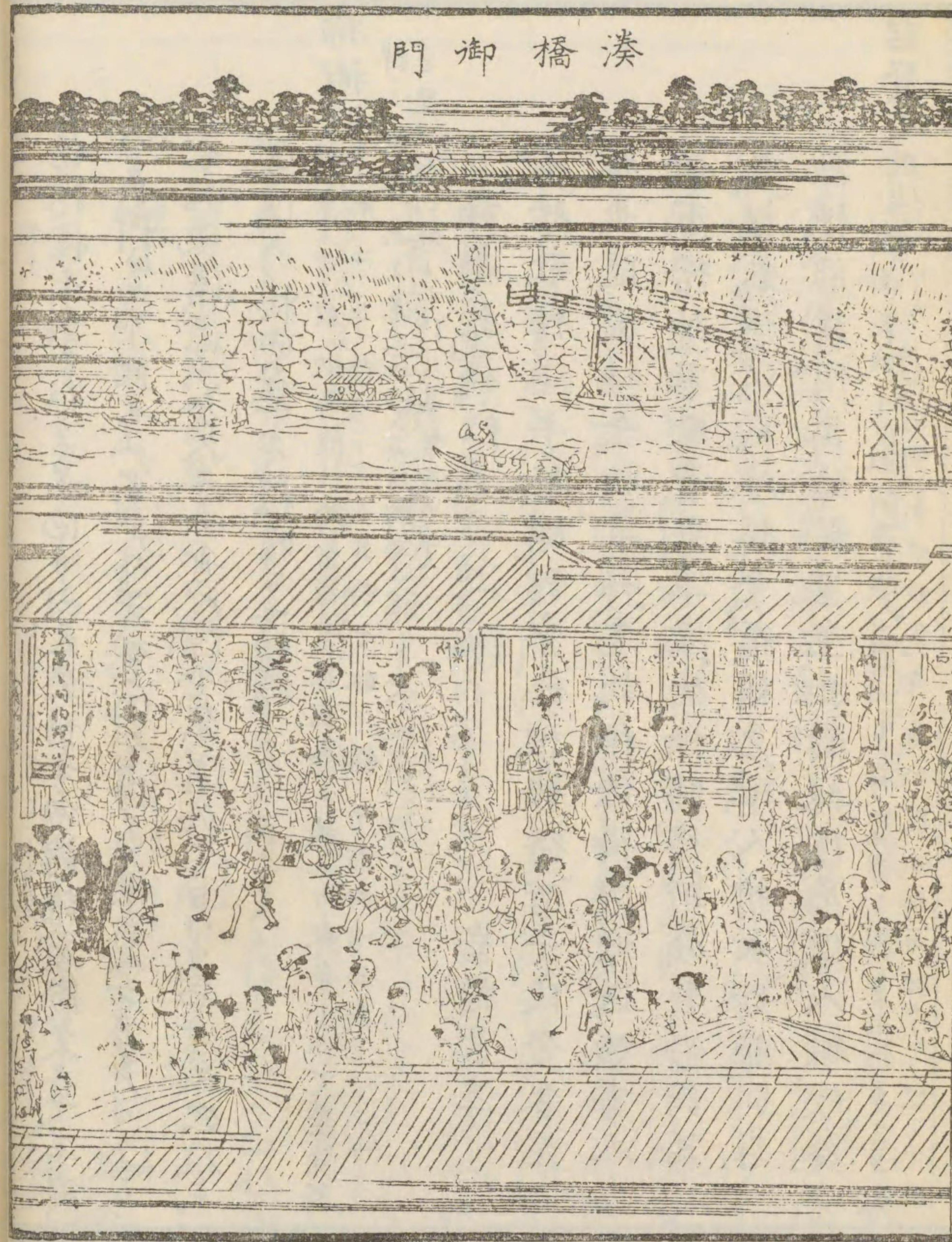
山丘を勢より多く市を誇りうらうらあらゆるは六月
さうり暑や六国してゆつりさうり昌平河岸納涼日記
此酒を飲むもあつぬもお節のやゆきうの人遠るもあつ
寝てあふふ太刀の決ひをやふる神は流れ堅魚うる海士
あ老は師の家名をとり破りてと走る蟬の羽あうらるるあ
歌はのうらうらしてあつぬさうりあつぬさうりあつぬさうり
我ハ顔るる相撲人もあつぬさうりあつぬさうりあつぬさうり
あつぬさうりあつぬさうりあつぬさうりあつぬさうりあつぬさうり
方々群居て賣る種は目くらふはれはゆく川つらにけ渡

さうりあつぬさうりあつぬさうりあつぬさうりあつぬさうり
きて夏瘦ふうといふ物を思ふ也運を果飯をせぬ海は
夏の花形さうり菓子も程塵を居るさうり糰餅結果を神さ
これと後さうりあつぬさうりあつぬさうりあつぬさうり
弱肩さうりあつぬさうりあつぬさうりあつぬさうりあつぬさうり
あつぬさうりあつぬさうりあつぬさうりあつぬさうりあつぬさうり
御膳さうりあつぬさうりあつぬさうりあつぬさうりあつぬさうり
一粒さうりあつぬさうりあつぬさうりあつぬさうりあつぬさうり
中より海の老れ若くして躍り出るも尺也價乃さうりあつぬさうり
なうていさうりあつぬさうりあつぬさうりあつぬさうりあつぬさうり
あつぬさうりあつぬさうりあつぬさうりあつぬさうりあつぬさうり
あつぬさうりあつぬさうりあつぬさうりあつぬさうりあつぬさうり
菓子齋くさうりあつぬさうりあつぬさうりあつぬさうりあつぬさうり

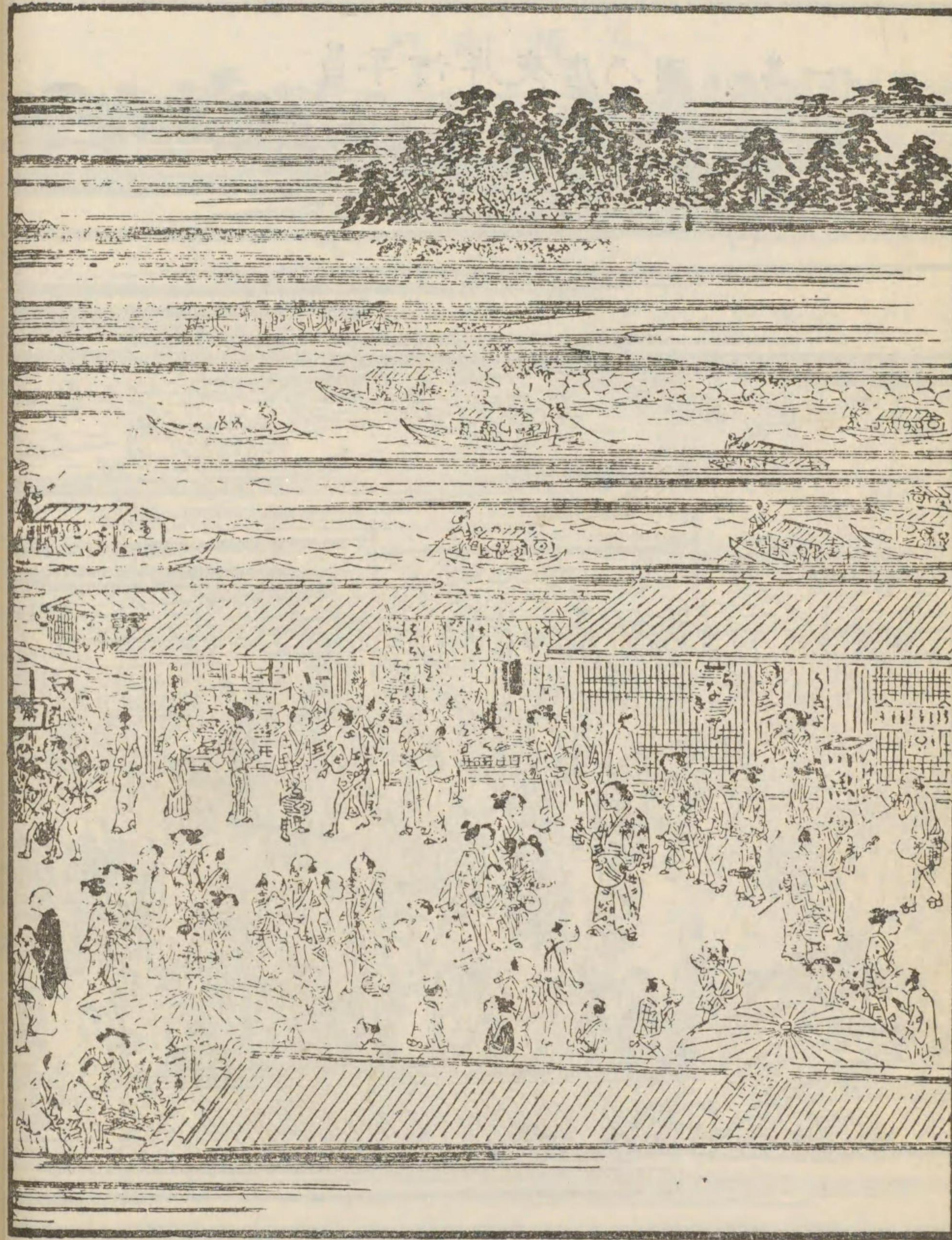
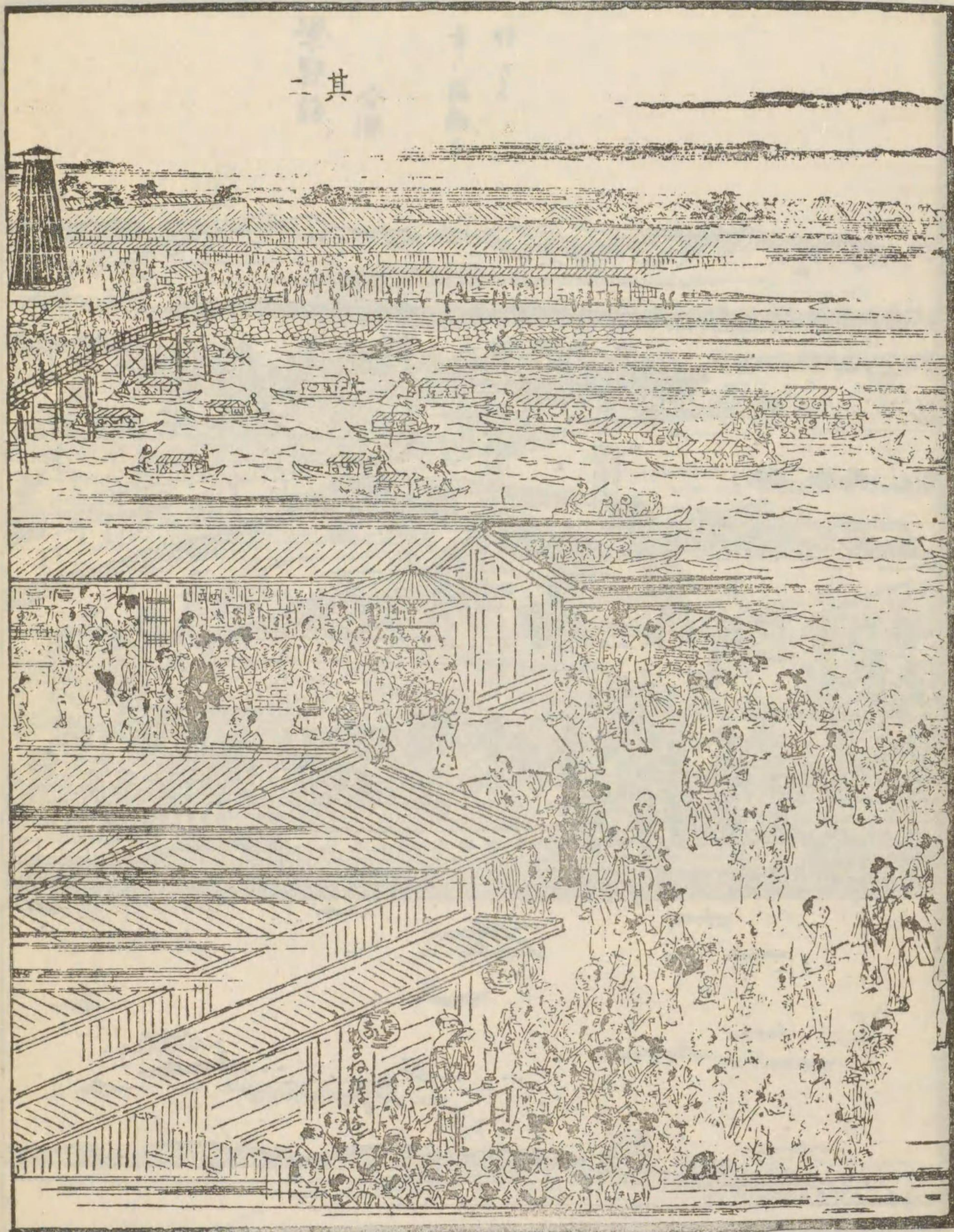
昌平河夜店圖其一

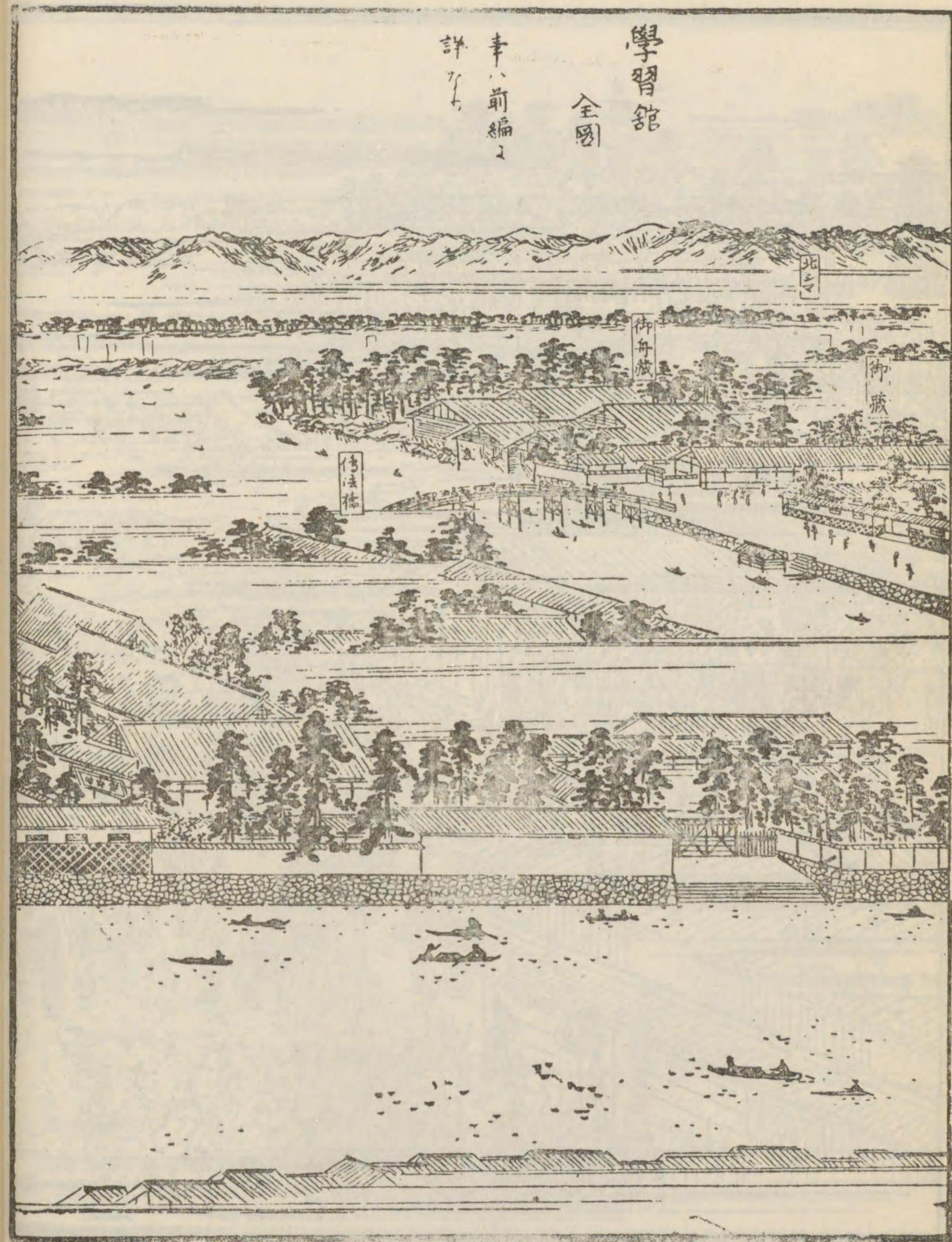
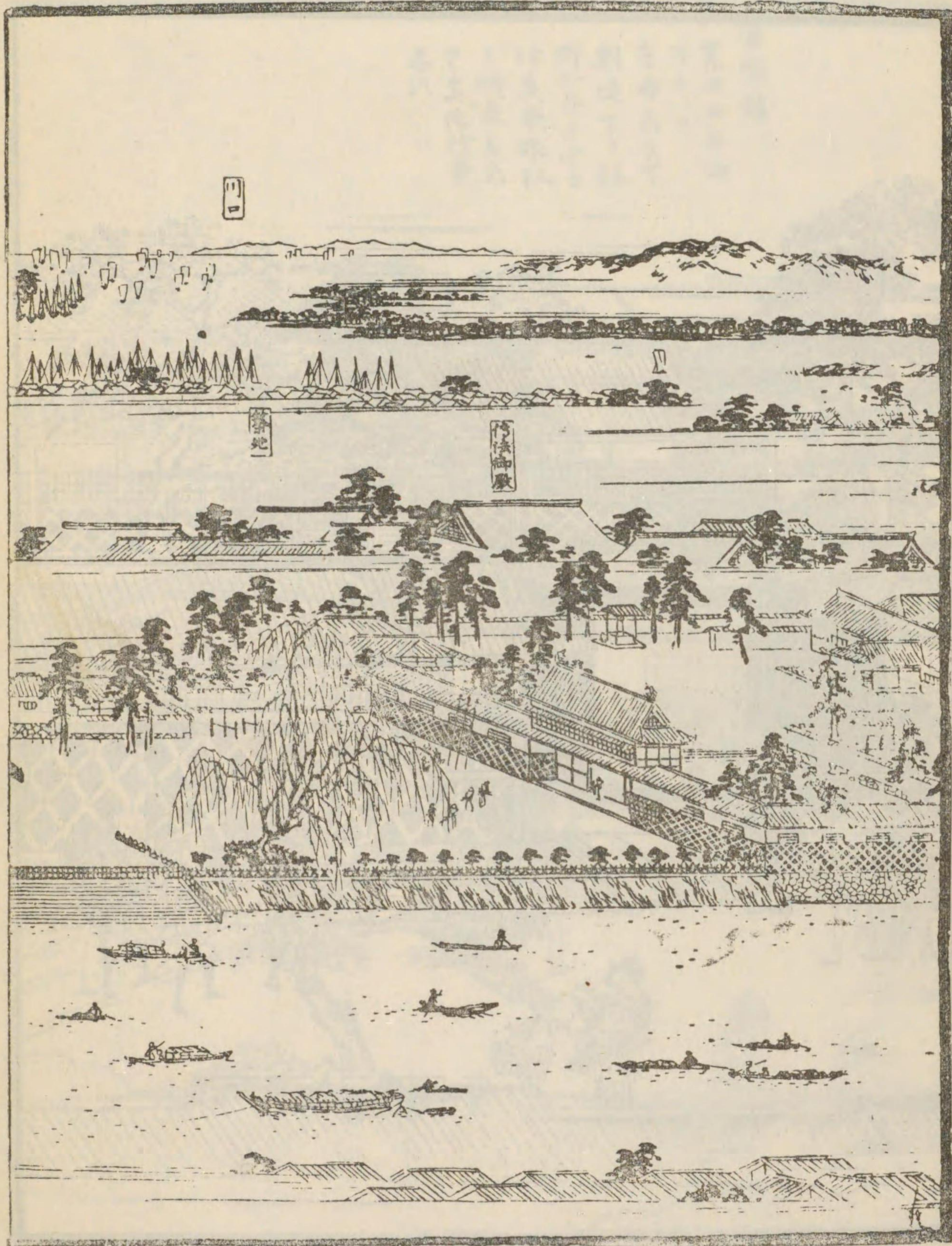


湊橋御門

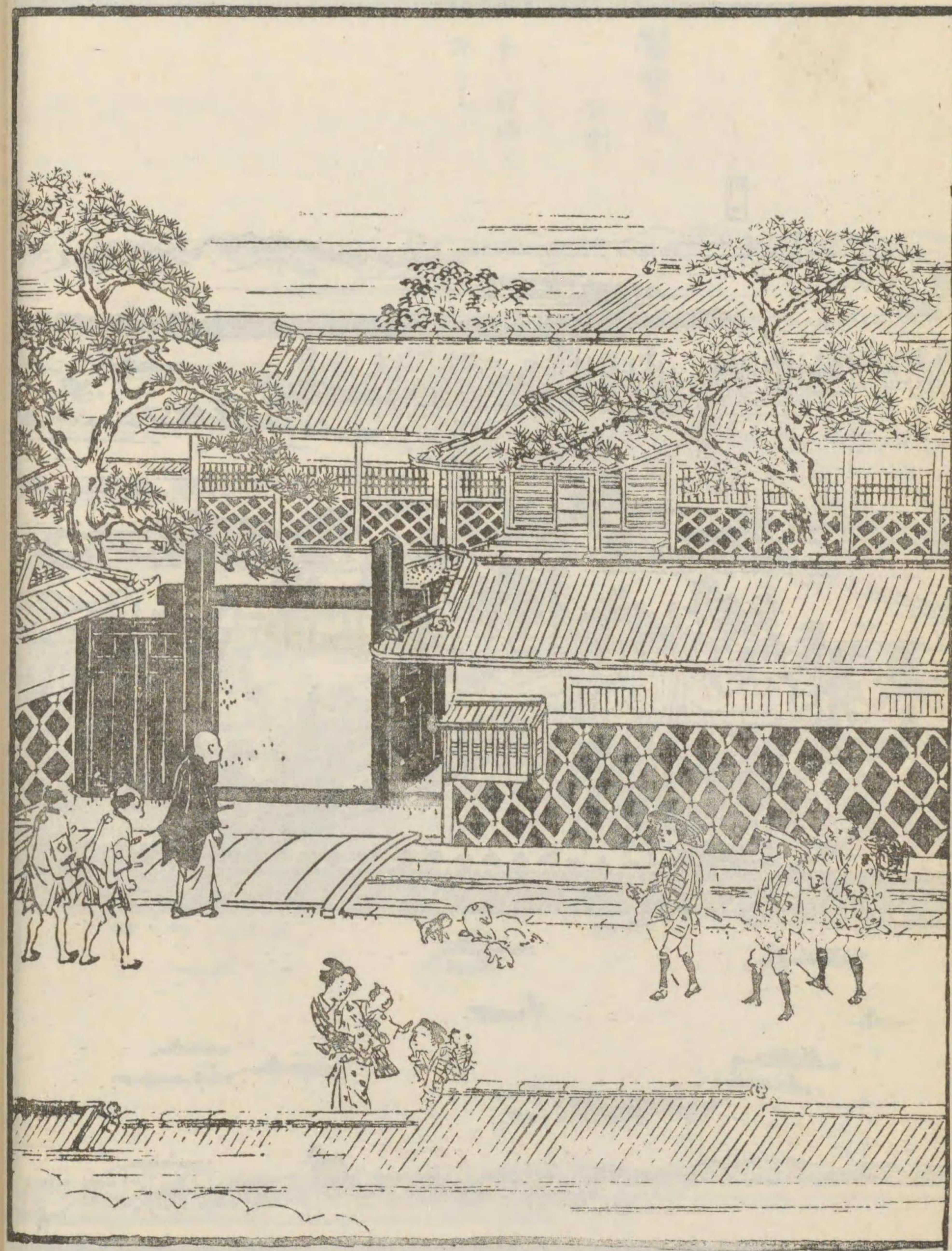


二其





醫學館
 寛政四年四月十八日
 官命ありて
 創造せり恒
 例正月十七日
 神農祭春秋
 二物産を
 其他行事
 各々



寺田湊魚店より慶長年中
元寺町寛永年中今の地に移り

力士蓮井象之助碑

寺内より象之助の寛永年間の人にして身長七尺の
過く碑の高は其長より比して作るといふ又平生佩る所
の雙刀あり大刀ハ身長四尺五寸中心
一尺五寸小刀ハ三尺餘也銘ハ元載す

江州湊井郡之産蓮井象之助鬼勝行年二□九身長

七尺強臂力過人又能相撲無有與此敵者頃年来

在紀州一時使良冶鑄所自佩之刀勢如長戟鬼勝

揮之擊之其易如轉骰子不亦快乎實可謂希世之

巨力奇代之大男子者也於南紀肥前守藤原鎮忠

造寛永丁丑十四年八月

湊築地

川口より南ハ大雁木の波塘
より北ハ城山の波塘迄の間をいふ

天保七年五穀熟らば翌年には米價も高く高直して

賤民餓乏及ぶ者多し加之疫癘流行し道路も倒る者亦

サ々々官此を憂ひて茅舎を建て病を療むり或ハ巷

衢の便よりて粥を施すといへり窮民死絶されり更ハ川

らんの舉あり并海路の運送年々小繁く川口塵埃も埋れて

濶も瀬と變り通船此便宜なり其窮民をして土砂を堀

と地を築う其用度を與へて餓を救ふ此舉五月中

旬より始て九月上旬小至り人数ハ老若男女を合ふ日ハ數千

人より及一里築地の廣袤南北八町許東西一町より代も

いふる海潮の衝る所も水底の淺深定むる役民多

くハ氣力做して脛弱されり土砂は運むるも役民多

りるを以て遂に其功就まり實に救荒に大奉といふ也

了れりち彫りて宅を築き魚市は場々運送も以前に

倍と祭

漁者

湊上町網屋町材木町植松町の四町ハ漁夫
多し因り上古海部の大抵を充てり載す

應神天皇の御世海人郡を定め大濱宿禰を海人の宰と

湊築地の景

御船蔵の園

南紀風雅集

正月陪

國君駕船春遊

遊賞不辭至夕暉

童冠醉舞者春衣

回看南海足歡樂

萬里風帆自在飛

那波道田

天守雁林

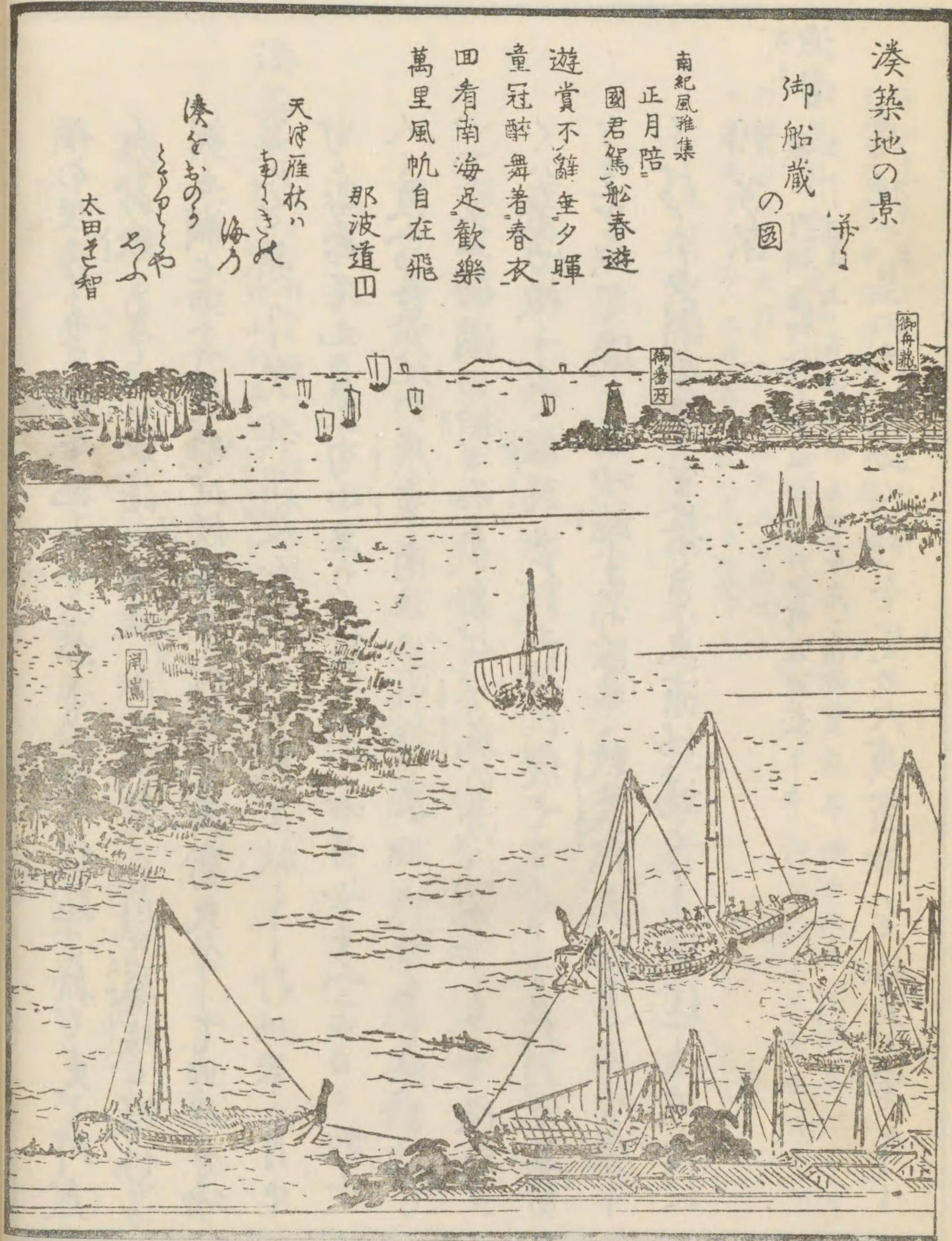
南紀風雅集

海力

湊をものう

くさくさ

太田忠智



同 夏晚泛舟海口

火雲赤日影俱收

泛艇海門橫晚流

萬里長風驅暑去

孤峰明月送涼浮

棹歌遙唱青牛渚

漁笛忽驚白鷺洲

人世聲譽何足慕

一身已任一輕舟

井口仲虎

入るやみ

えのあけ

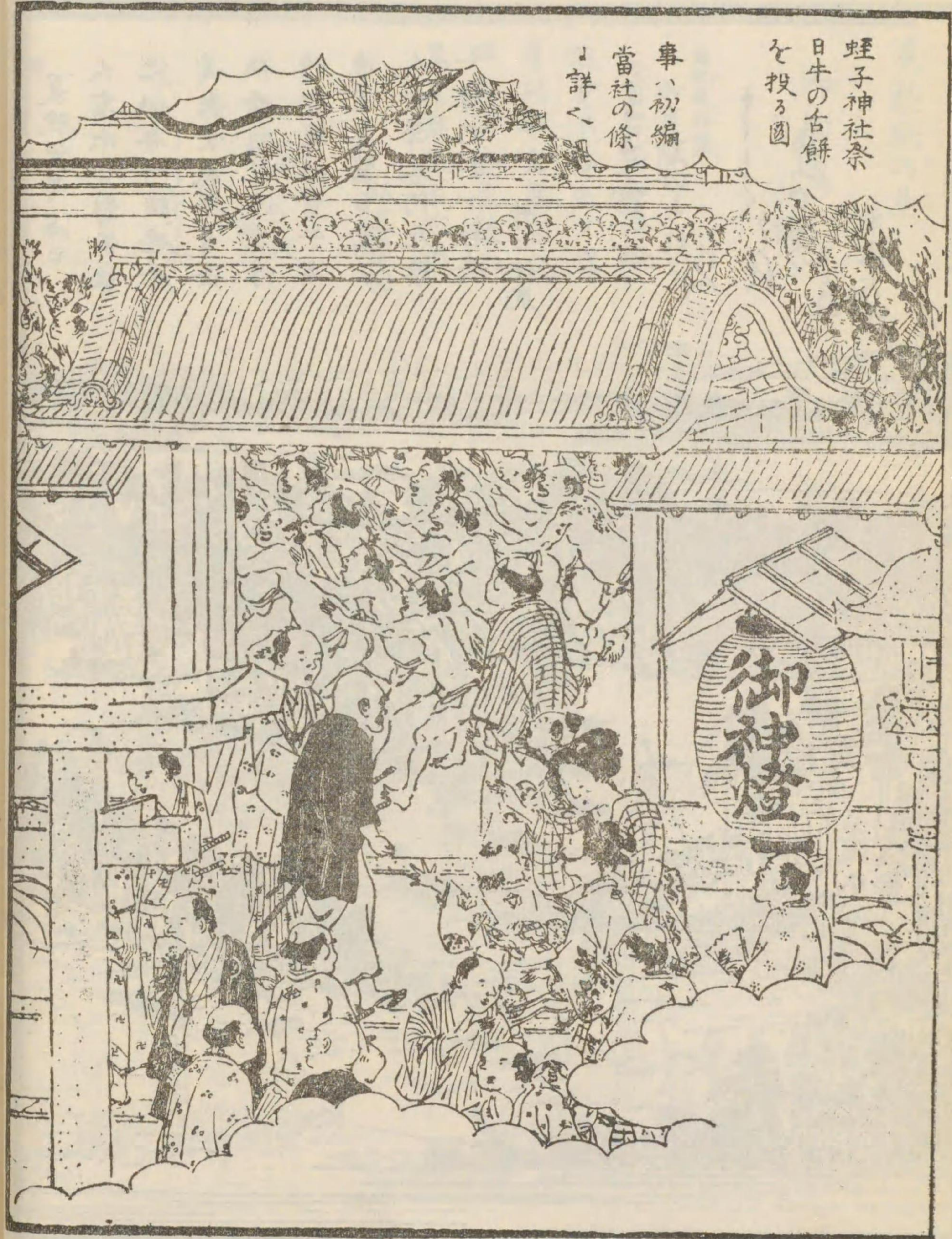
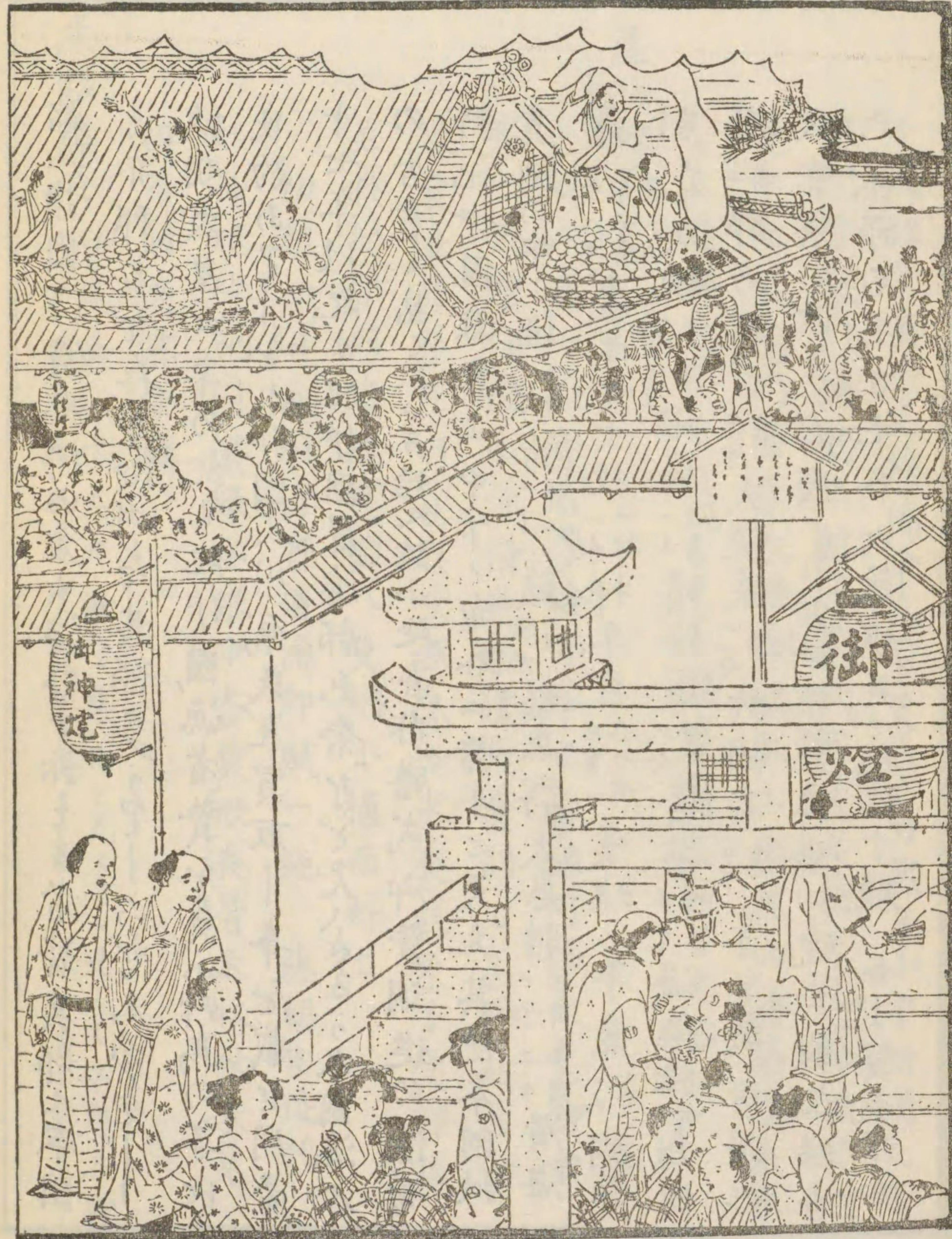
け

ゆつやみの

ゆ

本居大平





蛭子神社祭
 日牛の古餅
 を投る圖
 事、初編
 當社の條
 詳く

給ふ諸國海濱郡郷の名も海部と称する者皆其部之本國
 も亦郡名を存す所あり其部多し一六や志ろ魚一
 欽明天皇七年の紀も紀伊國漁者贄を負ふ州馬の子に
 良駒ありしを大和國入川原民直買取一事を載せ同帝
 十七年比紀も紀伊國置海部屯倉なりと見えし本國海人
 の古書に見えし始ふ故小延喜内膳式御贄調進の條旬
 料紀伊國雜魚上中下ノ旬各三擔半と見えし其他本國比
 貢調の中も塩一丁結一丁八丁鱈六堅魚九丁久惠腊一丁三十滑海
 藻一丁八十六龜甲十七枚一押年魚中男一煮塩ノ年魚一人鯛楚
 割一人大鯛一人海藻一人滑海藻一人青苔五十海藻根十鳥坂
 苔五十那乃利曾五十大疑菜一百於胡菜三十等を載せ踐祚
 大嘗祭の條も本國より獻る雜贄薄鯨四連生鰻生螺各
 六籠都志毛古毛各六籠螺貝ノ燒塩十顆ハ并々賀多潛女

十人程を量りて採備一じと見えし然る小中世浦々も
 権門勢家此漁釣と称し莊民寄人と號し神祇官の
 龜甲齋院禊乃堅魚大膳修理木工諸司の海藻雜魚亦
 をも進濟せしなりぬるより類聚符宣抄も見え

産物

産物 湊川を上品
日本靈異記云

吉野山有一山寺名号海部峯也帝姫阿倍天皇御世
 有一大僧住彼山寺精懃修道疲身弱力不得起居念
 欲食魚語弟子曰言我欲啜魚汝求養我弟子受師語
 至於紀伊國海邊買鰻八隻納小櫃而歸上

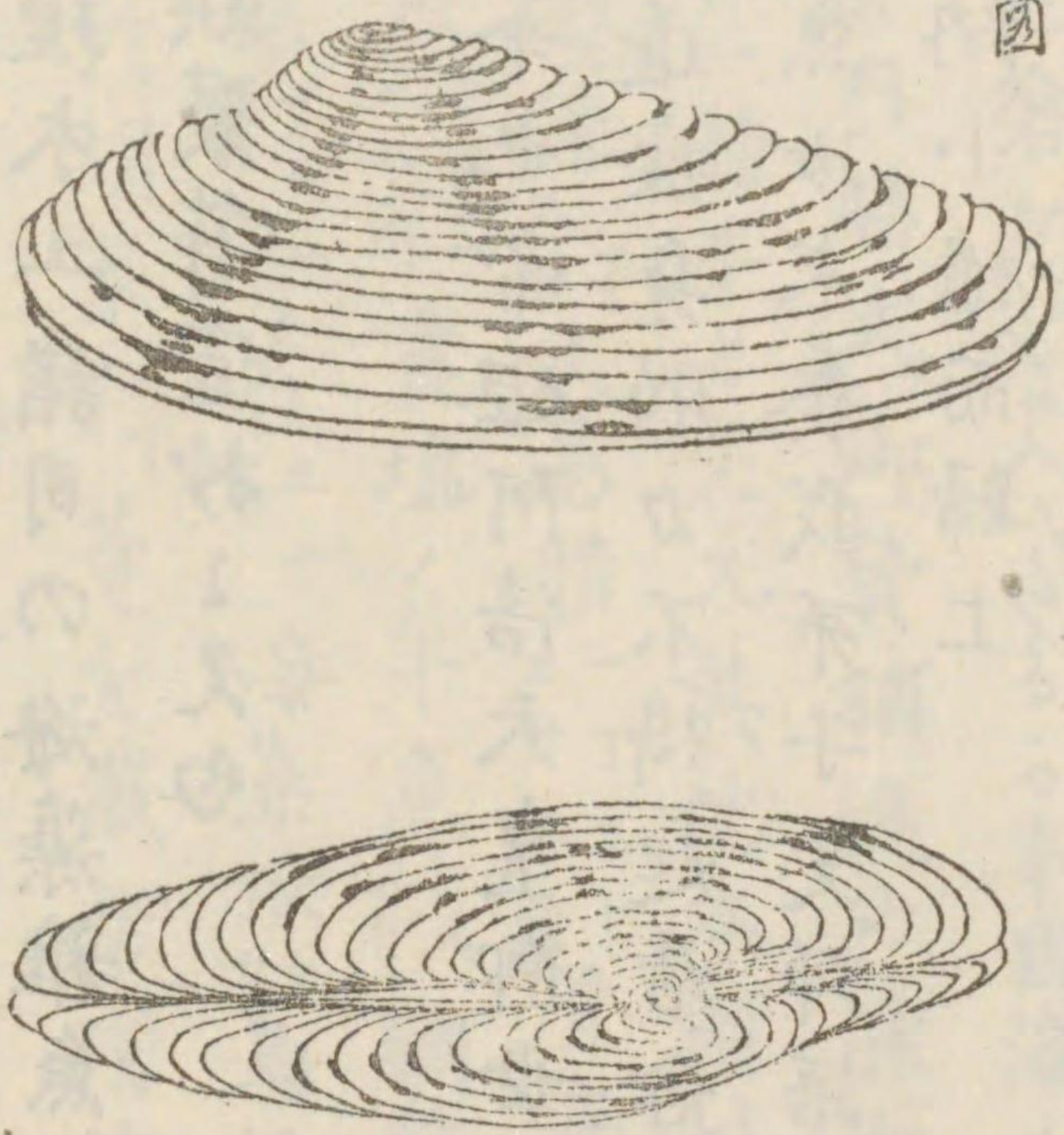
初秋四日紀川浮舟遊漁即賦一絶 藤朝臣俊純

輕舟短棹紀川濱綠水銀沙杳莫根炎暑未收秋未見
 西風網裏紫金鱗

産物

産物 簾具 山家集に吹上の濱乃簾具と見えし是は本國名品
 乃一種也今府下比西荒濱り産す吹上の旧地なり

形を以て名とす品類多し真々藤々と称するもの一名つらら女ともいふ
 形助蛤々似て肌淡褐色斑文光澤あり横溝隴相並ふ雌雄あり
 雄厚く長し雌赤長くうず色淡黄うずて理文細く文点彩色も濃なり
 其大なるを香合とて觀ふ又姫簾外あり一名ヒメ々といふ形芦々
 似て肌灰白色うずて褐斑あり又阿波簾々あり形姫簾貝々似て
 肌淡褐色うずて深褐の斑文光澤あり又伊豫簾々あり形簾々似て薄
 く肌滑うずて淡褐或ハ灰白或ハ深褐斑ありて細の如く又うず簾々あり
 一名姫あざりといふ形伊豫簾々似て赤薄く
 肌淡黄色簾のことき横文理あり其二を圖

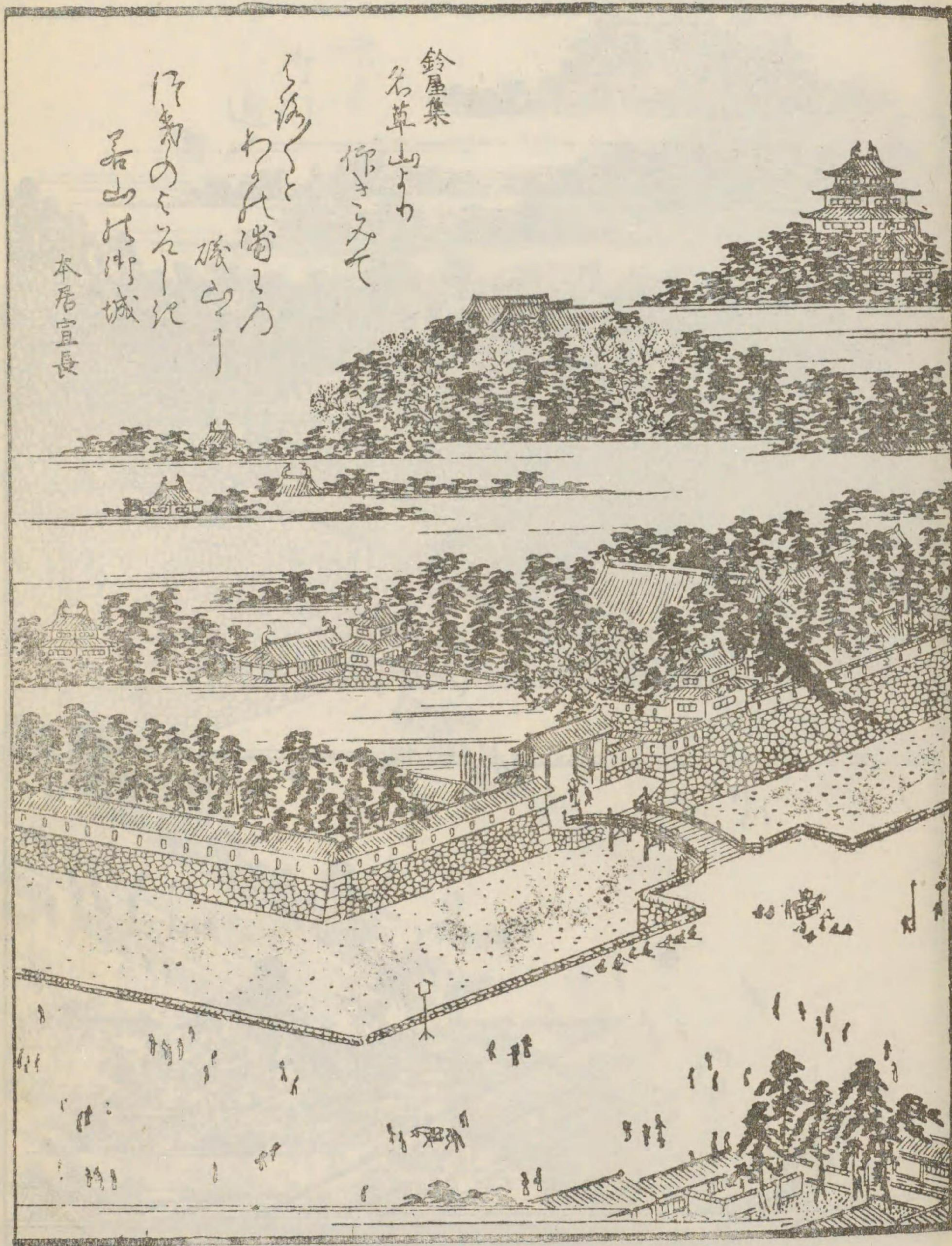


吹上御別墅の舊跡

出口の西にあり今はうん屋鋪といふ元祿のいや
 森十兵衛といふ人の記あり古のさよ想像すべし

吹上御別墅の記

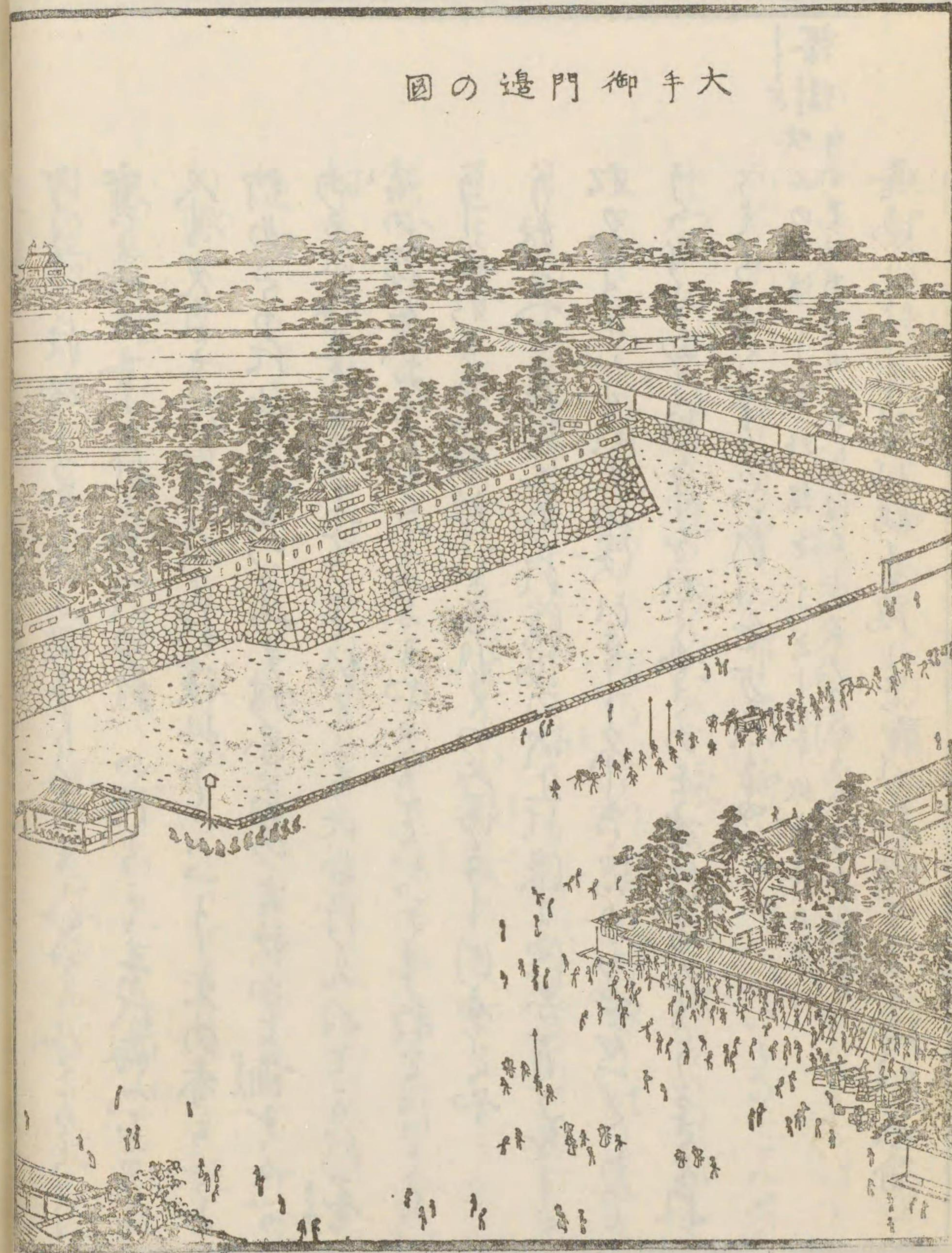
凡海山れとくれとるる色を足れとてさあーりあ
 事ハ大和もるこ志古今にわりて人の心をの性
 養の壽を可とすつとらぬりさうハ此吹上の濱
 ハえより名よおふ所を幾多を我君むりより吹上
 志免さで給ふ濱川のほとりよのうみく松乃林本あり
 立川ききよあふりつういよあれおまーあふり
 志つうれおを給ひおほやをわくくーあつとあお
 夏は渡を給つて道送ーかーる以府城をさか
 る幸まつに敷町おま心軒場と一と近をれと人の
 け来る道いよあふり常いよ物静やを西あれ
 といふ和田お魚とて浪りてゆつる淡路島よゆま
 と一阿波島かときくも近くもさあくも見所多
 又此み國のうちに名ある所数多傳ふ中一和歌志浦

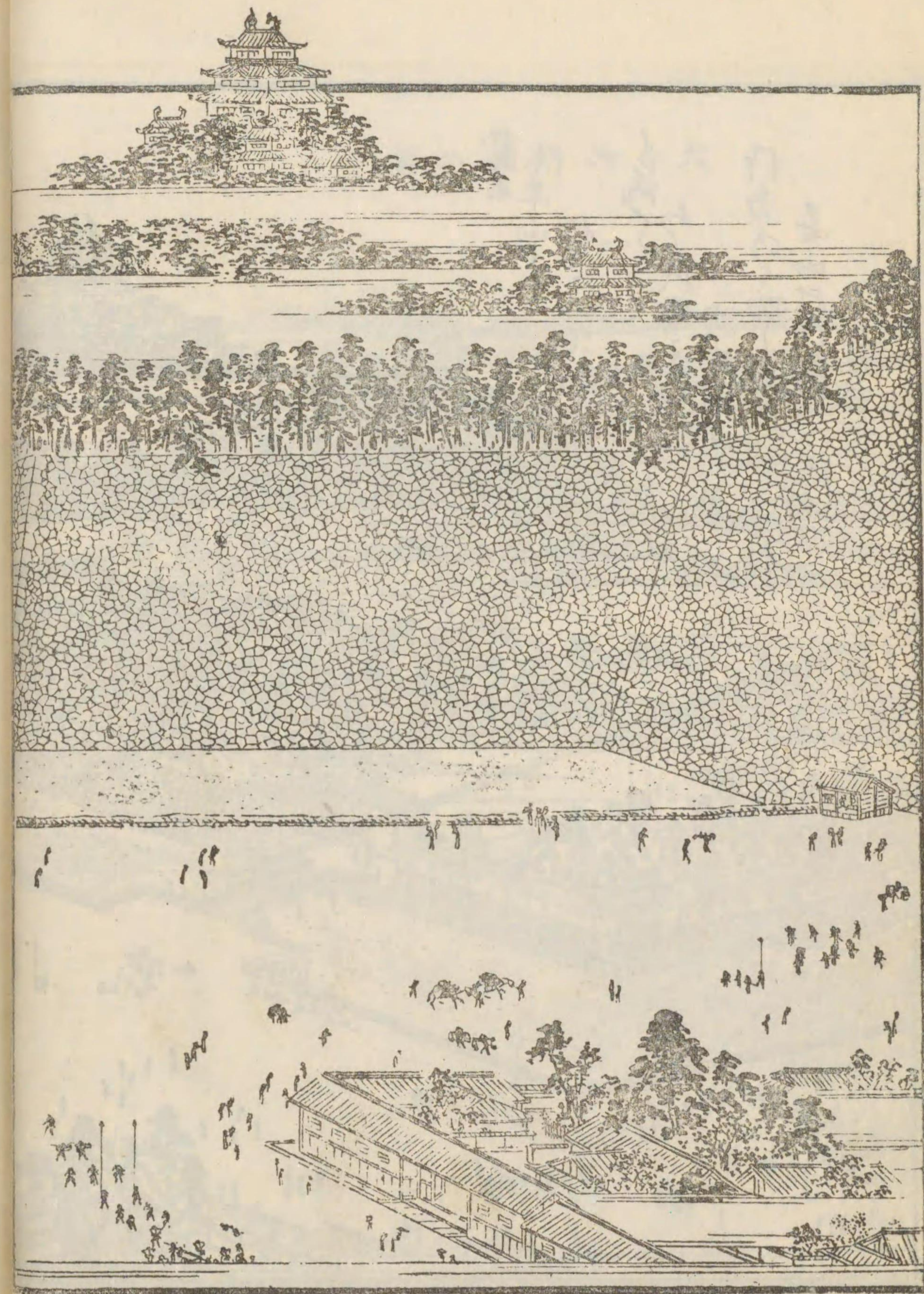
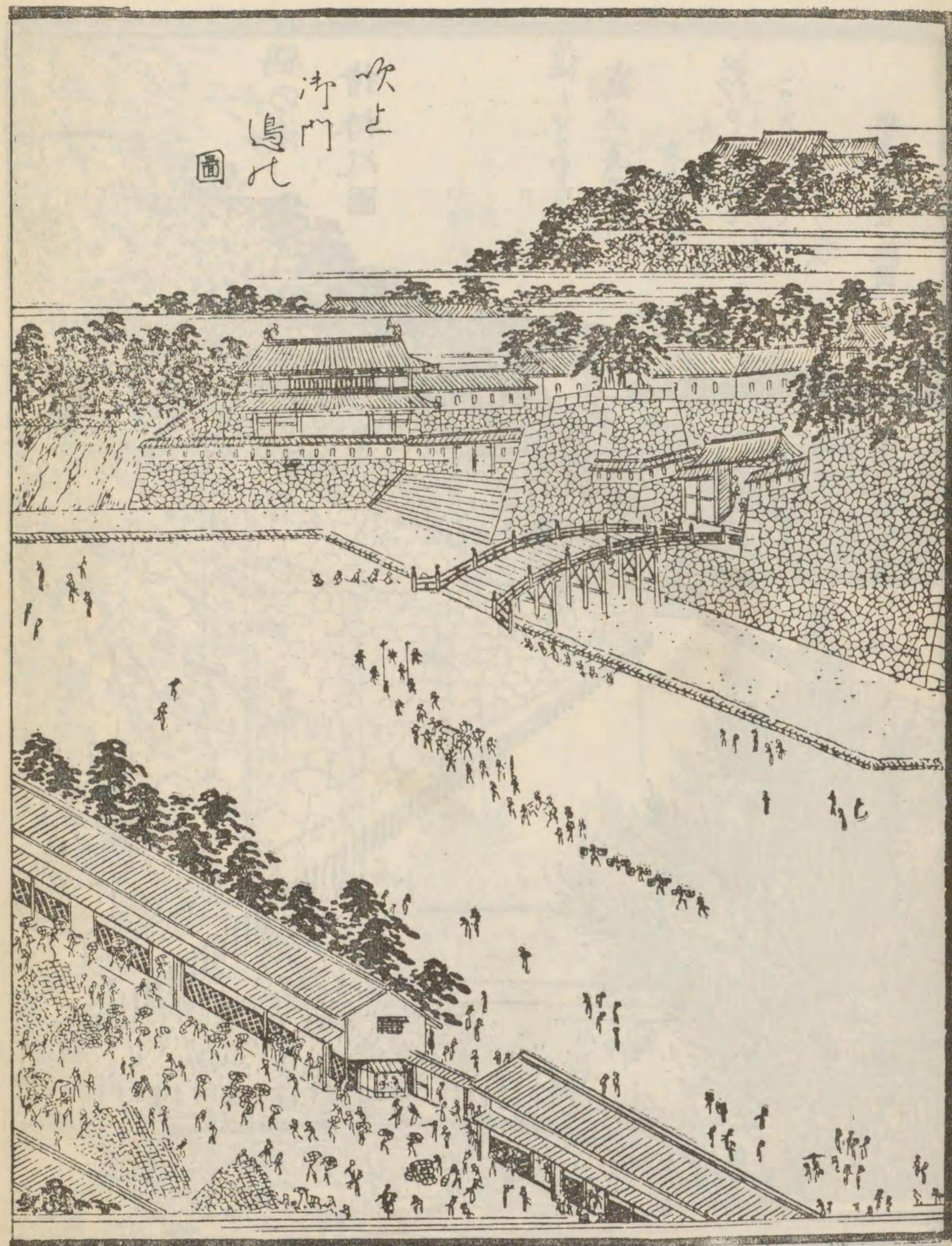


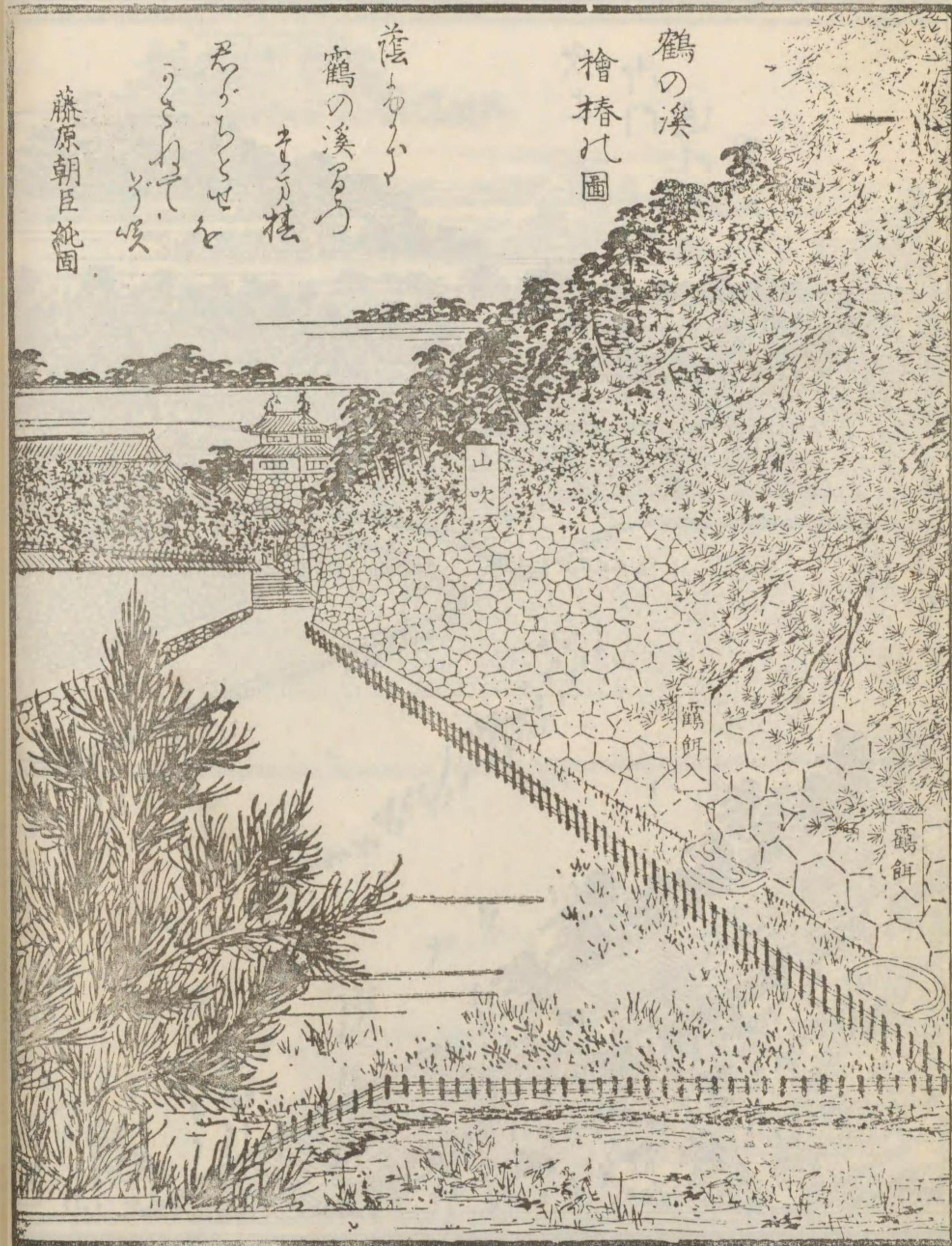
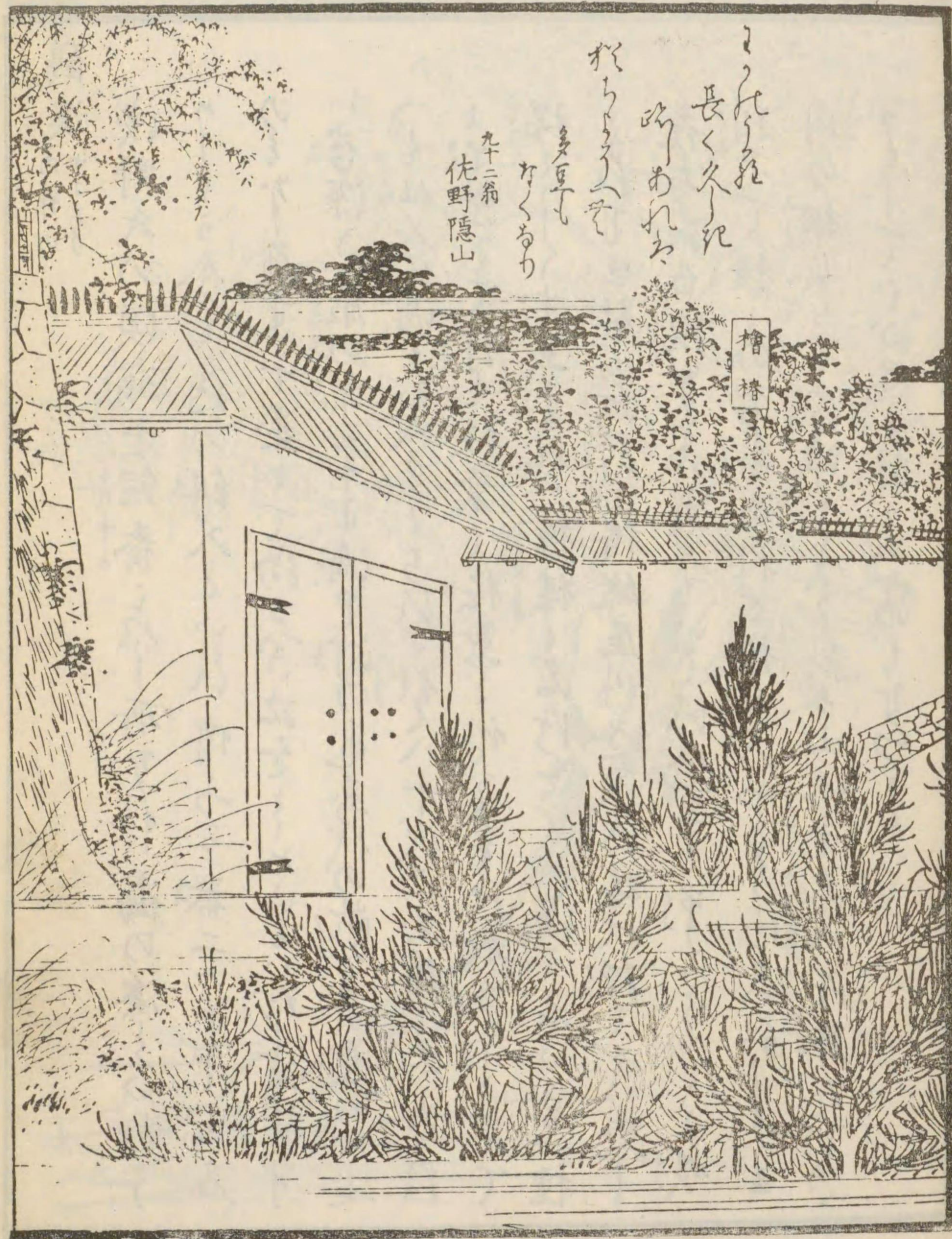
鈴屋集
 名草山より
 作きみそ
 石山
 石山竹街城
 本居宣長

石山竹街城

大手御門の圖









一重檜椿の園

大手御門
御舞臺

京橋ロニむくし御舞臺
西の丸
のあり

履玉集

御位とるせりふのよるいし棟樂優れて八十殿人の資賜れる事あはれ
正月十餘三日の月夜こえとれるし煙依り湧出でて葉も木立も白妙とせる
わしもあそび威すと舞出ると面白くといふも中々藤原 千廣
萬世はけのみのわにこころれて雪もうて水の松よりらるる
藤原朝臣純西

舞とけりふてあし松のわにせハきあふ雪は水海をうへあはれ

吹上御門

大手御門の西あり鷹の羽のうら
遠の紋あり淺野氏銀主の比れ余波那也

淺紀州太守庭前芍薬

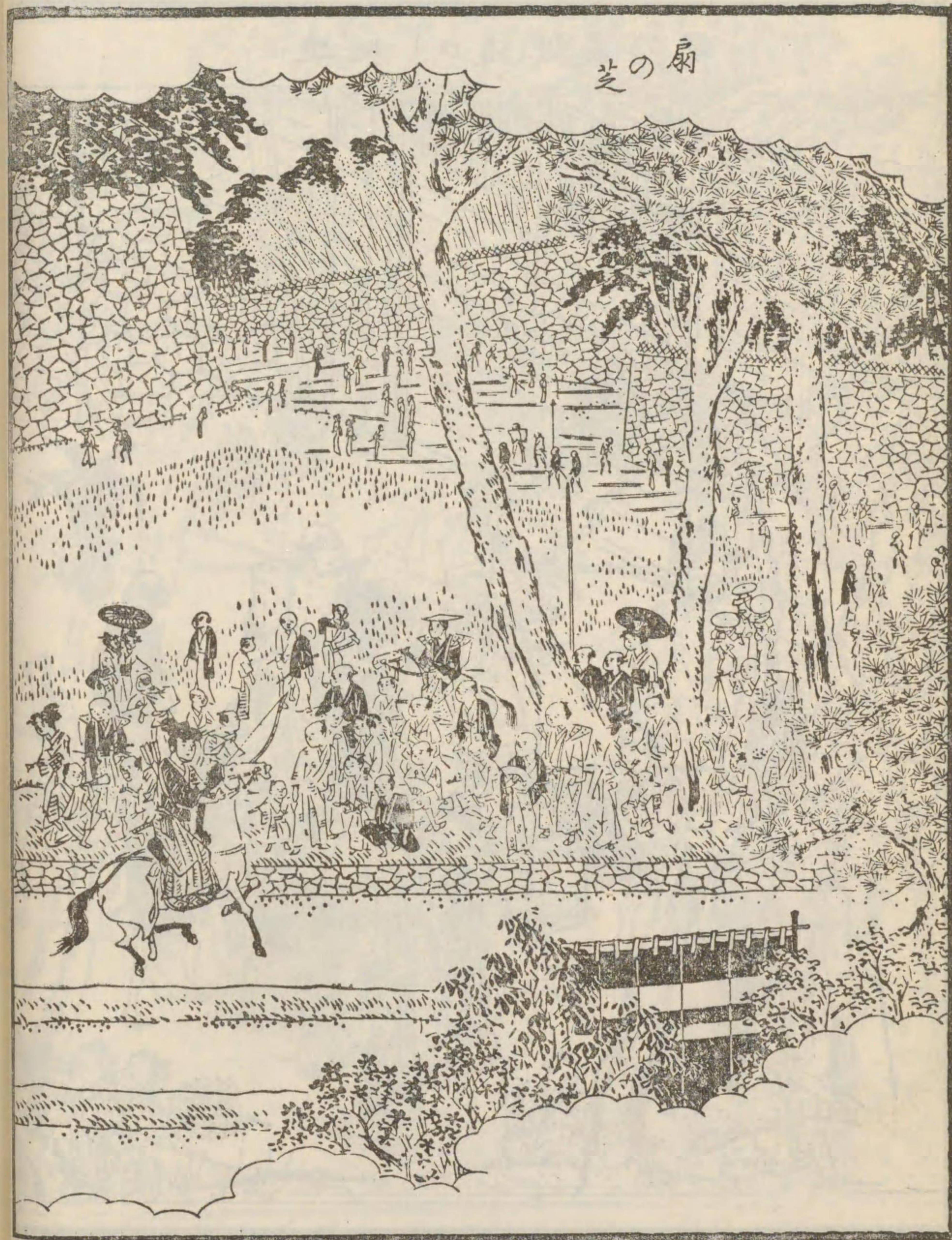
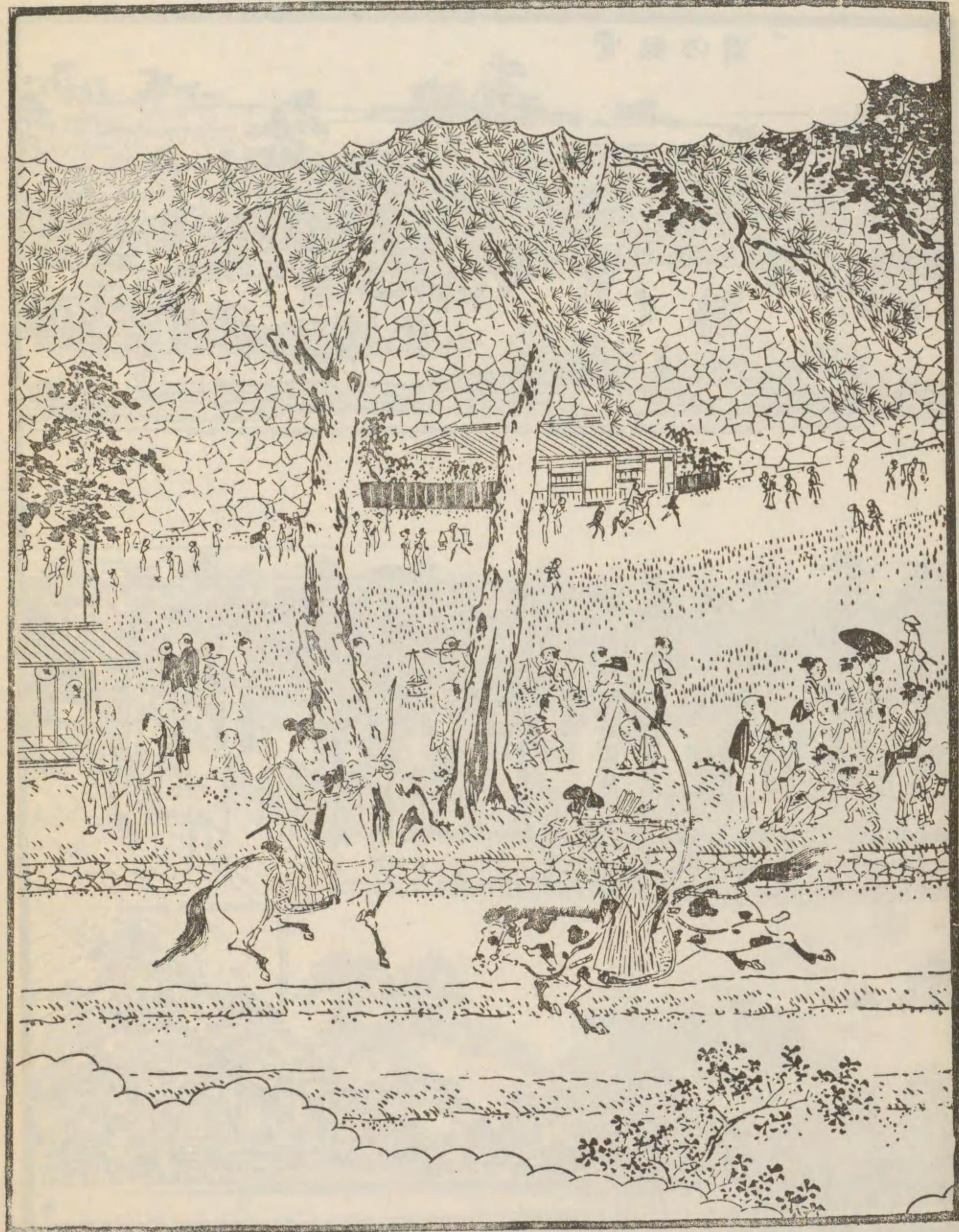
満庭芍薬絶比倫白く紅く錯雜新亡頼國家賢等
相除斯花外更何人

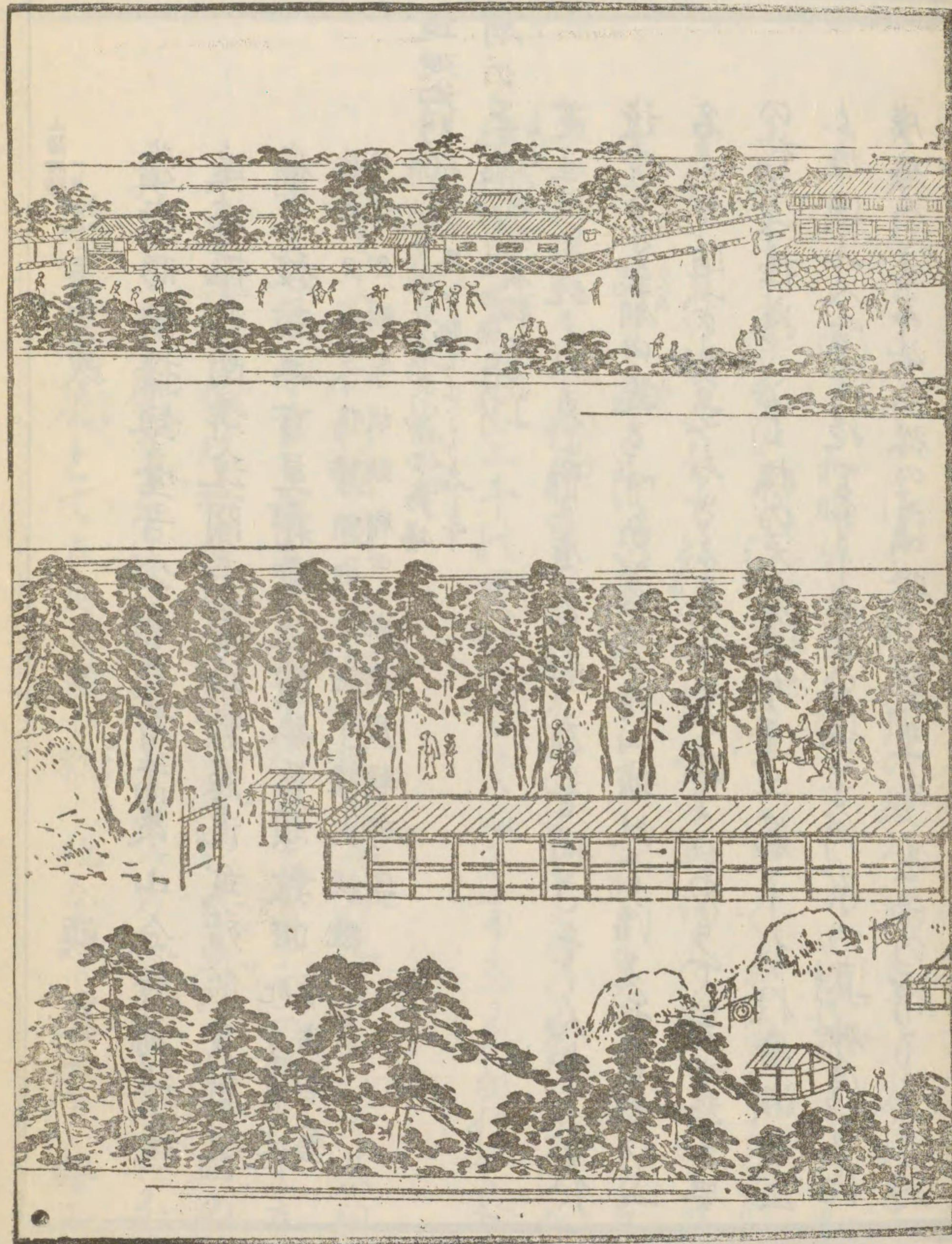
吹上冠木御門

吹上御門
の東あり

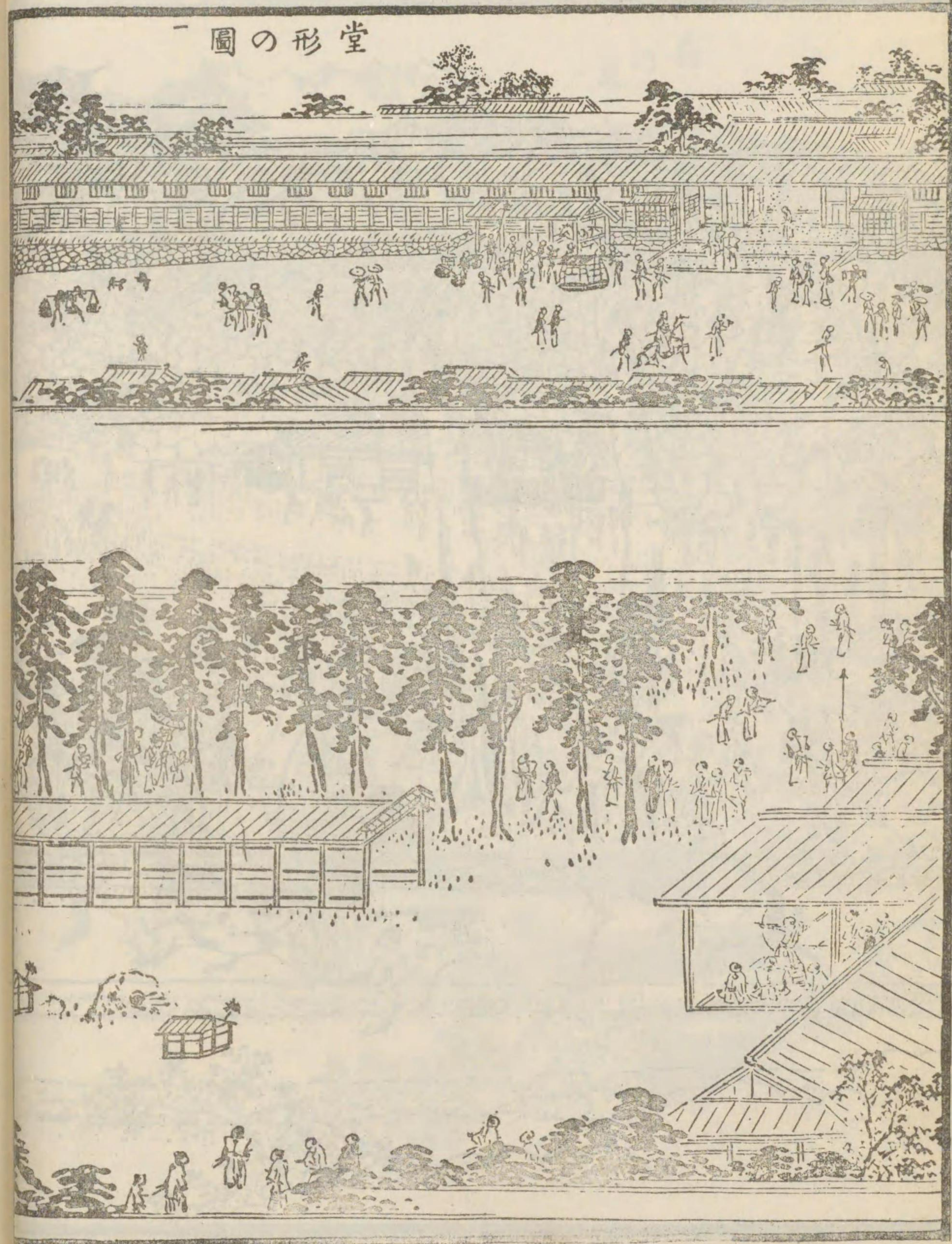
追廻 | 口邊往來の圖







堂形の一圖



紀藩書感

頼 裏

藩府形便接鎮臺吾公昔日剪蒿萊山分幾甸逶迤

遠海擁西南濤汎開平蔡功勳憑胤武殪殷戈戟鹹

廉來移封二百星霜變誰識孤臣頭數回紀与大坂
脣齒吾藝

舊封元和之役歸順戰于挫井獲大坂驍
將瀆丹輪等故頸聯云胤武用韓碑字

追廻御門府城の西のあり傍小馬場
あまや馬を馳らしと名とす

扇の芝追廻一口の南あり
此追廻名松原といふ

芝生の形北より東南へ廣く扇を開きをんやうなれ

流となく扇の芝と呼ぶをり山城北宇治よりありといふ

名も相通いとも是れを忌むる路よりありてあせ要

の松さへ極終るる松の木本より道二筋に分れ廣瀬吹上

と往通ふ人常は流るる以上道のり糸の真砂傳らるに

廣瀬の道と竹の林の蔭暗し芝生を春雪雨の降るるに

とや此をさしてゆかぬ地紙を張きあをいふ

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

とふくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

をねくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

糸平くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

のくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

遠近より羣來て土手は雙松隙々くくくくくくくくくく

のくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

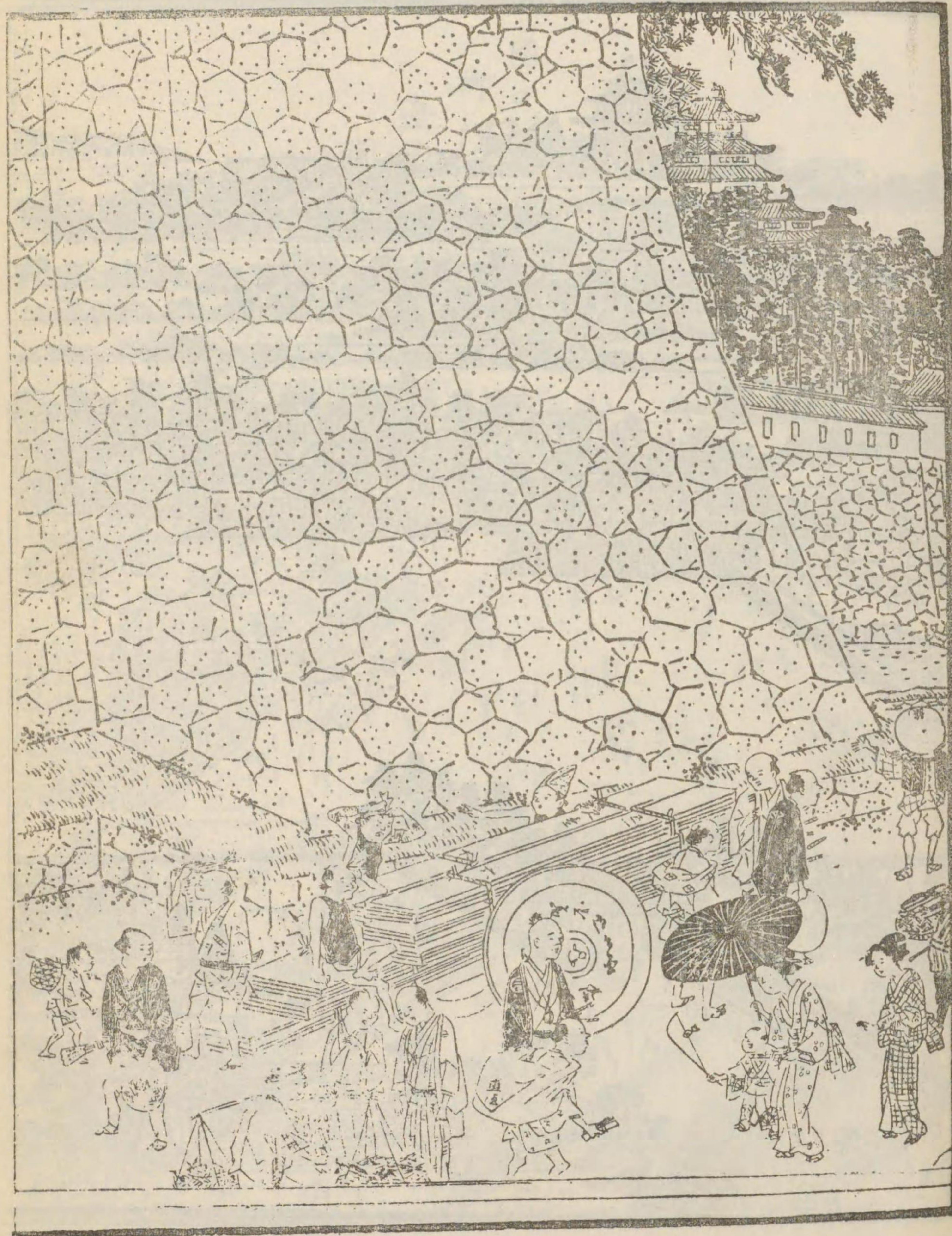
因よひ古の制諸國に軍團を建て各其地名を以て某の

團といひて卷首に載せる天平に解文に軍團の精天平元

年定精壹佰玖拾壹斛とくくくくくく即本國に團ふり國の

兵士弓馬に便なるを騎兵の隊と余ハ歩兵の隊といふ然ふ

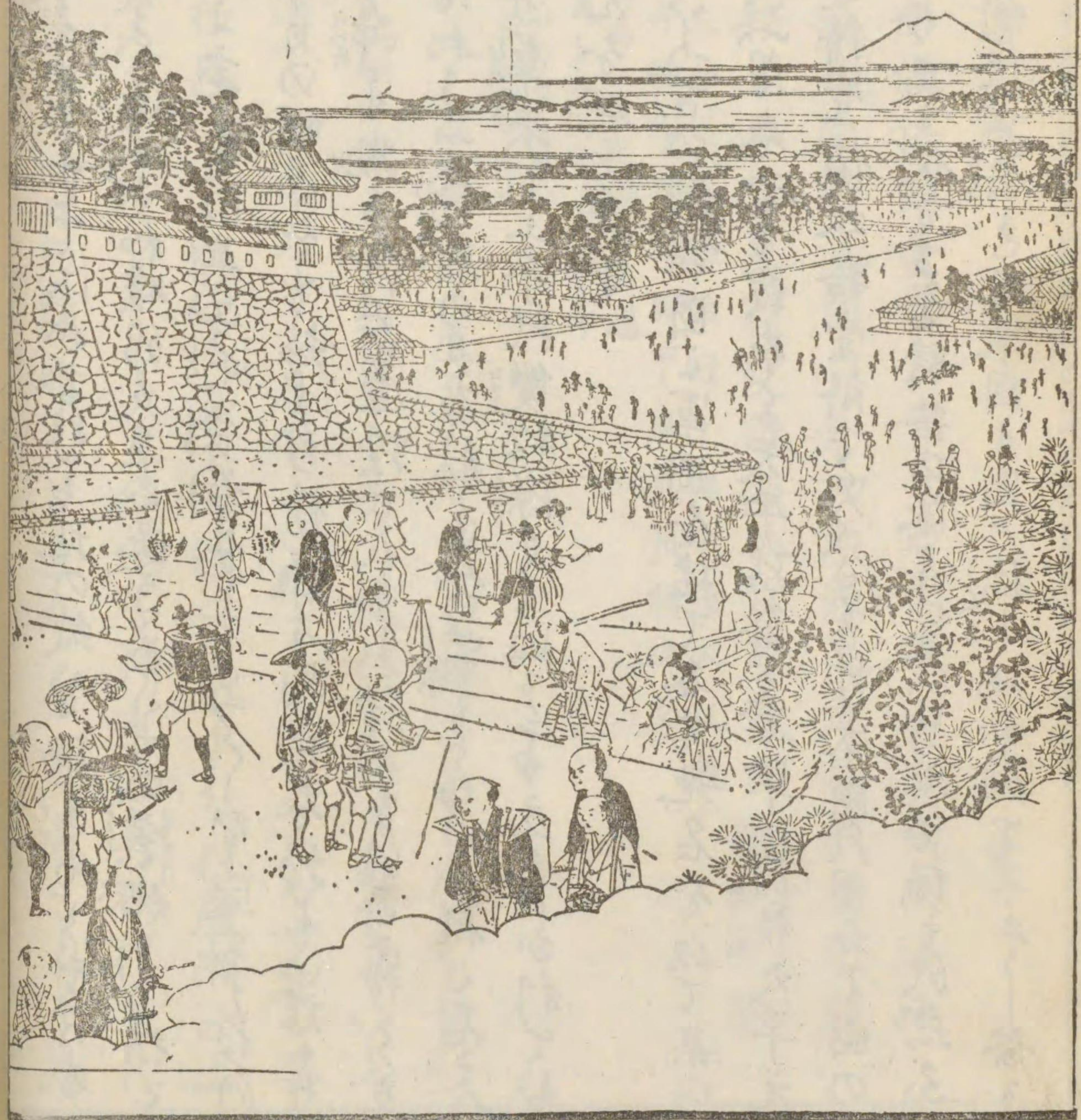
其制後世廢きて本國に團と稱し地今知りてくくくく按る



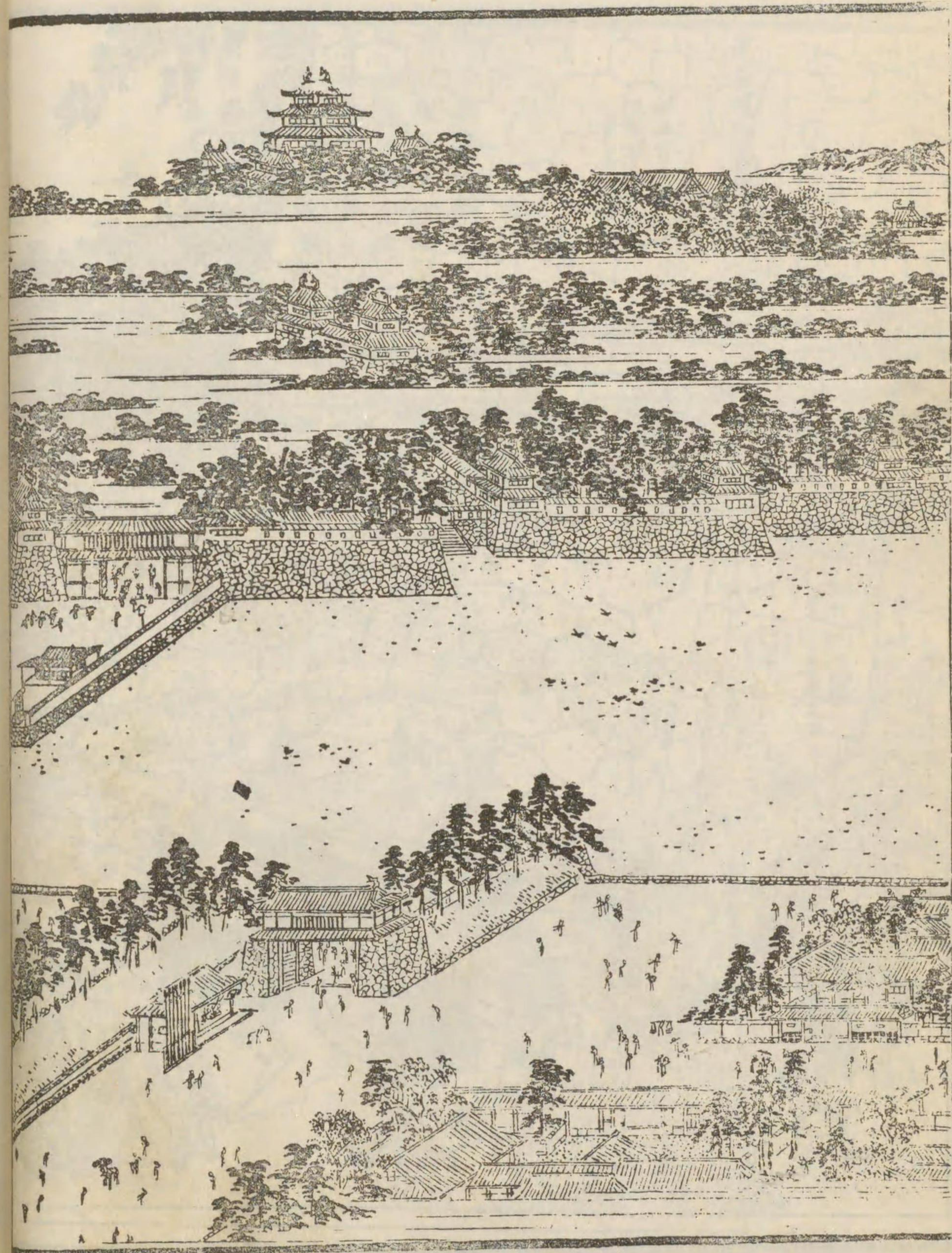
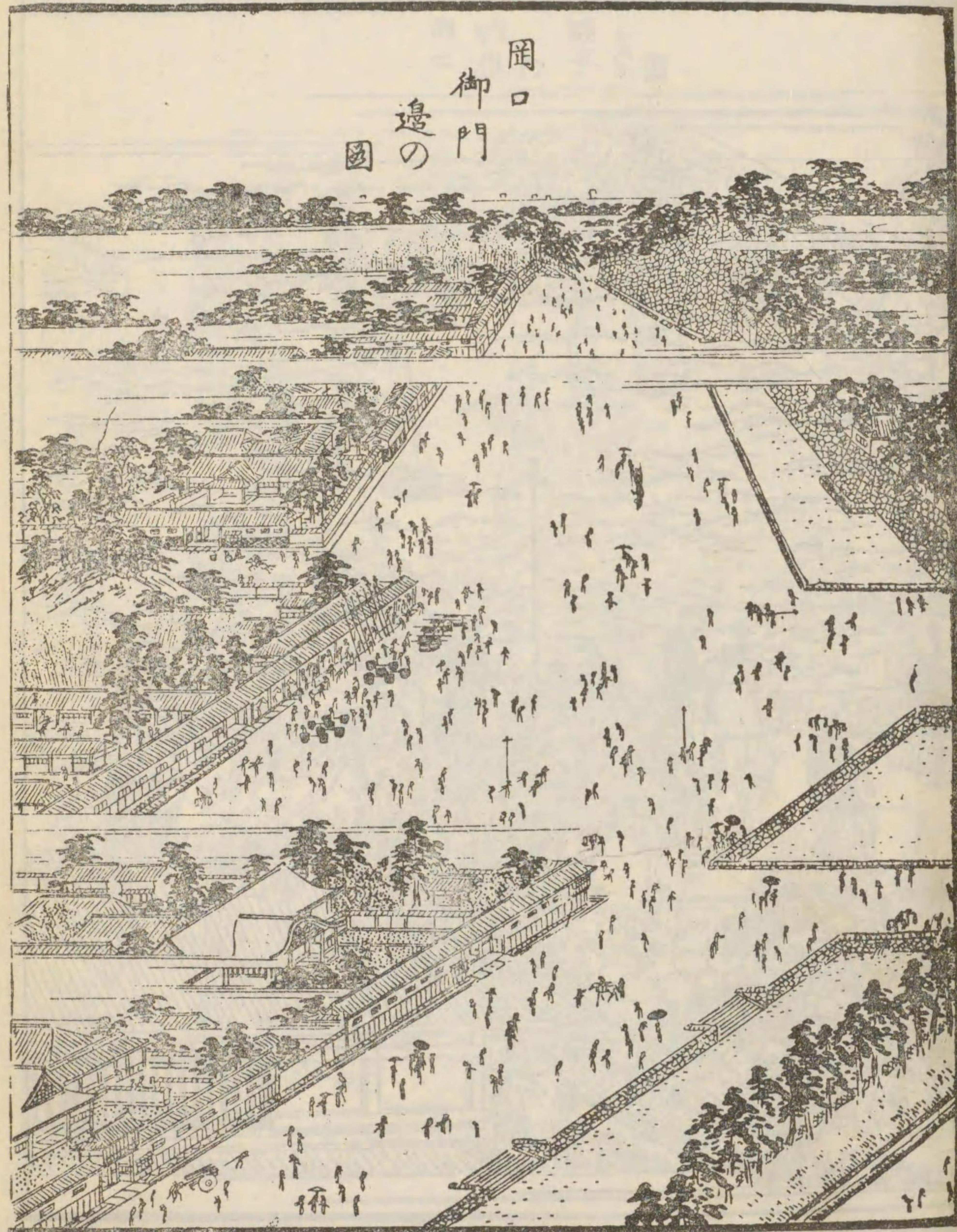
突兀閑闌氣勢雄
 鑿開超了五丁功
 風清壇埒朝調馬
 草綠平岡日試弓
 儀仗暗來松色際
 城樓影動水光中
 巖障偏訝非人力
 祖業真志名不空
 無名氏

高石垣の畧圖

此の石垣は
 伊都郡竜門山
 の石垣也

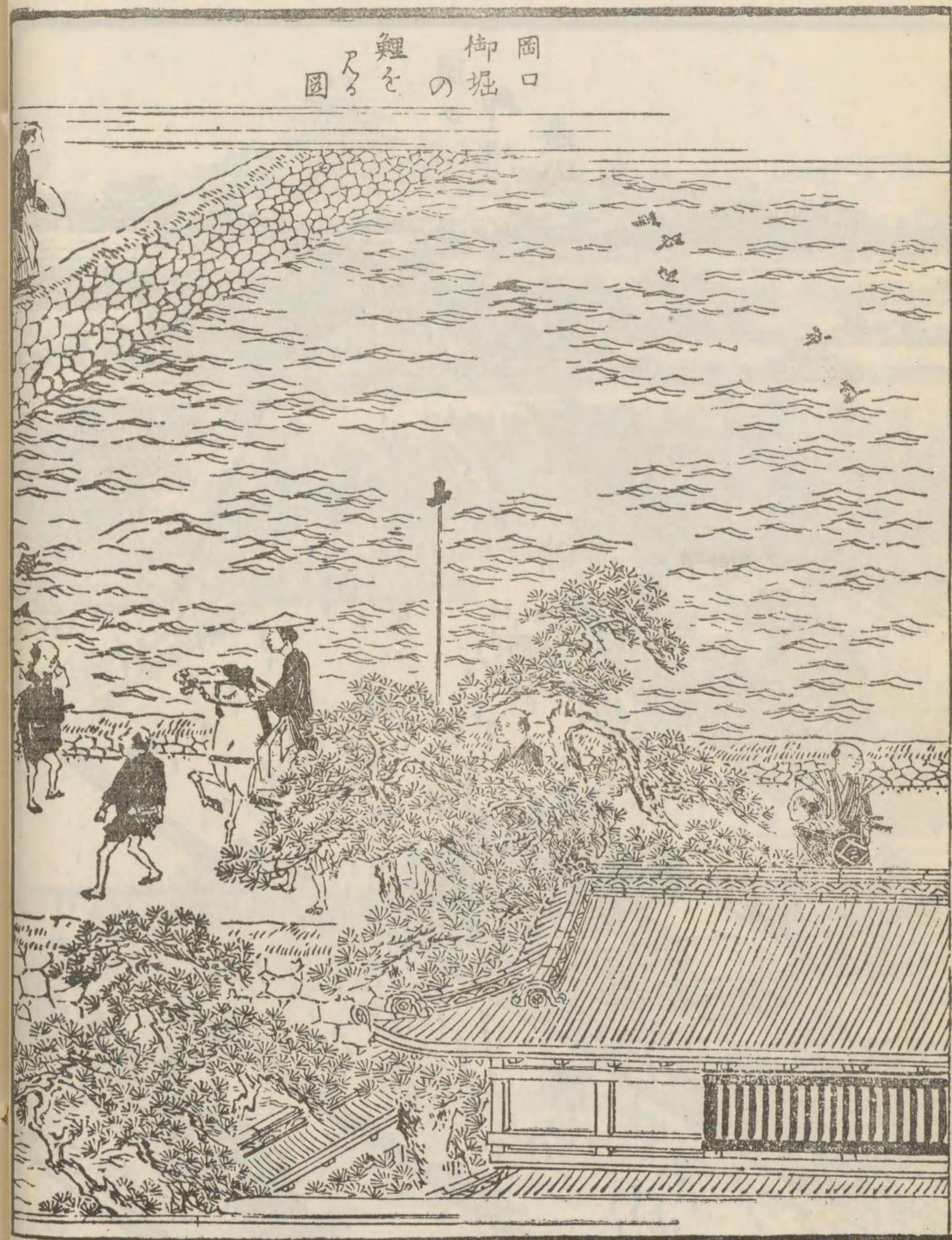


岡口
御門
邊の
園





岡御 鯉の堀
口



那賀郡荒川郷に辰村あり是古荒川團といひて大伴氏
 等代兵士武を講や一所なりし通音を以て辰村と改
 めしるなり一抑武事ハ天忍日命を以て祖と以其裔大伴
 佐伯の二氏に分る本國上古大伴氏の後名草那賀二郡小
 充滿なりハ武事盛なり人率初るなり其一二をい
 へく敏達天皇於仰世に宇治大伴連あり神龜元年大
 伴櫛津連子人あり天平神護元年大伴宿祢人あり
 寶龜年中大伴孔子古其子船主其子益継其子貞
 宗等あり皆古書に及ゆ又靈異記に沙弥信行を俗姓大
 伴連といひ續紀に大伴部押人の先祖を本國の人とあり
 其他仁壽四年の田券に伴宿祢元弘年中の文書に和
 佐又次郎大伴實村小倉孫十郎大伴兼綱等見えしり
 按るに源平盛衰記に粉川寺に開基孔子古を誤りて

大伴小手といひ小手ハ挾手彦の事をいへりて挾手彦ハ
 孔子古の祖先なり誤れるや或ハ佐手磨の誤り佐手磨ハ
 袖中抄に遣唐使大伴宿祢佐手磨記といふを引て天平
 勝寶二年紀伊國に歸者といへり是も亦本國の人なる
 なり又雄略に伊世新羅征伐小大伴談連及紀崗前未
 目連力戦を事蹟載せ崗前連ハ今名草郡岡崎郷の
 人がふへくれハ談連も本國より出り人なり古本姓氏
 録に大伴大田宿祢ハ天押日命十一世孫談連之後也とあり
 して大田の名和名鈔名草郡の郷名なりこれハ本國の地名
 とも起す所なりとく受ゆれハあり後世其裔種より別れ
 居所の名を以て苗字として本姓を忘す或ハ家系を失ひ或ハ
 漫り他姓を犯りて遂に其祖先を知らざるも多かり

高石垣

内郭の西に築たる石垣高さ數十丈故に
 高石垣の名あり石垣の上古松繁茂と利

岡口御門 内郭東の入口なり

城池鯉

大城を遠きる水玉松の緑を深き長久澄み汀に垂る
 石ハ辭滑^{こけり}して紋^{あざ}ある小^こ浪^{なみ}と静^{しず}き^ま當初^{まづ}往來^{ゆき}の人^{ひと}と鯉^{こい}能^よ
 浮^うつを^を見て^みて^て餌^えを^を與^{たま}へ^りし^り漸^しく^し巽^さの^の一隅^{ひとしほ}小^こ寄^よ來^きる^る鯉^{こい}年^{とし}
 一^{ひと}枚^{まい}その^のぬれ^ぬハ^ハ何^{なに}の^のは^はり^り賣^う餅^{もち}或^{ある}は^は焦^こる^る麦^{むぎ}など^{など}を^を以^もて
 ぐ^ぐ若^{わか}其^{その}傍^{わら}に^にり^りる^る店^{みせ}を^を構^{かま}り^り行^ゆ客^{きやく}志^しる^る愛^{あい}の^の休^{やす}
 ひ^ひて^て賣^う餅^{もち}を^をえ^えて^て水^{みづ}上^{うへ}に^に投^なま^まし^し二三^{さん}尺^{せき}も^も餘^あれ^る鯉^{こい}も^も其^{その}も
 なく^{なく}群^{ぐん}來^きて^て我^{われ}方^{かた}ら^らと^と喰^く喝^{かく}ハ^ハ或^{ある}ハ^ハ潑^{しやく}刺^しむ^むと^と争^あり^り小^こを^を以^もて
 戲^{あそ}む^むと^と丹^に生^{せい}川^{がわ}に^に盆^{ぼん}を^を沈^{しず}め^めて^て死^し何^{なに}泳^うの^の池^{いけ}乃^{すなは}故^ゆ事^{こと}を^を
 杯^{はい}の^のい^い知^ちし^し 冷齋夜話小東坡詩我識南屏金鯉魚西湖
南屏山興教寺池有鯉十餘尾金色道人齋
 餘^あ争^あ倚^よ檻^{らん}投^な餅^{もち}餅^{もち}爲^な 戲^あす^すと^と及^{およ}ぶ^ぶと^と争^あり^りし^し事^{こと}之^の
 和歌道 濑の東

南北も海も府下より和歌浦に至る本道なれば名も此邊惣名
 を吹上と云是より新堀を経て高松に至る此道ハ元和以後用り
 れ^れ所^{ところ}て^て列^れ松^{しょう}道^{どう}を^を挟^はり^りる^る直^ち道^{どう}乃^{すなは}古^こ道^{どう}ハ^ハ是^{こゝ}より^{より}西^{にし}へ^へ地^ち勢^{せい}
 大^{おほ}く^く變^かへ^へり^り永^{えい}兼^{けん}三^{さん}年^{ねん}岡^{おか}白^{はく}頼^{らい}通^{つう}公^{こう}高^{こう}野^の参^{さん}詣^ぎの^の歸^き路^ろ和^わ歌^か浦^{うら}遊^{ゆう}
 覽^{らん}記^き古^こ道^{どう}の^のい^いは^はを^を初^はり^りし^しれ^れハ^ハ因^より^り下^{くだ}に^に載^のせ^せ 前編より庵主記公任卿
家集の文がと併考す
 十八日癸未^{みづのひ}天^{あま}暗^{くら}卯^う刻^{とき}供^{たてまつ}御^ご膳^{ぜん}所^{ところ}々^々饗^あ饌^け了^{しま}令^し立^た
 御^ご宿^{しゆく}給^{たま}之^の間^ま召^よ國^{くに}司^し定^{さだ}家^け 此人傳不詳名草郡藥勝寺
下せる治曆の官符小據れに
 永^{えい}兼^{けん}二^に年^{ねん}本^{ほん}國^{くに}の^の守^{まも}り^り賜^{たま}御^ご馬^ば一^{ひと}匹^{びつ} 毛方^{かた}棹^{さう}華^か船^{ふね}迄^{いた}り^り木^き
 御^ご川^{がわ}尻^{しり}令^し下^{くだ}給^{たま} 川上より船よりて今の八幡堤
の邊より上陸され成り是^{こゝ}行^ゆ路^ろ之^の便^{べん}爲^な
 御^ご覽^{らん}吹^ふ上^{かみ}濱^{はま}和^わ歌^か浦^{うら}也^{なり}已^{こゝ}刻^{とき}之^の終^は者^{もの}御^ご湊^{みなと}口 此湊口と
いふハ大
 抵^た今^{いま}の^の宇^う治^ぢと^と濑^せ のほとりをよむなり御^ご馬^ば并^{なら}人^{ひと}々^々馬^ば共^{とも}遲^{おそ}將^{まさ}來^き間^ま光^ひ景^{かげ}欲^ほ
 願^{ねが}極^{たぎ}興^{きよう}難^{がた}抑^{おさ}仍^{なお}先^{まづ}召^よ國^{くに}司^し陪^{たが}從^{したが}近^{ちか}邊^へ所^{ところ}在^あ之^の馬^ば各^{おの}宛^宛
 騎^か用^{もち}先^{まづ}御^ご覽^{らん}吹^ふ上^{かみ}濱^{はま}朱^{しゆ}紫^し比^ひ袖^{そで}尊^{たう}卑^ひ争^あ行^ゆ于^{こゝ}時^{とき}蒼^{そう}海^{かい}

渺邈暗砂崖崑如登山似向慈嶺

湊より今福村を過ぎ西濱村関戸の如く卑きハ谷の如くあり故如登山似向慈嶺といふは夫より高松のわづら

和詞浦給翠松傾盖白浪洗蹄

是和母浦に至りて海辺の界にある松原を歴て淡辺

飽地勢殊感土宜之稟天然猶指點吹上之濱和歌

浦雖山邊之說柿本之詞合此地亦難矣加之按響

扣鞍爭拾色々貝之輩已不別老若各任志之及乘

興之餘殆忘日暮

夫より濱邊にて貝あり拾ひ玉津島の方へ

未剋還御御舩贄殿供御湯漬國司獻檜破子荷

御料次々皆申剋於木濱御馬自笠道山今通給

船とハ紀川を渡り給ふなり木濱ハ今の栄谷のありをいふなり

山中秉燭海濱伴月

里宮山無量光寺

大息寺の東あり

文政十二年徳本行者の徒弟官許を得て造立も行者を

推して當寺の開基と末寺五箇寺を附と堂宇尤壯麗

多て參詣多一日く專念此念佛懈

車坂稻荷社

大智寺境内山上あり

鎮坐の時歴詳なり近世奇瑞新して祈願の者多し其

願成就もろ及て必朱鳥居を建つと故に社頭まで一

二下の間幾筋ともなく大小数千基を列せしむ松林中

常小紅葉を觀るのこぞ

登大智寺山即更竹村狹渚

幽山腰夢避塵無一舉擲出半天月蟬娟

瀬の大橋其次に架れを以て町くの者西より南より出あひて
羣聚をなす寒風を凌ぎ競ひ走れは音搖邊に響け
て雷の轟くこと

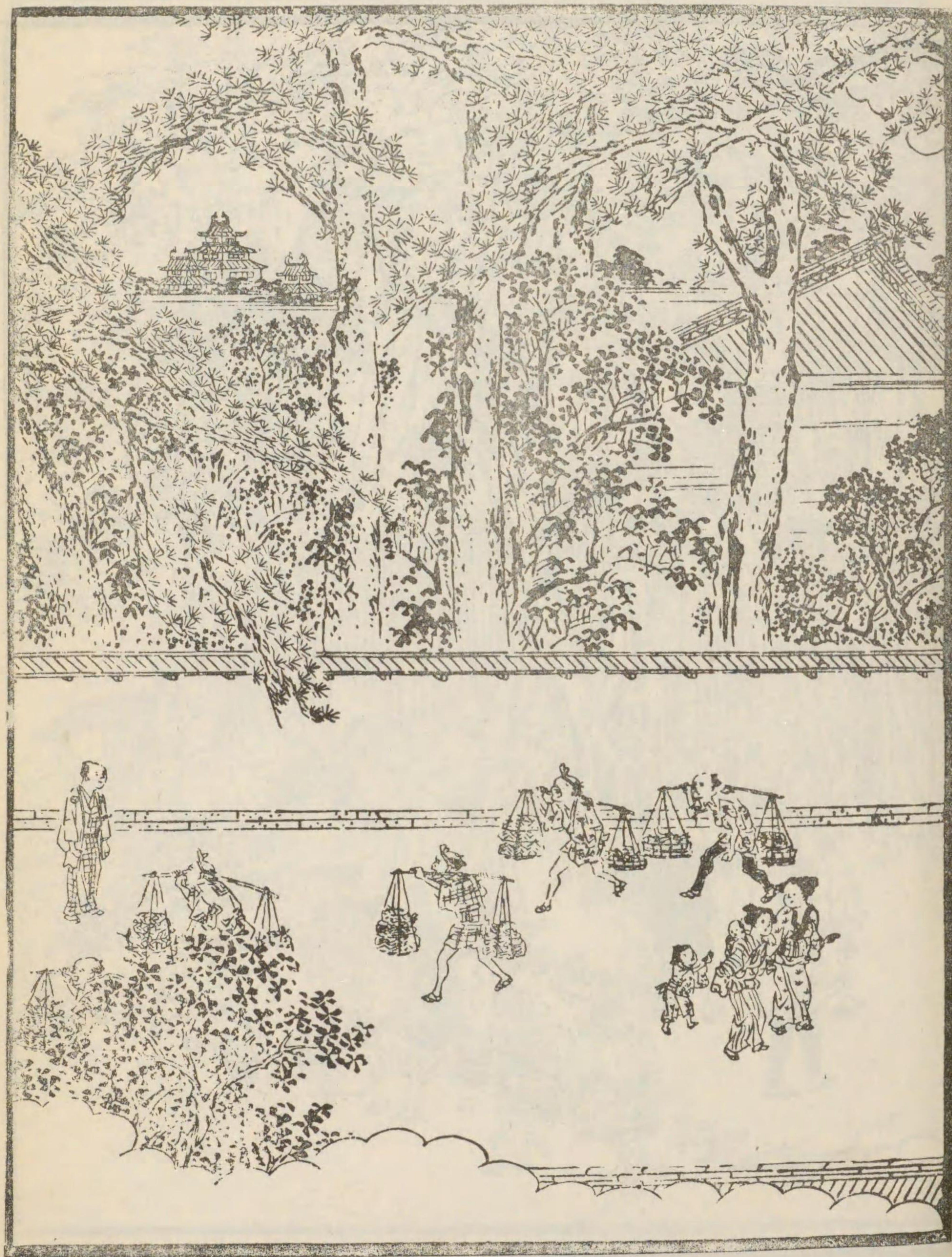
奈詣の儀志米繩をよきて
社頭杖に掛くことあり

因より日前國懸兩大神宮の御鎮坐等の事前篇誤多く先輩の説も區くがれと
釋日本紀より大倭本紀の傳正しく聞ゆまは今此りのとく國造家曆應比
欵状と合を考へ
まふ大畧を示し

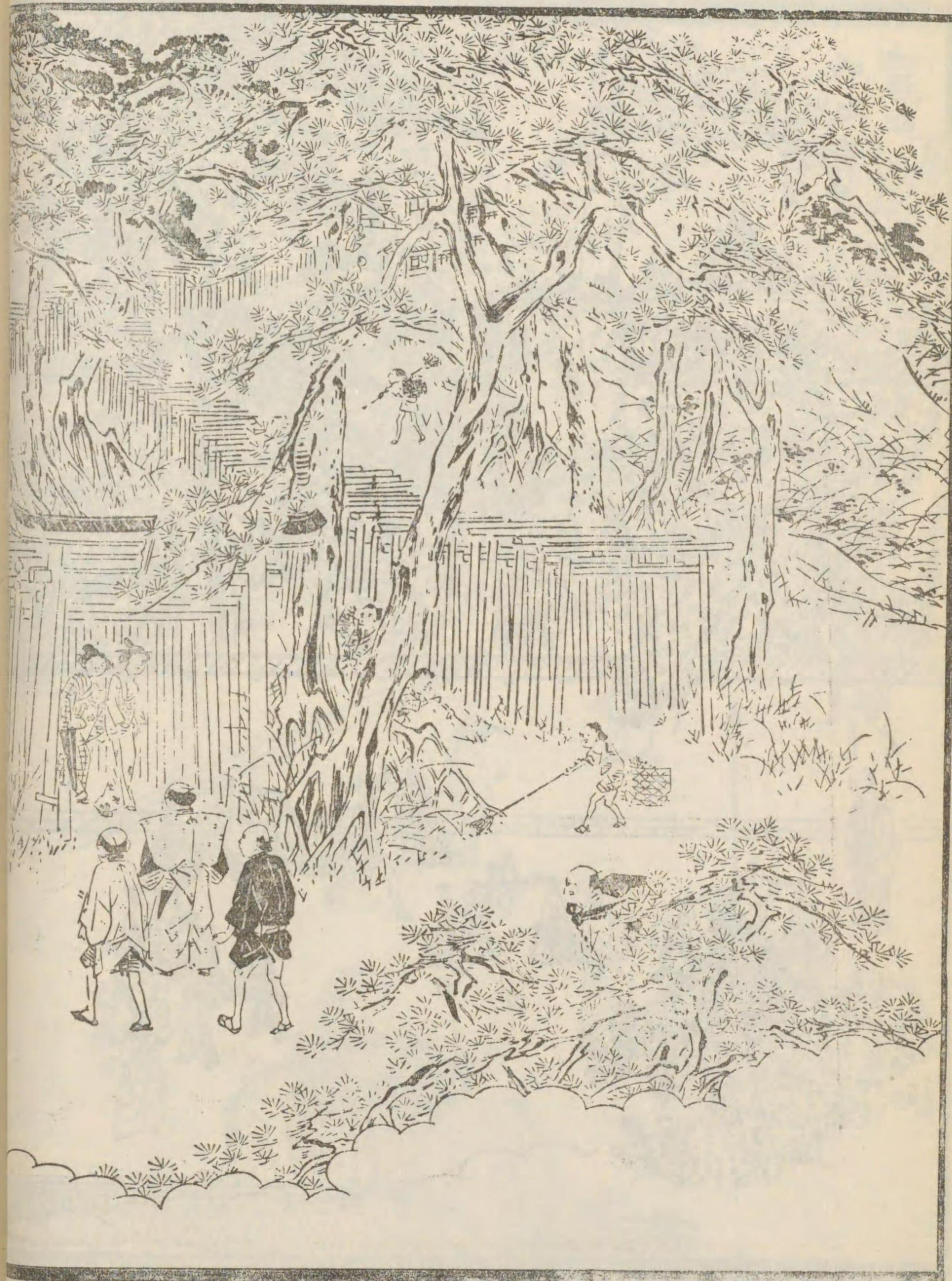
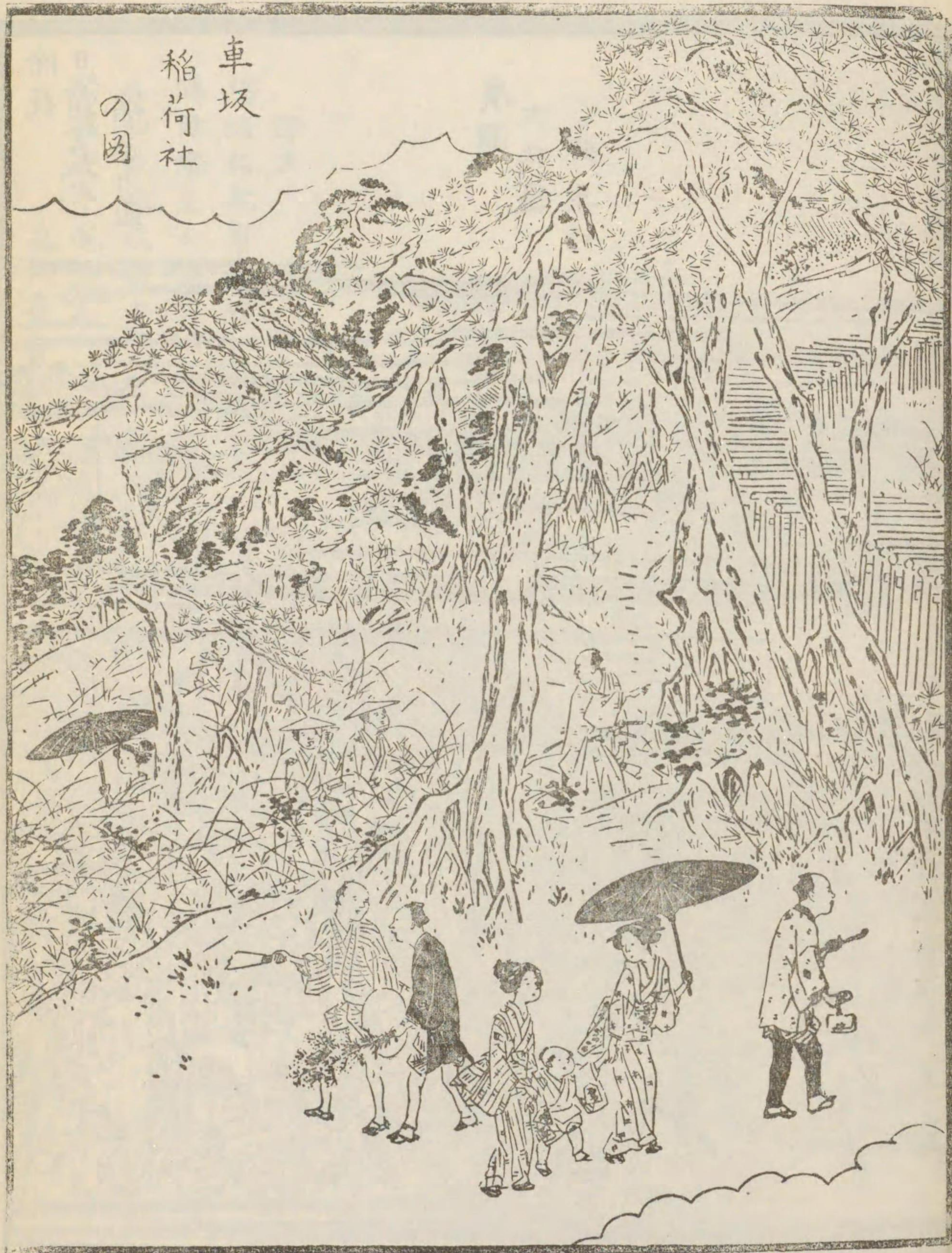
一書曰天皇之始ホリノ藝命天降來之時共副護齋
鏡三面子鈴一合也

本書註云一鏡者天照大神之御靈名天懸大神
也日前宮御靈是なり一鏡者天照大神之前御靈名國懸
大神國懸宮に御靈實日牙是也日牙を直し鏡
合意とあり内裏賢所に坐すも今紀伊國名草宮
御鏡あり故あり事なり今紀伊國名草宮
崇敬解祭大神也今兩宮の地是也一鏡及子鈴者天皇御
食津神朝夕御食夜護日護齋奉大神今卷向穴

師社官所坐解祭大神也寛永雜記より國造家
齋房と申せ
る稱ありとありハ天懸國懸と對て稱奉れる御名
なり然ふを天懸大神ハ地名の日前イノカミを以くとれハ
日前國懸兩大神の称起りより天懸大神の御名と
知る人なくある所ふを後世日前宮と稱奉り
て國懸宮をも兼する稱となすも古代遺称
より又國造家傳ふる曆應三年に欵状の草案
に謹考固實日前國懸之兩宮者天照皇神之前靈
也和光早ト南海之月崇敬年舊尊貌亦留北闕之
雲靈驗日新とんすれハ兩宮とも天照大御神に
幸靈におくより事知る魚一此文を證として
一鏡者天照大神之御靈とあるも前の字を補ふ
くくやれ考ふハ

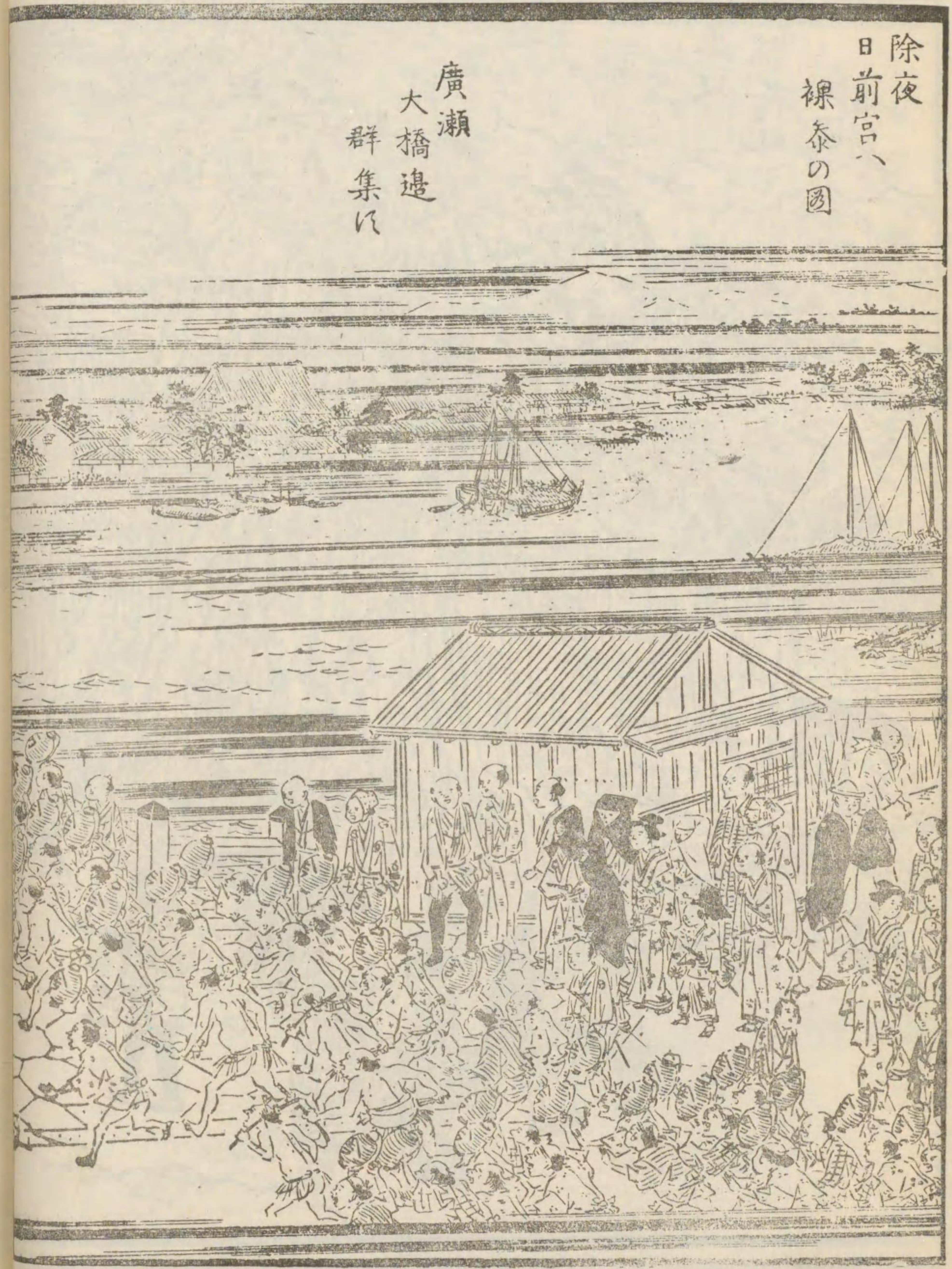


車坂
稻荷社
の圖

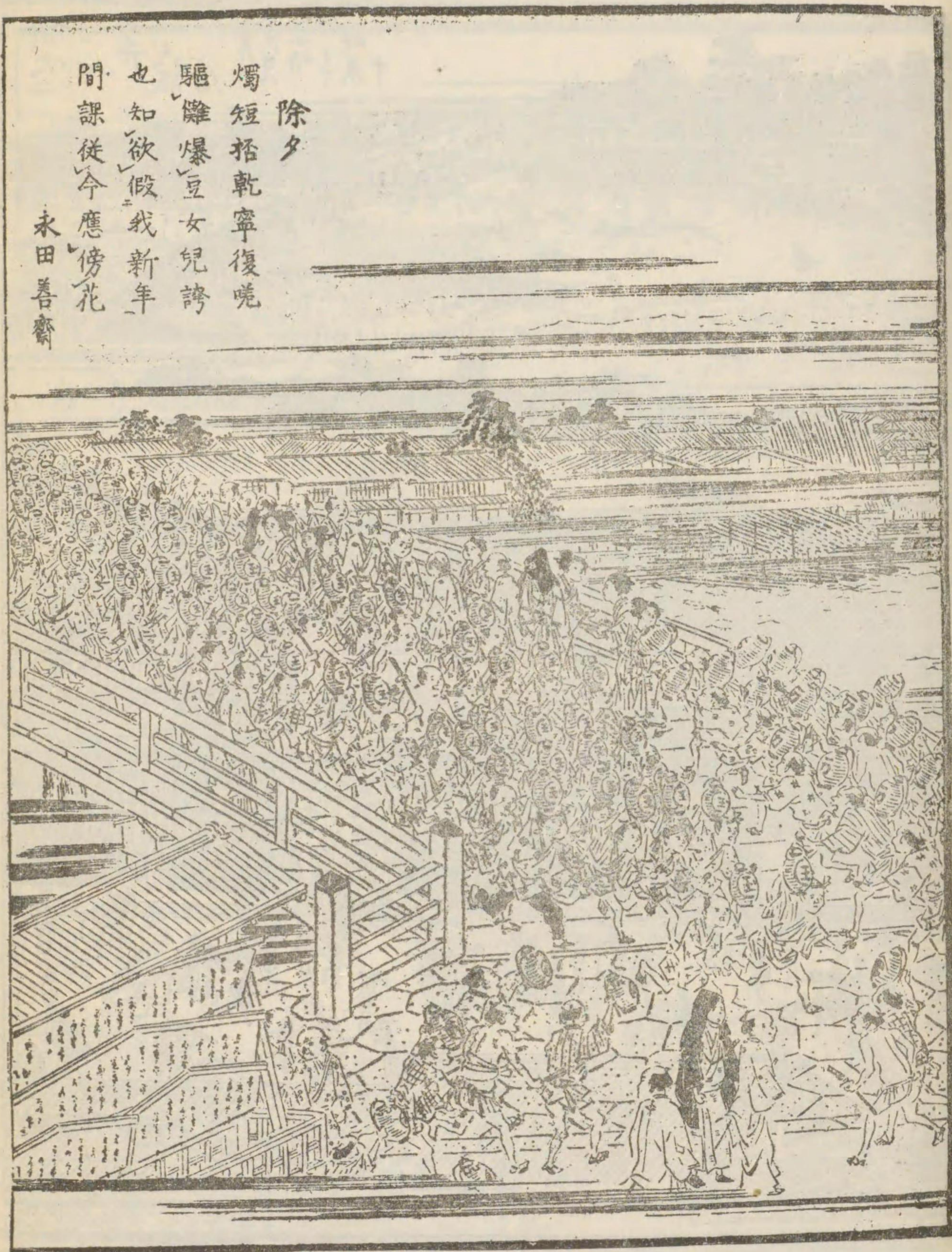


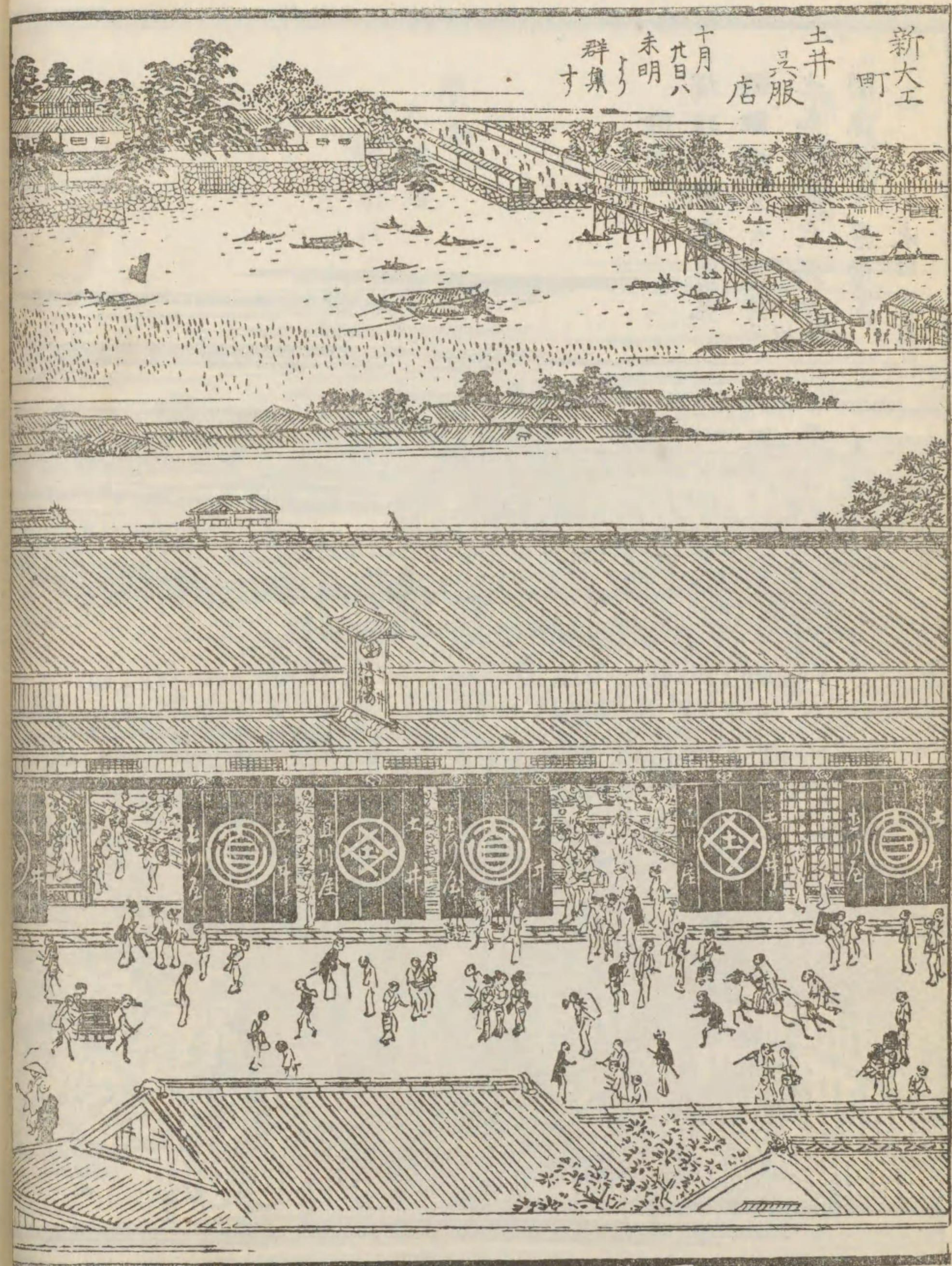
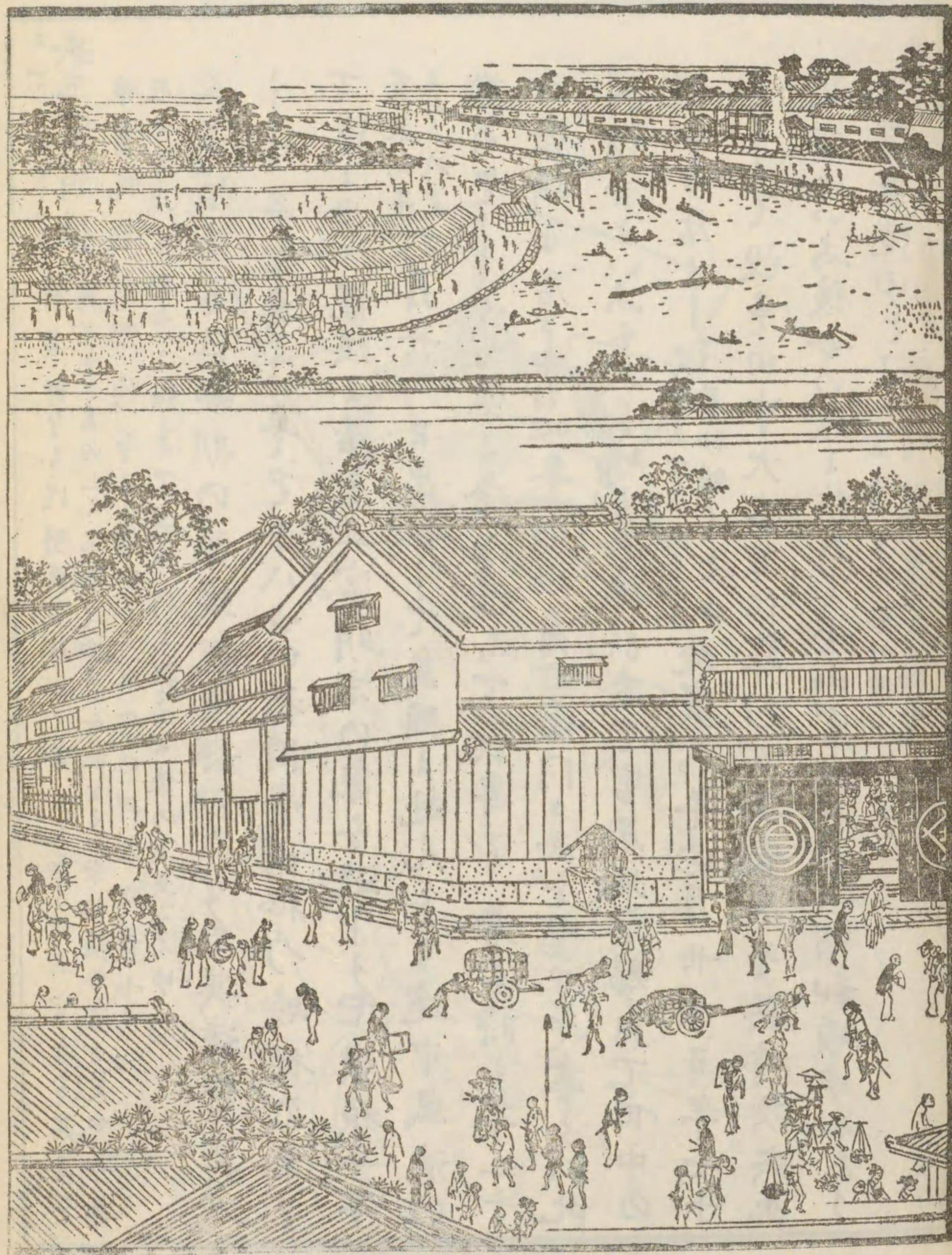
除夜
日前宮
裸参の圖

廣瀬
大橋邊
群集以



除夕
燭短拵乾寧復曉
驅離爆豆女兒誇
也知欲假我新年
間課徒今應傍花
永田善齋



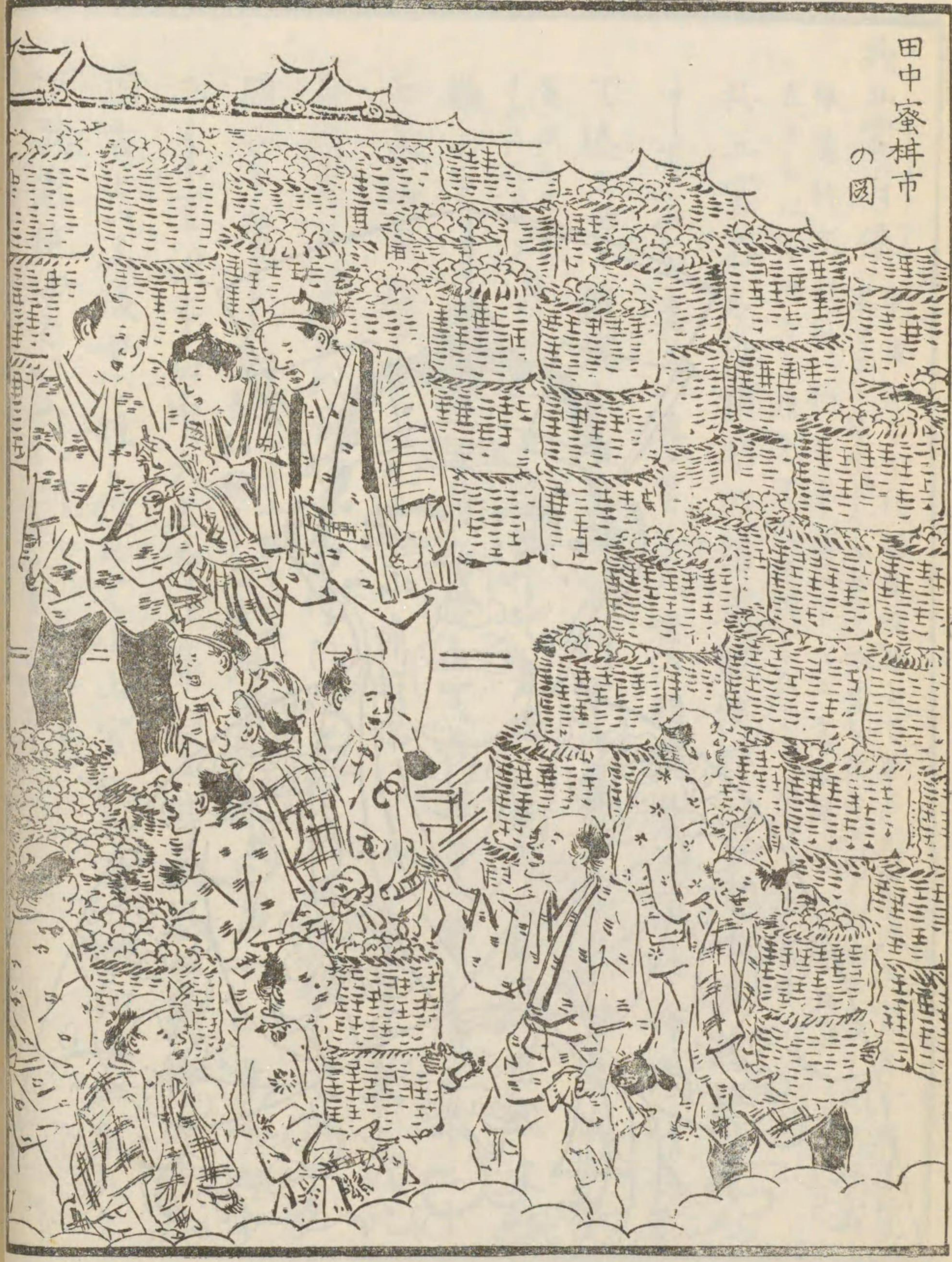


吳五官肖像

筆者詳かりし明画の跡にて筆力凡あり以五官自ら其真を
寫せるり像の上は生年ハ柳畧を記するハ李梅溪の書と尺也此画
像舊枕取村惣持寺に傳へり五官の碑大立寺小
在るを以て同寺に贈き其事ハ其像の下文に尺也

吳五官名を任顯明の福建龍溪縣の人なり其遠祖ハ吳人
として名を真といふ也十八世の祖隨帝南征乃時從り未也
て遂に世々龍溪に居る五官明末の亂を避りて崇禎五年
寛永九年六月廿一日出帆して皇國に赴んと途巾風波の
難ありし幸命を保ちて長崎に著り時年二十
七長崎に居る幸四年小山角右衛門の女を娶りて妻とい北
角清吉といふ也長崎に伴り來り官居地を賜りて田中の
園子に居る也今五官小路といふ
畧初編に尺也延寶六年正月廿四日年七十
三して没む田中大立寺に葬む其長男を吳傳次其弟
通古といふ後母の姓を改めて小山官記といふ明和頃ゆゑあり
て其家絶ゆといふ五官七十歳の時
自小便を書とる物あり





田中市 廣瀬大橋より東に達する町あり旧田疇の中、町家を建しより
 類殊多し蜜柑ハ本国の名産なり
 他は比類なき詳し在田郡の條より
 熊野路一里塚 熊向町より南に達するを八屋町とす町の南端あり府
 あり一里富町を築
 きて後くうけす

本宮まで路程并驛所

- 若山 一里半 内原 二里 加茂谷 一里半 宮原 一里半 湯浅 一里
- 井関 二里 原谷 二里 小松原 三里 仰南 三里 南部 二里
- 田邊 二里 三柵 二里 芝 二丁 高原 二里 近露 二丁
- 野中 四里 伏拜 一里 本宮 以上驛路を中邊地といふ其中間
 田邊より分きて海濱の方よりゆく
 城下の條に記す

紀伊國名所圖會後編卷一終

紀伊國名所圖會卷之壹之上

國号之專

當國の古くは國号の專に神代のむす素戔鳴尊の子五十猛命妹
 を大屋津姫命と云ふ大屋津姫命と号奉り凡そ三神は本國を分布す
 ちるが當國は渡すも本國の國号の專に當國の鎮座を座と
 以上日本神代卷の五〇五猛命一云大屋比古神と云名草郡東庄伊太神曾村といふ
 伊太神曾神は素戔鳴尊大屋津姫神社同郡平田并宇田あり都麻津比青神社同郡吉
 村あり極の三柱神を大屋比古と大屋比賣とを極津比賣と号奉り極の別是屋舎に
 造るるに主として大屋比賣と号奉り極の別は極の別あり
 其の三柱の神を此の神と云ふ所の神名なり ちるが本國の名の專に
 其後人代より元明天皇の御制に因て此の音の韻の伊を極と定りしなり
 和同六年の詔に畿内七道諸國乃郡名者好字と云ふに本國部
 邦は凡そ諸國部内郡里等名並に用二字必取嘉名と云ふなり
 城國爾不止將往來專社專依來西根專常言長柄 坂上忌寸人
 日 玉連閑卷惜惜夜矣袖可禮而一鳴將寐 柿本人麿





谷口烟霞歲月深 洞門竹處好 函尋白雲尚健

羽衣を満登松濤作鳳吟

常行の感應寺

南龍公の遺蹟なりは神功皇后の御願にて造られたり

本堂

南龍公の遺蹟なりは神功皇后の御願にて造られたり

高祖日蓮大士の金骨寶塔

鎮守七面大明神祠

西の山あり新入道は日蓮大士の御願にて造られたり

二十番神祠

鐘樓

經藏

千佛閣

本地院殿寢廟

位牌堂

本堂の御願にて造られたり

子洗丸區

夫當山の原古刹

高祖の宗風

高祖の宗風

延山の德勝

高祖の宗風

高祖の宗風

高祖の宗風

高祖の宗風

高祖の宗風

高祖の宗風

高祖の宗風

高祖の宗風

高祖の宗風

高祖の宗風

高祖の宗風

高祖の宗風

高祖の宗風

高祖の宗風

高祖の宗風

高祖の宗風

高祖の宗風

高祖の宗風

高祖の宗風

水の流るるごとく言下れ煥然たり一六五の皆感服したるは
衣と更めて終つては弟もも其及弘安年中此の檀
信某甲なるもの同じく延壽に堂を築く教に依りて
心あるべしと願ふを請はるるも其の如くありて
則龍泉寺は宗の始祖なりと云ふは其の如くありて
頼辰に在るべしと明るる中若越刑部なるもの如く
妙法と傳へて亡父の如く一箇の梵字を達創見して
則延壽の日朝する者よその如くあるもの如くありて
むら古れと傳へるもの如くありて我因法河國龍泉寺に
は其の廢壞なるべしと云ふも其の如くありて
を以て舊趾より其の再興を成すべしとありて刑部教
に其の如くありて其の再興を成すべしとありて

かどん 終日仲麻呂が水揚のしぬありともく其嘔吐してありも樂
戸の事さひしく今も養うるふに誠と志の地より入

勅使橋 橋向の町より新豊町へ架る

藤六所 新豊町より入山寺の間に在り

善見山金剛院の徳寺 新豊町より入山寺の間に在り

奉きも 回金郎童子 立像あり二尺

檜ざろふ 文武天皇太皇元年二月七日庚申の日揚州大王お

に善院民部僧都毫冠感得にろく青白き則の像と遊

まろる 曼別と加印の庚申とまろり金剛とまろりの最初と

ぞ又奉り文移の藤を茂應教文日史守庚申をえを御之

幽言世揚其餘は人傳其迹跡或至は夜不眠達明と

碎ざろふ人の顔をろ山ざろ

涼帝

永久山岩林寺般若院 日西の山に在り

祖師堂役行者 徳島縣徳島市に在り

寶珠山久成寺 徳島縣徳島市に在り

代神樂 徳島縣徳島市に在り

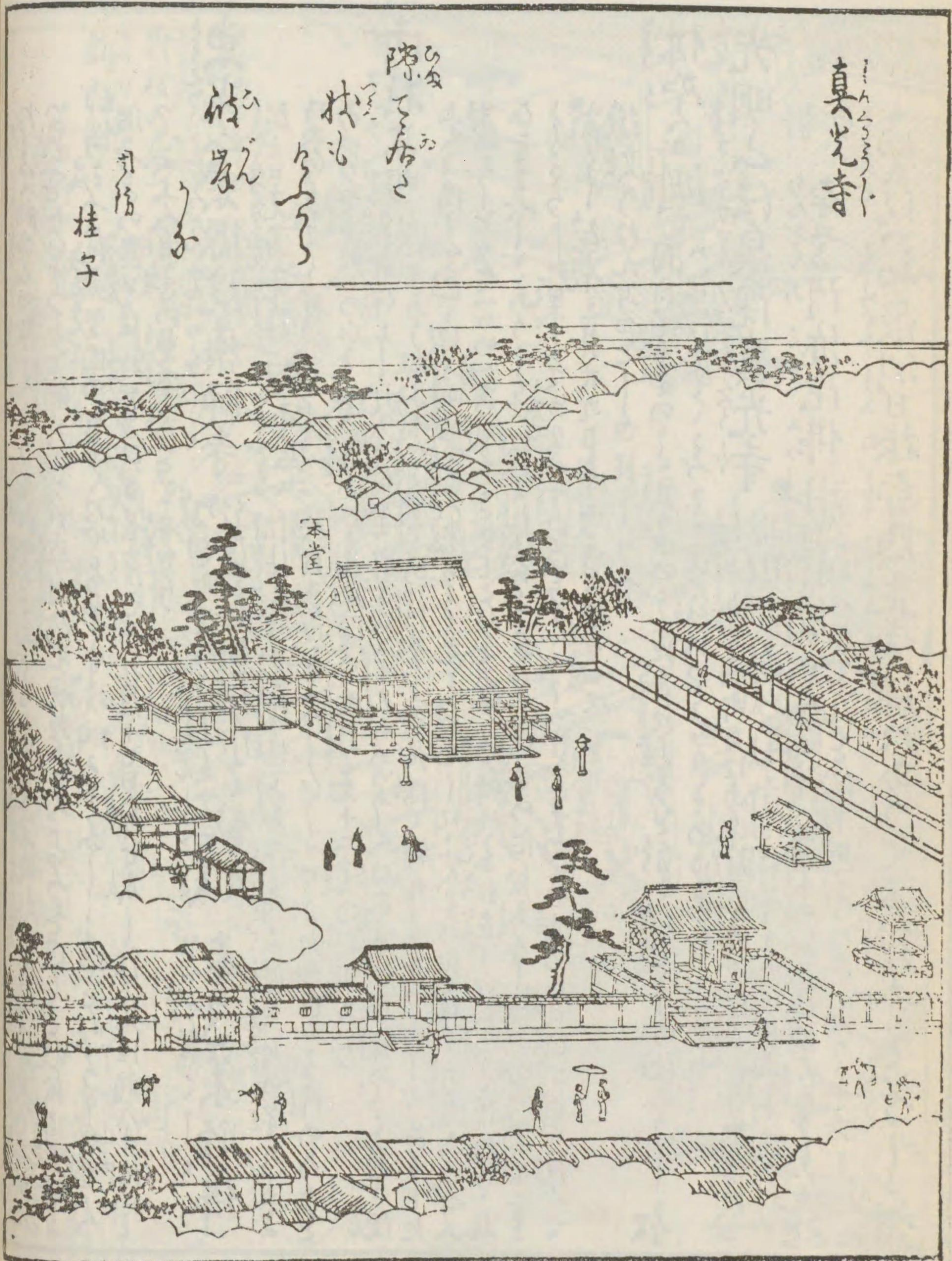
呉立宮小路 徳島縣徳島市に在り

廣瀬山無辺院大土寺 徳島縣徳島市に在り

奉きも 藥師佛 徳島縣徳島市に在り

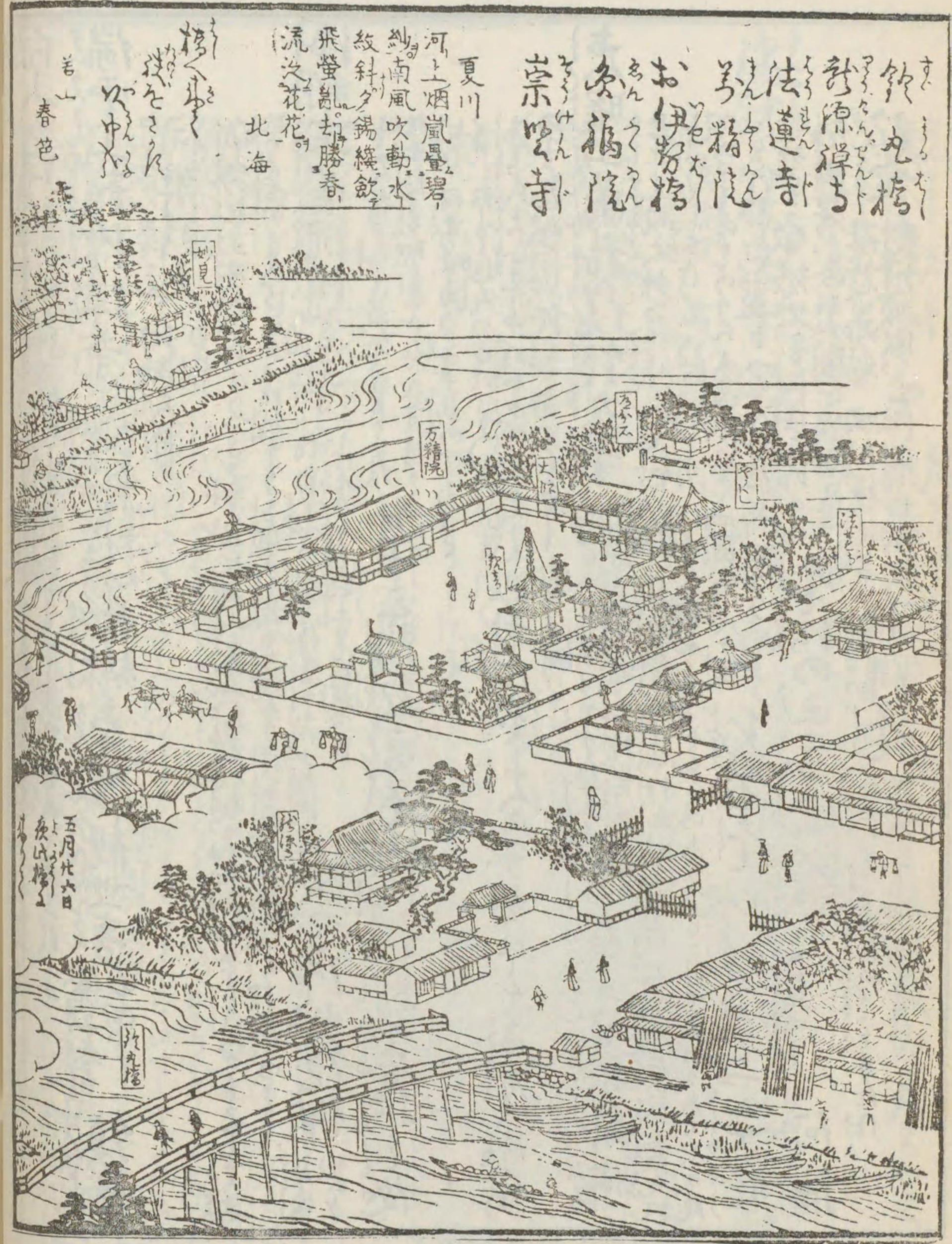
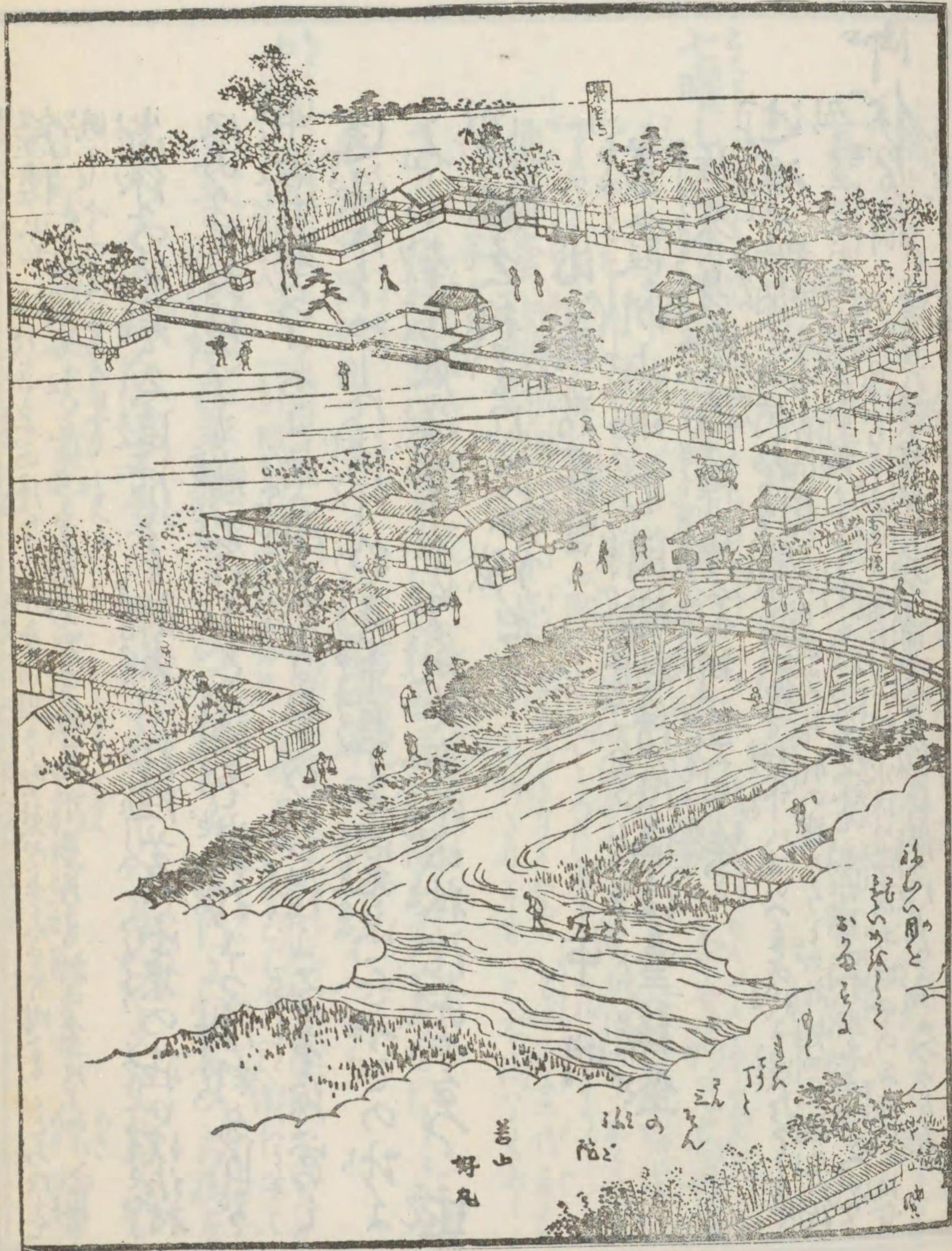
奉きも 河弥陀佛 徳島縣徳島市に在り

真光寺



階
松
竹
桂子

宗の大徳藍より一々仁四年奉願寺第三世の相承免か上人
組師の信傳と編りたるんを中田跡をあらうたまひのたはる
彩夜吹上の酒風一見したるのたはる住来もふあゆみは投
宿ましくつづくに他カ奉願の真首瓜を原考と諺ひりて
筆にね悟し乍ら旧條の石塔を移上人の後考とあらうと宗
を奉りて中真の因縁をたきとふ文明八年あち第八代は
はのんたふりてさか上人あ園に導のたあゆいし市掩及
ましくけるゆ四ををらうと光明は法泉院とあらうの号瓜
賜人其後上文中證か上人は下向のたはる抄を留し清供も信
難貨の庄をゆけむにたきとふ光とつとと新建た身と定家
年中送賞のたはるあまのたはるあまのたはるあまのたはる
日根郡嘉祥寺道園海部郡宇治村真光寺もあちの楫
所々々々々々居持をらうのたはる法印源考中真とてよる遠ふ



宗聖寺
 伊勢
 法蓮寺
 新源禪寺
 欽丸橋

夏川
 河上烟嵐暈碧
 紗南風吹動水
 紋斜夕錦縹飲
 飛螢亂却勝春
 流浪花花
 北海

五月廿六日
 辰山橋上

